

知多厚生病院 | 年報

(令和元年度)

知多厚生病院 | 年報

(令和元年度)

発刊にあたり

知多厚生病院 院長 水野 志朗



知多厚生病院は、1964年（昭和39年）6月に愛知県厚生連9番目（当時）の病院として開設され、以後知多半島南部における急性期医療と救急医療の拠点病院として診療に携わってまいりました。平成11年からは知多半島医療圏の第二種感染症指定医療機関、平成14年からは篠島や日間賀島など離島医療を支援するへき地医療拠点病院、平成16年からは臨床研修指定病院、平成19年からは災害拠点病院に指定されるなど、知多半島南部の公的医療機関として重要な責務を果たしております。

当院の主な診療圏である美浜町・南知多町では、愛知県の平均よりも人口減少・少子高齢化が大きく進行しております。また、この地域の各医療機関では医師の高齢化も進み、医療の確保が難しくなってくることが予想されています。

令和元年度は、新元号初年度として日本国にとっても新たなスタートとなった年でしたが、我々知多厚生病院にとっても平成30年12月に実施した病床機能見直しによる病床再編直後でもあり、新しい時代の幕開けにふさわしい年度となりました。特に病床利用率は、5月に実施した「ベッドコントロールワークショップ」にて、職員の思いを共有化した結果、年度通計92.0%とめまぐるしい変化を遂げました。病床再編の効果は、病床利用率の向上だけでなく、医療・看護必要度の上昇や在院日数短縮による単価上昇など、経営面のみならず急性期病棟に必要な基準達成にも寄与しました。また、経営面では、回収額前年差126,784千円の改善となり、職員にとっても今後の飛躍を示唆する大きな自信に繋がりました。

しかしながら、先述の少子高齢化がもたらす影響は依然不透明であり、今後は地域包括ケアシステムの構築を前提とした近隣関係機関との更なる連携体制構築とともに、当院の役割を改めて明確化する自己改革に取り組む必要性を感じています。

知多厚生病院は『保健・医療・福祉の活動を通じて、地域住民が安心して暮らせる地域社会づくりに貢献する』という病院理念に基づき、地域とともに地域を考え、『Aging in Place 知多半島モデル』を構築し、さらにこの地域の一員として『まちづくりの拠点』としてもお役に立てますよう、職員一同全力を尽くし取り組んで参ります。今後とも皆様のご指導とご支援を宜しくお願い申し上げます。

令和2年5月

目次

1. 発刊にあたり

2. 病院基本情報

理念・基本方針	1
病院概要	2
病院沿革	4
組織・機構図	6
会議・委員会組織図	8
令和元年度事業計画	9

3. 統計資料

職員数推移	13
過去3か年の推移	14
診療科別延べ患者数	14
科別時間外患者取扱数	15
市町村別時間外患者取扱数	15
市町村別時間外患者 救急車搬入件数	15
診療科別在院延べ患者数及び新入院患者数	16
診療科別退院患者数及び平均在院日数	17

4. 診療科別医療実績

内科	21
小児科	24
外科	25
整形外科	28
脳神経外科	30
皮膚科	32
泌尿器科	33
産婦人科	34
眼科	36
耳鼻いんこう科	38
麻酔科	40

5. 部署別業務実績

放射線技術科	43
臨床検査技術科	48
リハビリテーション技術科	52
臨床工学技術科	54
栄養科	60
薬剤部	62
看護部	64
医療安全管理部	71
感染制御部	73
事務部	75
医療情報部	84
保健事業部	85
地域医療福祉連携部	88

6. 委員会活動報告

篠島診療運営委員会	105
手術部運営委員会	105
放射線運営委員会	106
救急・診療委員会	106
健康管理支援センター運営委員会	107
臨床検査技術科運営委員会	107
栄養管理委員会	108
保育所運営委員会	108
生活改善センター運営委員会	109
母子支援センター運営委員会	109
地域医療福祉連携センター運営委員会	110
リハビリテーション科運営委員会	110
資材委員会	111
倫理委員会	111
治験審査委員会	112
購買委員会	112
医療安全対策委員会	113
安全衛生委員会	113
防災対策委員会	114

院内感染対策委員会	114
廃棄物管理委員会	115
輸血療法委員会	115
医療ガス安全管理委員会	116
広報委員会	116
教育研修委員会	117
臨床研修管理委員会	117
臨床研修委員会	118
患者サービス向上委員会	118
医療情報システム委員会	119
診療情報管理委員会	119
コンプライアンス委員会	120
在宅療養支援委員会	120
人事考課制度推進委員会	121
クリニカルパス委員会	121
栄養・スキンケア委員会	122
糖尿病教育委員会	122
肝臓病教育委員会	123
摂食・嚥下障害委員会	123
緩和ケア委員会	124
化学療法委員会	124
権利擁護対策委員会	125
D S T 委員会	125
A C P 委員会	126
経営改善委員会	126
病床運営管理委員会	127

7. 委員会活動報告

患者教室・院内講座	131
学会・研究会発表	134
院外講演会・勉強会講師	137
論文・雑誌掲載	141

病院基本情報

理念・基本方針	1
病院概要	2
病院沿革	4
組織・機構図	6
会議・委員会組織図	8
令和元年度事業計画	9

知多厚生病院 理念

私たちは保健・医療・福祉の活動を通じて、地域住民が安心して暮らせる地域社会づくりに貢献します。

知多厚生病院 基本方針

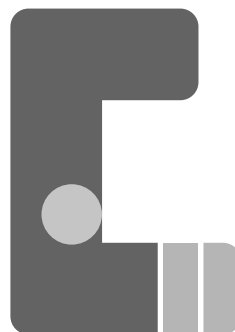
- 1、地域住民のニーズに応える診療体制の充実に努めます。
- 1、救急医療・災害医療の充実に努めます。
- 1、医療技術と接遇向上に努めます。
- 1、患者の権利とプライバシーを尊重し、安全で快適な、患者中心の医療サービスを提供します。

●ロゴマークについて

ロゴマーク全体で、知多厚生病院（Chitakosei Hospital）の頭文字“C”と、知多半島を表しています。

また、右下の2つの四角は、篠島・日間賀島を、丸は、知多半島における当院の位置を表しています。

全体として、知多半島をイメージさせる海・空の色である明るい青を基調に、開放感・希望を、知多半島全域で盛んな農業（JA）をイメージさせる明るい緑は安心・安全・癒しを、美浜町を中心に栽培が盛んなみかんや、太陽をイメージさせる明るいオレンジは、躍動感・歓喜・溢れる生命感を表しています。



知多厚生病院 概要

令和2年3月31日 現在

名 称

愛知県厚生農業協同組合連合会 知多厚生病院

所在地

〒470-2404

愛知県知多郡美浜町大字河和字西谷81番地6

TEL 0569-82-0395

FAX 0569-82-4333

E-MAIL c-hospital@chita.jaaikosei.or.jp

ホームページ <https://chita.jaaikosei.or.jp>

設立年月日

昭和39年6月1日

病床数

259床（一般199床（地域包括ケア病棟42床含む） 療養54床（医療15床・介護39床） 感染症6床）

診療科（25科）

内科・呼吸器内科・循環器内科・消化器内科・糖尿病内科・神経内科・血液内科・小児科・外科・消化器外科・乳腺外科・肛門外科・内視鏡外科・血管外科・整形外科・リウマチ科・脳神経外科・皮膚科・泌尿器科・産婦人科・眼科・耳鼻いんこう科・リハビリテーション科・放射線科・麻酔科

各種指定

救急告示病院、地域災害拠点病院、へき地医療拠点病院、臨床研修指定病院、
労災指定医療機関、母体保護法指定医療機関、生活保護法指定医療機関、
指定自立支援医療機関、更生・育成医療指定医療機関、養育医療指定医療機関、
性病予防法指定医療機関、被爆者一般疾病指定医療機関、健康保険法指定医療機関、
国民健康保険指定医療機関、第2種感染症指定医療機関、指定介護療養型医療施設、
肝疾患専門医療機関、病院群輪番制病院、特定疾病治療研究医療機関、
小児慢性特定疾病治療研究医療機関、愛知DMAT指定医療機関、
人間ドック健診施設機能評価認定、医療被ばく低減施設認定

関連施設

知多厚生病院健康管理支援センター
知多厚生病院介護保険センター
南部知多訪問看護ステーション
知多厚生病院附属篠島診療所

管理者

病院長： 水野 志朗
副院長： 脇田 郷、高橋 佳嗣、丹村 敏則、村元 雅之
第1診療部長： 村元 雅之 第2診療部長： 富本 茂裕
診療協同部長： 福島 庸行 医療情報部長： 中塚 雅雄
薬剤部長： 齋藤 宏明 看護部長： 近藤 貴代
地域医療福祉連携部長： 近藤 貴代 事務部長： 池田 智志

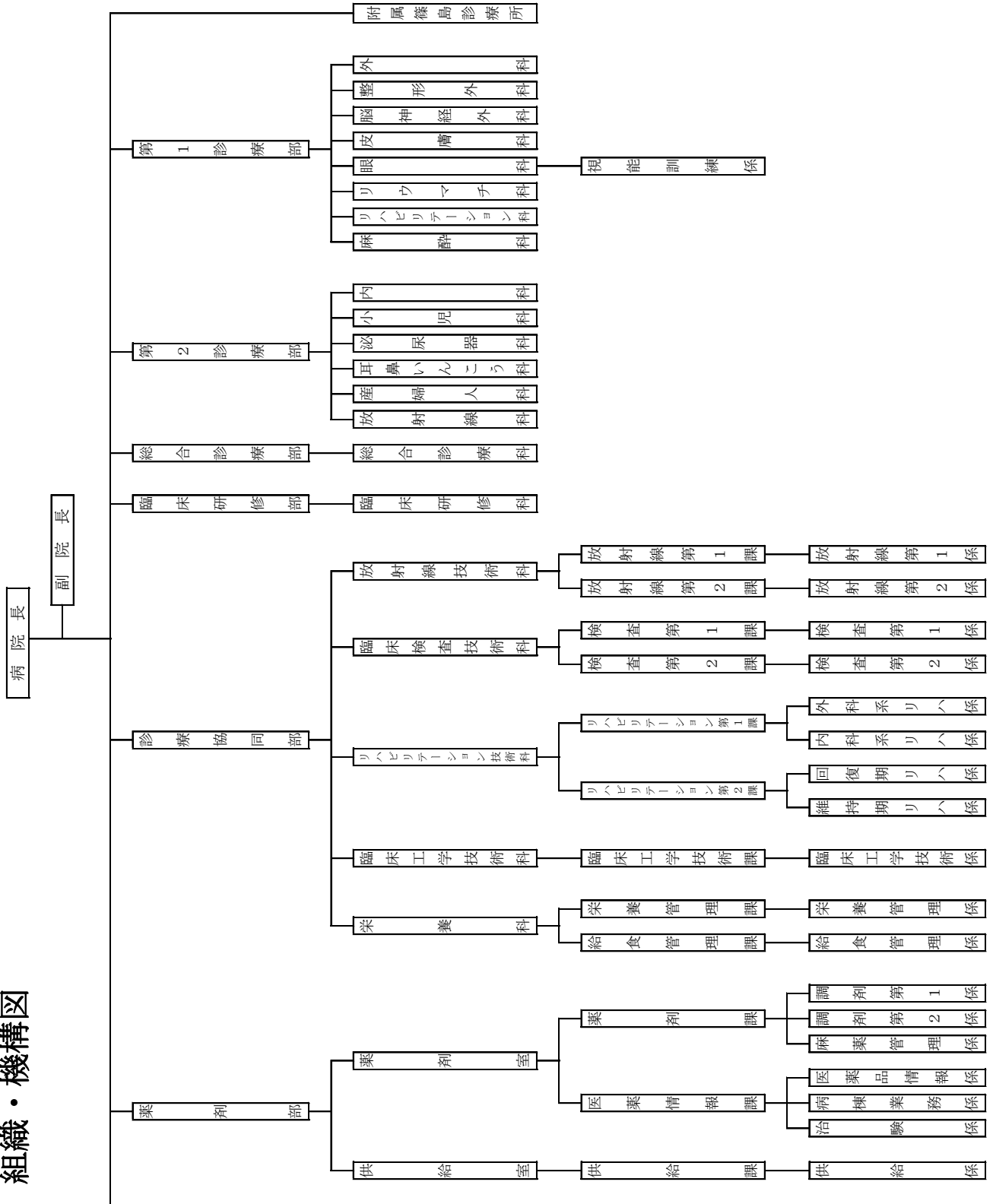
知多厚生病院 沿革

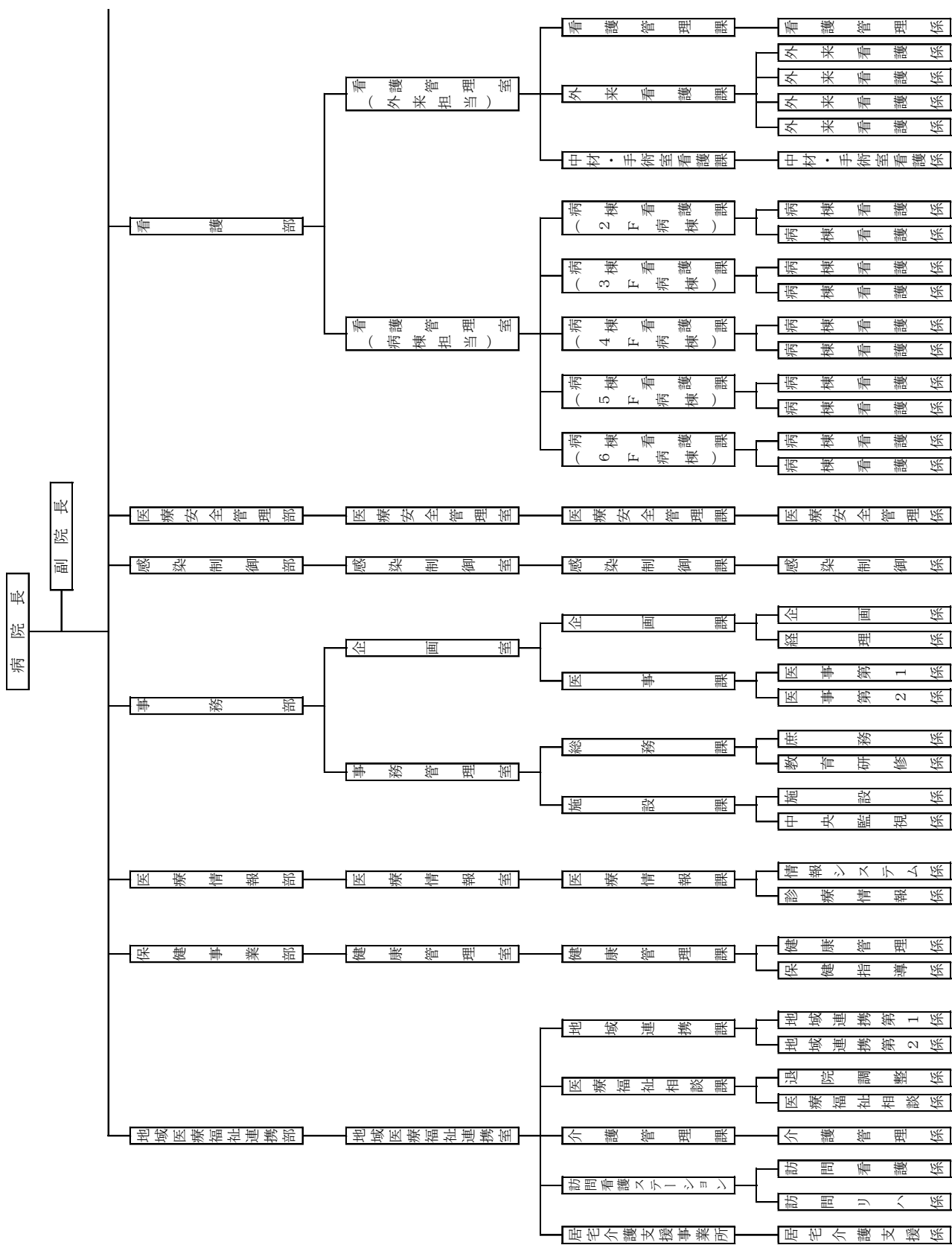
令和2年3月31日 現在

昭和38年	3月	知多郡美浜町河和に厚生連病院建設決定
昭和39年	6月	知多厚生病院診療開始 内科・外科・産婦人科・眼科・耳鼻咽喉科 病床数 113床
昭和42年	3月	美浜町・南知多町伝染病組合伝染病舎24床併設 (病床数 137床)
昭和43年	10月	病棟増築 (病床数 179床)
昭和49年	7月	救急医療施設開設 整形外科開設 病棟・リハビリ棟増築 (病床数 217床)
昭和54年	2月	総合病院として認可
昭和55年	6月	厨房の整備 病棟増築 (病床数 222床)
昭和57年	3月	診療棟増改築
	4月	小児科開設
	6月	皮膚科開設
昭和58年	1月	放射線科開設
	2月	病棟増改築・伝染病舎改築 (病床数 277床)
平成3年	10月	知多厚生病院附属篠島診療所開設
平成6年	4月	脳神経外科開設
平成8年	4月	泌尿器科開設
平成9年	10月	南部知多訪問看護ステーション開設
平成10年	3月	病棟改築 (病床数 一般260床・伝染8床)
平成11年	4月	第2種感染症指定医療機関指定 (病床数 一般260床・感染6床)
平成11年	10月	居宅介護支援事業所 知多厚生病院介護保険センター開設
平成14年	2月	療養型病床開設 (病床数 一般212床・療養48床・感染6床)
	4月	へき地医療拠点病院指定
平成15年	5月	病床区分変更 (病床数 一般206床・療養54床・感染6床)
	10月	臨床研修病院指定
平成16年	5月	オーダリングシステム稼働

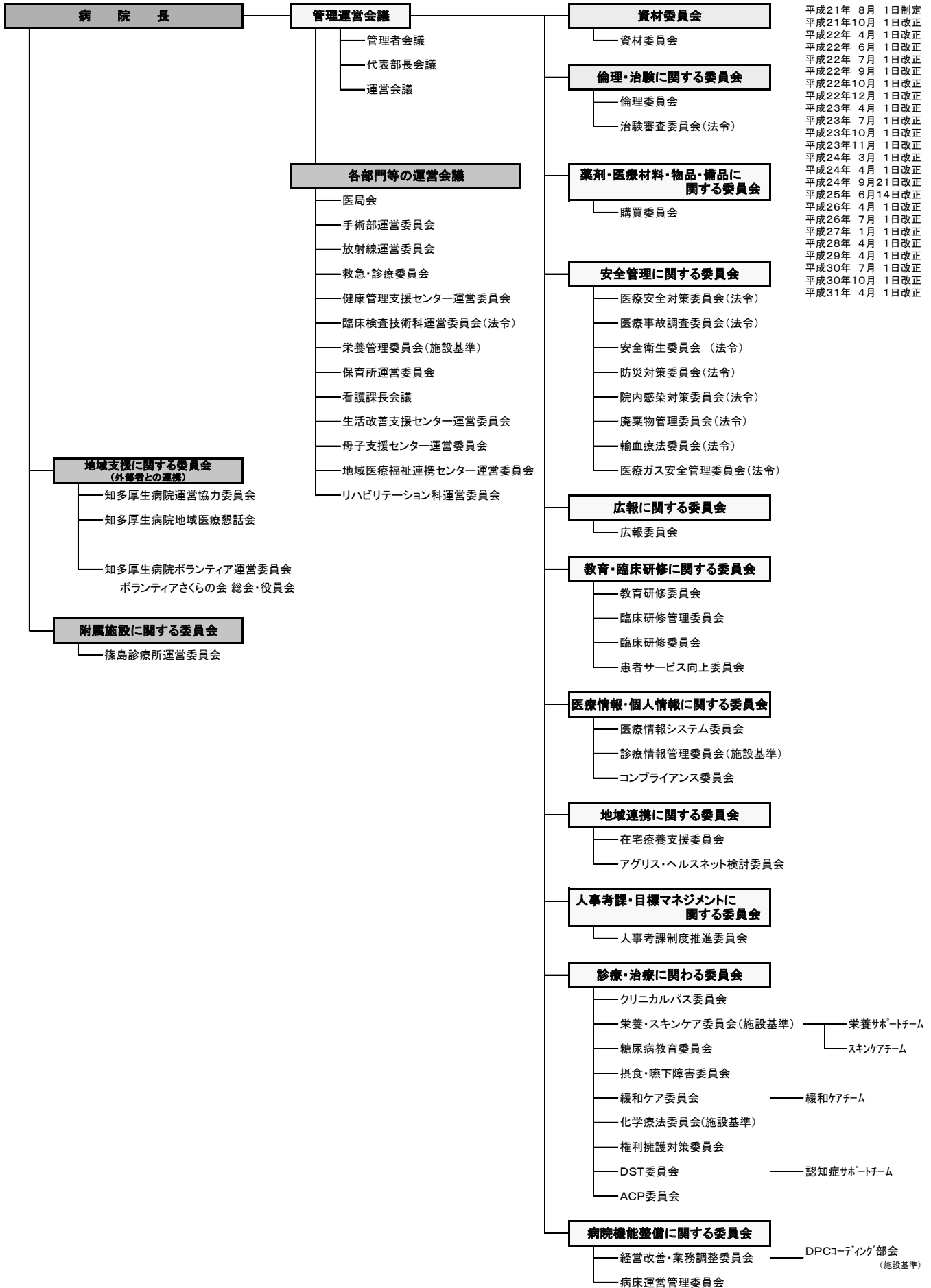
平成19年	3月	災害拠点病院指定
	7月	病院機能評価認定（Ver. 5.0）
平成21年	8月	診療棟改築 電子カルテシステム稼働 ID-Link導入
平成22年	9月	病床区分変更（病床数 一般199床・療養54床・感染6床）
平成23年	7月	病院機能評価認定（Ver. 6.0）
平成23年	9月	7対1入院基本料取得
平成25年	12月	DMA T（災害派遣医療チーム）結成
平成26年	4月	DPC（診断群分類）対象病院
	6月	回復期リハビリテーション病棟開設 （一般 [7対1看護基準] 149床、回復期リハ50床、療養54床、感染6床）
	9月	開院50周年記念式典・病院祭開催
	11月	美浜町産業まつりのほか、武豊町産業まつりへも新規出展
平成27年	7月	認知症対応力向上事業実施病院
平成28年	4月	DMA Tを派遣（熊本地震）
平成29年	1月	厨房改修工事完工
	3月	電子カルテシステム更新
平成29年	5月	医療被ばく低減施設認定
	7月	人間ドック健診施設機能評価認定
平成30年	2月	地域包括ケア病棟開設 （回復期リハビリテーション病棟より転換） （一般 [7対1看護基準] 149床、地域包括ケア50床、療養54床、感染6床）
平成30年	12月	病床区分変更 （一般 [7対1看護基準] 157床、地域包括ケア42床、療養54床、感染6床）
平成31年	2月	オンライン診療・オンライン服薬指導開始
令和 元年	5月	ホームページリニューアル ベッドコントロールワークショップ開催（病床運営管理委員会主催） CT装置更新
令和 2年	2月	感染症病棟 COVID-19疑い患者受け入れ
令和 2年	3月	COVID-19帰国者・接触者外来を開設 COVID-19発熱外来を設置

組織・機構図





知多厚生病院 会議・委員会組織図



令和元年度 事業計画

環境認識	<p>知多半島医療構想区域においては、県全体とはほぼ同様に総人口が減少している中、当院の主な診療圏である美浜町、南知多町は少子高齢化、人口減少が著しく進んでいる地域である。またこの構想区域における2025年の予想では、急性期が過剰となる一方、高度急性期、回復期、慢性期病床の不足が見込まれている。</p> <p>当院では前年度より顕著となった医師不足が継続すると予測される。さらに当院を含め、美浜町、南知多町の各医療機関においても医師の高齢化が進み、将来この地域における救急医療を含めた医療提供体制の確保が難しくなってくるのが想定される。</p> <p>こうした状況の中、当院は知多半島南部地域における唯一の中核病院かつ公的医療機関として、地域住民の健康を守る責務がある。そのために、医師確保に努めるとともに知多半島医療圏の医療機関や施設との連携をより強化し、当院の果たすべき役割を整理する必要がある。また、経営の効率化を図り、持続可能な病院経営を目指すことが求められている。</p>
基本方針	<ol style="list-style-type: none"> 1. 救急医療、周産期医療、急性期医療・回復期・慢性期・在宅医療にいたるまでの医療サービスを提供する。また、これまで培ってきた災害医療の分野、へき地医療の分野、及び感染症医療の分野について継続して知多半島医療圏における中心的な役割を担う。そのために医師の確保に努める。 2. 知多半島医療圏の医療機関や施設との連携を強化し、地域全体で患者に安全で良質な医療を提供できる体制の構築を検討する。（地域包括ケアシステムの推進） 3. 効率的な病床運営を行い、病床再編の効果や病床機能の変更について検討・検証するとともに、要員数の適正化や費用削減にも継続して取り組み、経営の安定化を目指す。 4. 職員一人ひとりがやりがいを持って働けるよう地域に根ざした病院づくりを目指す。

重点事項	目標達成のための具体的行動計画
実施目標	
① 診療機能の充実	
救急医療体制の維持	地域包括ケアシステムを踏まえた最適な体制の検討・整備 院内のトリアージ機能の強化
小児医療・周産期医療の確保	知多半島南部地域の周産期医療の維持 分娩件数増加に向けた体制整備（医師・助産師） 小児医療提供体制の維持
診療体制の整備	各科診療体制の検討 初期研修医・専攻医を含めた常勤医の確保 CT装置更新 病床再編の検証
災害拠点病院の充実	知多半島南部地域全体の災害医療体制の充実（災害訓練や職員に対する研修） DMATの活動が円滑にできるよう講習会参加など必要な支援提供
へき地医療拠点病院の充実	離島医療（篠島診療所）の維持 へき地医療研修の継続
第二種感染症指定医療機関として感染症医療の充実	保健所・検疫所・地域の医療機関との連携を強化 患者搬送訓練や研修会開催 感染防止対策の情報提供 患者や地域住民への啓発活動の実施
チーム医療の推進	専門的ケアチームの充実 医師業務負担軽減の推進 ペースメーカ遠隔モニタリングシステムの拡大
リハビリテーションの充実	急性期・回復期・維持期リハビリテーションの充実 短時間通所リハの実施に向けた検討
認知症患者への対応	認知症サポートチームの活用 院内研修会の開催
相談支援機能の強化	効率的な薬剤管理指導 服薬アドヒアランスの改善 栄養指導の充実 コメディカル外来の充実
在宅医療への支援	訪問診療の充実 訪問看護ステーションの充実 ICT電子@連絡帳活用
オンライン診療、オンライン服薬指導の実施	オンライン診療、オンライン服薬指導の実施・検証

重点事項	実施目標	目標達成のための具体的行動計画
② 医療の質、安全強化		
	医療安全の充実	医療安全教育・研修の継続的な実施 医療安全管理者の養成 薬剤師によるポリファーマシーの関わり強化 ICTチーム活動の充実 感染管理システムの活用 医療機器安全使用の推進 セーフティレポートシステムの活用
	医療の質向上	クリニカルパス使用の推進・見直し・改善 クリニカルインディケーターの活用 DWHを用いた診療情報の二次利用についての検討 診療録点検の強化 DINQLの活用
③ 地域との連携強化		
	地域連携の強化	地域の医療機関・福祉施設と顔の見える関係の構築と連携強化を図るために医師・地域医療福祉連携部を中心とした定期的な訪問 退院支援、在宅復帰支援体制の充実 地域連携システム(ID-LINK)活用の検討 保険薬局との連携
	行政・医師会・JA・住民との連携	美浜町・南知多町との定期協議の継続 地元医師会との連携強化 JAとの連携強化(JAポイントカード、産業まつり) 住民公開講座や多職種による講座等を開催し地域住民への情報発信
④ 保健事業		
	健診事業の充実	特定健診の充実、特定保健指導の充実 南知多町との連携による住民健診の拡大 武豊町との連携による乳がん・子宮がんの個別検診の実施 人間ドック機能評価認定施設としての質の維持
	保健事業活動の充実	健康講話・生活改善支援・母子支援活動の充実
⑤ 福祉・介護事業		
	福祉・介護事業の充実	介護医療院の検討 地域包括ケアシステムの推進
⑥ 経営管理		
	経営の安定化に向けた取り組み強化	効率的な病床運営 各部署の必要人員の精査及び要員管理の徹底 計画的な医療機器の更新 経費削減などコスト管理及び職員個々のコスト意識の醸成 共同購入の実施 試薬コストの削減 医療機器適正台数の検証 薬品在庫管理の強化(定数の見直し等)
⑦ その他		
	教育研修機能の充実	ナーシングスキルの活用
	患者サービス向上	職員の接遇の向上や患者・家族から意見などの迅速な把握 改善につなげるシステム(ご意見箱、患者アンケート)の充実
	広報活動の拡大	当院の魅力をアピールする広報機能の充実 診療科のPR ホームページリニューアルに伴う情報発進力の強化
	職場環境の向上	職員のニーズを把握し職員にとって魅力ある職場づくり 仕事と生活の調和を支援し離職防止・人材確保に取り組む

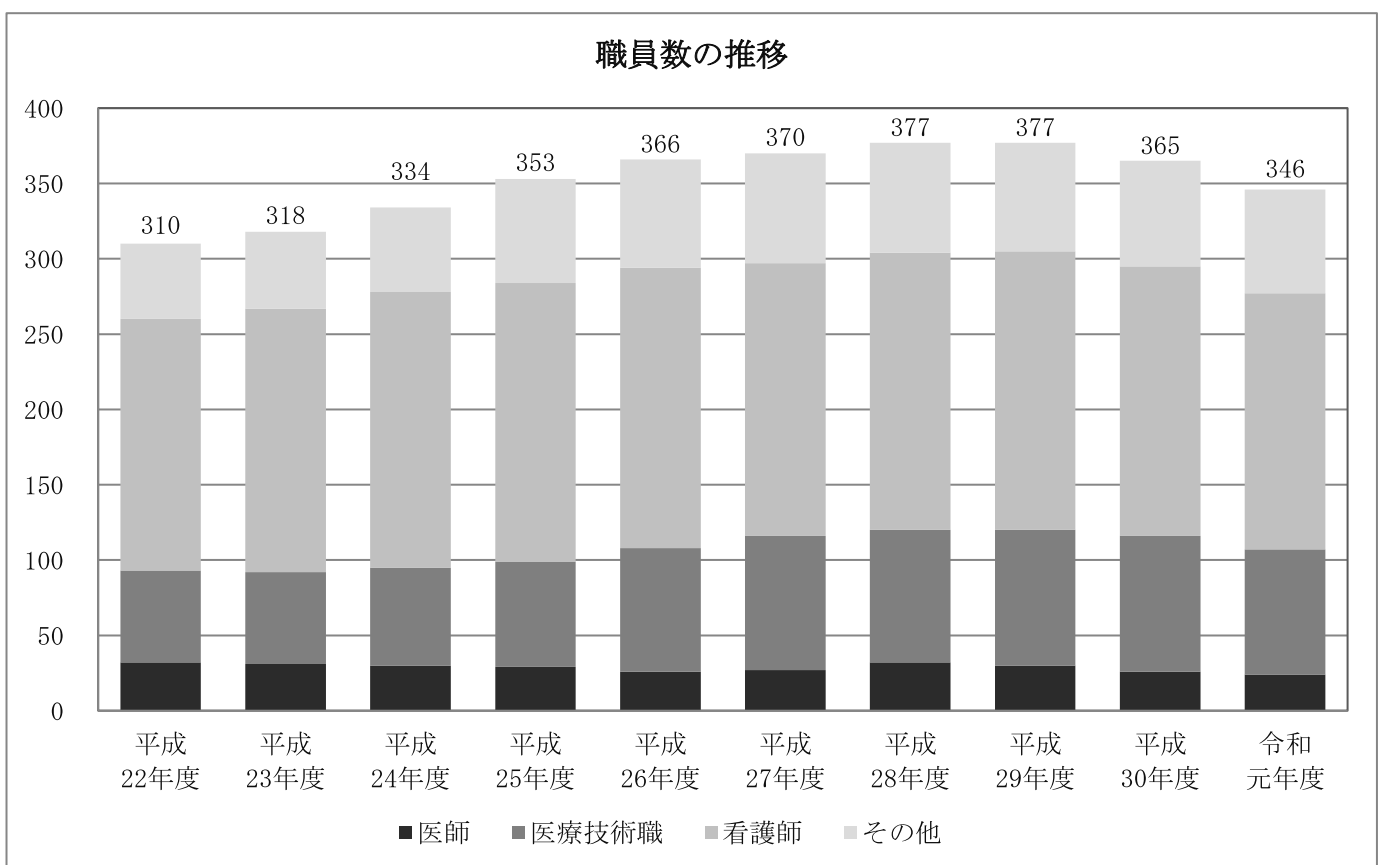
統計資料

職員数の推移	13
過去3か年の推移	
診療科別延べ患者数	14
科別時間外患者取扱数	15
市町村別時間外患者取扱数	15
市町村別時間外患者 (救急車搬入件数)	15
診療科別在院延べ患者数 及び新入院患者数	16
診療科別退院患者数 及び平均在院日数	17

■ 職員数の推移

	平成 22年度	平成 23年度	平成 24年度	平成 25年度	平成 26年度	平成 27年度	平成 28年度	平成 29年度	平成 30年度	令和 元年度
医師	32	31	30	29	26	27	32	30	26	24
医療技術職	61	61	65	70	82	89	88	90	90	83
看護師	167	175	183	185	186	181	184	185	179	170
その他	50	51	56	69	72	73	73	72	70	69
総数	310	318	334	353	366	370	377	377	365	346

※ その他・・・事務職、技能職、作業職



■ 過去3か年の推移

1. 診療科別延べ患者数（医療＋介護）

年 度	平成29年度		平成30年度				令和元年度			
	外来/入院	外来	入院	外来		入院		外来		入院
科	患者数	患者数	患者数	前年比	患者数	前年比	患者数	前年比	患者数	前年比
内科	46,851	25,851	43,422	92.7%	23,871	92.3%	39,733	91.5%	27,538	115.4%
小児科	10,363	282	9,207	88.8%	52	18.4%	8,806	95.6%	43	82.7%
外科	7,437	5,004	7,408	99.6%	5,598	111.9%	7,755	104.7%	6,129	109.5%
整形外科	27,816	11,378	25,469	91.6%	9,396	82.6%	21,367	83.9%	4,807	51.2%
脳神経外科	19,049	17,533	17,029	89.4%	15,885	90.6%	17,570	103.2%	15,568	98.0%
皮膚科	14,071	165	7,227	51.4%	3	1.8%	6,269	86.7%	9	300.0%
泌尿器科	8,049	762	7,702	95.7%	636	83.5%	7,391	96.0%	468	73.6%
産婦人科	4,824	632	4,609	95.5%	431	68.2%	4,580	99.4%	807	187.2%
眼科	10,237	1,029	9,405	91.9%	811	78.8%	11,763	125.1%	1,243	153.3%
耳鼻 いんこう科	14,555	799	13,650	93.8%	813	101.8%	12,744	93.4%	533	65.6%
篠島/ 療養介護	4,164	11,502	3,945	94.7%	13,206	114.8%	3,734	94.7%	13,579	102.8%
合 計	167,416	74,937	149,073	89.0%	70,702	94.3%	141,712	95.1%	70,724	100.0%
平均患者数 (病院のみ)	609.1	205.3	547.7	89.9%	193.7	94.3%	530.7	96.9%	193.2	99.8%
※診療日数 (病院)	268	365	265		365		260		366	

2. 科別時間外患者取扱数

年 度	平成29年度				平成30年度				令和元年度			
	外来	率	入院	率	外来	率	入院	率	外来	率	入院	率
診療科												
内科	2,291	95.3	375	98.7	2,202	96.1	260	69.3	1,827	83.0	346	133.1
小児科	1,082	90.6	5	71.4	751	69.4	0	0.0	724	96.4	0	0.0
外科	106	65.0	33	91.7	179	168.9	33	100.0	251	140.2	57	172.7
整形外科	808	95.8	83	127.7	667	82.5	60	72.3	491	73.6	30	50.0
脳神経外科	436	102.3	126	121.2	393	90.1	160	127.0	467	118.8	177	110.6
皮膚科	365	83.1	1	50.0	281	77.0	1	100.0	207	73.7	0	0.0
泌尿器科	198	92.5	1	33.3	167	84.3	4	400.0	138	82.6	4	100.0
産婦人科	49	70.0	36	85.7	40	81.6	4	11.1	49	122.5	4	100.0
眼科	81	105.2	0	0.0	25	30.9	0	0.0	17	68.0	0	0.0
耳鼻 いんこう科	362	80.1	14	155.6	234	64.6	14	100.0	204	87.2	11	78.6
合 計	5,778	92.0	674	104.0	4,939	85.5	536	79.5	4,375	88.6	629	117.4

3. 市町村別時間外患者取扱数

年 度	平成29年度				平成30年度				令和元年度			
	外来	率	入院	率	外来	率	入院	率	外来	率	入院	率
市町村名												
美浜町	2,714	90.8	253	98.4	2,283	84.1	183	72.3	2,092	91.6	242	132.2
南知多町	1,994	93.8	332	112.5	1,769	88.7	289	87.0	1,440	81.4	316	109.3
武豊町	353	89.6	37	132.1	341	96.6	28	75.7	290	85.0	23	82.1
半田市	89	90.8	5	71.4	79	88.8	9	180.0	60	75.9	7	77.8
常滑市	94	97.9	6	100.0	70	74.5	9	150.0	60	85.7	9	100.0
その他	534	92.5	41	74.5	397	74.3	18	43.9	432	108.8	32	177.8
合 計	5,778	92.0	674	104.0	4,939	85.5	536	79.5	4,374	88.6	629	117.4

4. 市町村別時間外患者（救急車搬入件数）

年 度	平成29年度				平成30年度				令和元年度			
	外来	率	入院	率	外来	率	入院	率	外来	率	入院	率
市町村名												
美浜町	211	95.0	130	98.5	172	81.5	100	76.9	155	90.1	116	116.0
南知多町	243	102.5	186	124.0	193	79.4	171	91.9	161	83.4	172	100.6
その他	194	86.2	41	78.8	142	73.2	37	90.2	174	122.5	52	140.5
合 計	648	94.7	357	106.9	507	78.2	308	86.3	490	96.6	340	110.4

5. 診療科別在院延べ患者数及び新入院患者数

	在院延患者数			新入院患者数		
	平成29年度	平成30年度	令和元年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
内科	22,605	21,628	26,155	1,414	1,153	1,281
小児科	198	27	21	82	25	22
外科	4,395	5,270	5,733	341	314	383
整形外科	11,026	9,117	4,660	306	268	129
脳神経外科	15,442	13,009	15,049	370	432	528
皮膚科	153	2	8	12	1	1
泌尿器科	684	605	437	27	27	28
産婦人科	549	376	715	80	55	96
眼科	823	589	894	206	222	349
耳鼻いんこう科	726	587	487	73	62	45
一般計	56,601	51,210	54,159	2,911	2,559	2,862
療養	15,401	16,832	16,901	38	30	31
感染	0	0	86	0	0	11
合計	72,002	68,042	71,146	2,949	2,589	2,904

6. 診療科別退院患者数及び平均在院日数

	退院患者数			平均在院日数		
	平成29年度	平成30年度	令和元年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
内科	1,351	1,149	1,241	16.4	18.8	18.7
小児科	84	25	22	2.4	1.1	1.0
外科	355	321	394	12.6	16.6	14.4
整形外科	284	280	147	37.4	33.3	33.8
脳神経外科	344	407	481	43.3	31.0	25.2
皮膚科	12	1	1	12.8	2.0	8.0
泌尿器科	28	26	28	24.9	22.8	14.6
産婦人科	83	55	92	6.7	6.8	7.6
眼科	206	222	348	4.0	2.7	2.6
耳鼻いんこう科	73	65	44	9.9	9.2	8.6
一般計	2,820	2,551	2,798	19.8	20.0	17.3
療養	110	92	92	208.1	275.9	202.5
感染	0	0	10	0.0	0.0	8.2
合計	2,930	2,643	2,900	24.5	26.0	23.4

診療科別医療実績

内科	21
小児科	24
外科	25
整形外科	28
脳神経外科	30
皮膚科	32
泌尿器科	33
産婦人科	34
眼科	36
耳鼻いんこう科	38
麻酔科	40

■ 内 科

1. 医師紹介

氏 名	役職・専門分野	医師免許取得
宮本 忠壽	名誉院長 日本内科学会認定内科医・総合内科専門医 日本消化器病学会専門医・指導医 日本消化器内視鏡学会専門医・指導医 日本消化管学会胃腸科認定医 日本医師会認定産業医 日本消化器病学会東海支部評議員 日本消化器内視鏡学会東海支部評議員	昭和 52 年
高橋 佳嗣	副院長兼感染制御部長兼内科代表部長 日本内科学会認定内科医・総合内科専門医 日本消化器病学会専門医 日本肝臓学会専門医	昭和 62 年
丹村 敏則	副院長兼保健事業部長兼内分泌代謝科部長 日本内科学会認定総合内科専門医・指導医 日本糖尿病学会専門医・指導医 日本東洋医学会専門医・指導医 産業衛生学会専門医・指導医 日本プライマリケア連合学会認定医 日本人間ドック学会認定医・指導医 日本病態栄養学会 NST コーディネーター 労働衛生コンサルタント	昭和 57 年
冨本 茂裕	第 2 診療部長兼循環器内科部長 日本内科学会認定内科医・総合内科専門医 日本循環器学会専門医 日本高血圧学会指導医	平成 2 年
川口 博之	一般内科部長	昭和 62 年
三宅 建作	救急外来部長	平成 10 年

藤岡 一敏	消化器内科医長 日本内科学会認定内科医 日本消化器病学会専門医 日本消化器内視鏡学会専門医	平成 23 年
山田 修司	循環器内科医長 日本循環器学会専門医	平成 23 年
井手 敦基	一般内科 ※令和元年 9 月退職	平成 28 年

2. 専門外来・主な取り組み

脳神経内科（月曜日、金曜日）

呼吸器内科（木曜日）

循環器内科（火曜日）

膠原病内科（水曜日）

血液内科（火曜日）

消化器・肝臓病（第 1・3 土曜日）

ペースメーカークリニック（第 1・3 土曜日）

3. 診療実績

（単位：人、日）

		平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
外来	延べ患者数	46,851	43,422	39,733
	一日平均患者数	174.8	164.0	152.8
入院	延べ患者数	25,851	23,871	27,538
	一日平均患者数	70.8	65.4	75.2
	平均在院日数	16.4	18.8	18.7

4. 令和元年度クリニカルインディケータ（DPC データより）

(1)入院症例トップ3

傷病名	患者数
肺炎等	181
小腸大腸の良性疾患(良性腫瘍を含む)	151
心不全	116

(2)手術症例トップ3

傷病名	患者数
内視鏡的大腸ポリープ・粘膜切除術(長径 2cm 未満)	160
内視鏡的胆道ステント留置術	21
内視鏡的乳頭切開術(乳頭括約筋切開のみ)	15

■ 小児科

1. 医師紹介

氏名	役職・専門分野	医師免許取得
安井 奈津子	小児アレルギー科医長 日本小児科学会専門医 日本アレルギー学会専門医 日本周産期新生児医学会新生児蘇生法 「専門」コース（Aコース）修了 小児科全般・アレルギー疾患	平成 20 年

2. 専門外来・主な取り組み

- 慢性疾患（喘息、アトピー性皮膚炎、食物アレルギー、低身長、甲状腺疾患、夜尿症、てんかんなど）：月曜午後、木曜午後
- 乳児健診：水曜午後
- 1ヶ月健診：水曜午後
- 予防接種：火曜午後・金曜午後

3. 診療実績

（単位：人、日）

		平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
外来	延べ患者数	10,363	9,207	8,806
	一日平均患者数	38.7	34.7	33.8
入院	延べ患者数	282	52	43
	一日平均患者数	0.8	0.1	0.1
	平均在院日数	2.4	1.1	1.0

4. 令和元年度クリニカルインディケータ（DPC データより）

(1) 入院症例トップ 3

傷病名	患者数
食物アレルギー	15
妊娠期間短縮、低出産体重に関連する障害	5
下垂体機能低下症	1
先天性心疾患（動脈管開存症、心房中隔欠損症を除く）	1

■ 外科

1. 医師紹介

氏名	役職・専門分野	医師免許取得
村元 雅之	副院長 兼 第1診療部長 兼 外科代表部長 日本外科学会専門医・指導医 日本消化器外科学会専門医・指導医 消化器がん外科治療認定医 日本消化器病学会専門医・指導医 日本静脈経腸栄養学会認定医・評議員 愛知臨床外科学会評議員	昭和61年
保里 恵一	第1乳腺外科部長 兼 篠島診療所長 日本外科学会専門医 日本乳癌学会専門医 日本消化器外科学会専門医・指導医 消化器がん外科治療認定医 日本消化器病学会専門医 日本肝臓学会専門医 マンモグラフィ読影認定医 日本化学療法学会評議員 日本医師会産業医	昭和56年
杉戸 伸好	中央手術部長 日本外科学会専門医 日本消化器外科学会専門医 消化器がん外科治療認定医 日本消化管学会胃腸科専門医・指導医 日本がん治療認定医	平成10年
川瀬 麻衣	第2乳腺外科部長 日本乳癌学会専門医 日本外科学会専門医	平成16年
傳田 悠貴	日本外科学会専門医	平成24年

2. 専門外来・主な取り組み

乳腺専門外来 栄養サポート外来 褥瘡外来 血管外科
 腹腔鏡手術 内痔核手術 化学療法

3. 診療実績

(1) 基本指標

(単位：人、日)

		平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
外来	延べ患者数	7,743	7,408	7,755
	一日平均患者数	28.9	28.0	29.8
入院	延べ患者数	5,004	5,598	6,129
	一日平均患者数	13.7	15.3	16.7
	平均在院日数	12.6	16.6	14.4

4. 令和元年度クリニカルインディケータ（DPC データより）

(1) 入院症例トップ 3

傷病名	患者数
乳房の悪性腫瘍	45
鼠径ヘルニア	36
結腸（虫垂を含む）の悪性腫瘍	32

(2) 手術症例トップ 3

傷病名	患者数
腹腔鏡下鼠径ヘルニア手術	34
腹腔鏡下胆嚢摘出術	33
腹腔鏡下大腸悪性腫瘍手術	22

5. その他

(1) 手術件数

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
全手術件数	290	293	300	253	266
全身麻酔	220	210	229	191	174
腹腔鏡下胆嚢摘出術	34	38	32	43	33
大腸がん (うち腹腔鏡下手術)	48(41)	43(32)	35(30)	27(18)	26(22)
乳がん手術	21	23	20	13	20
胃がん (うち腹腔鏡下手術)	11(1)	15(2)	15(3)	11(3)	9(3)
膵切除術	4	4	1	6	3
肝切除術 (うち腹腔鏡下手術)	11	5	12	8(1)	1

(2) 施設認定

- 平成14年1月～ 日本外科学会外科専門医制度修練施設 (指定施設)
- 平成15年～ 第1回日本静脈経腸栄養学会 NST 稼働認定施設、教育施設
- 平成23年11月～ 日本静脈経腸栄養学会 NST 委員会 NST 稼働施設
- 平成24年1月～ 日本消化器外科学会専門医制度指定修練施設 (認定施設)

■ 整形外科

1. 医師紹介

氏名	役職・専門分野	医師免許取得
脇田 郷	副院長兼医療安全管理部長兼整形外科代表部長 日本整形外科学会専門医 日本リハビリテーション医学会認定臨床医 日本リウマチ財団登録医	昭和 56 年
吉田 雅人	リハビリテーション科部長 日本整形外科学会専門医 ※令和元年 9 月退職	平成 13 年
岡本 康義	整形外科医長 日本整形外科学会専門医	平成 20 年

2. 専門外来・主な取り組み

- ・リウマチ科（毎週火曜日）

3. 診療実績

（単位：人、日）

		平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
外来	延べ患者数	27,816	25,469	21,367
	一日平均患者数	103.8	96.1	82.1
入院	延べ患者数	11,378	9,396	4,807
	一日平均患者数	31.2	25.7	13.1
	平均在院日数	37.4	33.3	33.7
手術件数		234	219	149

4. 令和元年度クリニカルインディケータ（DPC データより）

（1）入院症例トップ 3

傷病名	患者数
股関節・大腿近位の骨折	68
胸椎、腰椎以下骨折損傷（胸・腰髄損傷を含む）	9
足関節・足部の骨折・脱臼	8

(2) 手術症例トップ3

手術名	症例数
骨折観血的手術(肩甲骨、上腕、大腿)	39
人工骨頭挿入術(肩、股)	20
人工骨頭挿入術(肩、股、膝)	7

■ 脳神経外科

1. 医師紹介

氏名	役職・専門分野	医師免許取得
水野 志朗	院長 日本脳神経外科学会専門医 日本脳卒中学会専門医 脳神経血管内治療学会専門医	昭和 56 年
福島 庸行	診療協同部長兼脳神経外科代表部長 日本脳神経外科学会専門医 日本脳卒中学会専門医 認知症サポート医	昭和 60 年
中塚 雅雄	医療情報部長兼脳血管内治療部長 日本脳神経外科学会専門医 日本認知症学会専門医・指導医 日本脳卒中学会専門医・指導医 脳神経血管内治療学会専門医 認知症サポート医	平成 2 年
大島 望	脳神経外科医長 日本脳神経外科学会専門医 認知症サポート医	平成 20 年

2. 専門外来・主な取り組み

脳血管障害一般・神経外傷・認知症への対応

3. 診療実績

(単位：人、日)

		平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
外来	延べ患者数	19,049	17,029	17,570
	一日平均患者数	71.1	64.3	67.5
入院	延べ患者数	17,533	15,885	15,568
	一日平均患者数	48	43.5	42.5
	平均在院日数	43.3	31.0	25.2
手術件数		41	28	59

4. 令和元年度クリニカルインディケータ（DPC データより）

(1) 入院症例トップ3

傷病名	患者数
脳梗塞	114
頭蓋・頭蓋内損傷	55
脳血管障害	42

(2) 手術症例トップ3

手術名	症例数
慢性硬膜下血腫洗浄・除去術(穿頭)、穿孔洗浄術	15
経皮的頸動脈ステント留置術	13
脳血管内手術（1箇所）	6

■ 皮膚科

1. 診療体制

平成 30 年 4 月より常勤医師不在となり、非常勤医師による外来診療のみ実施。

外来診察日：月・水・金・土（第 1・3 週）

※完全予約制

2. 診療実績

（単位：人、日）

		平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
外来	延べ患者数	14,071	7,227	6,269
	一日平均患者数	52.5	27.3	24.1
入院	延べ患者数	165	—	—
	一日平均患者数	0.5	—	—
	平均在院日数	12.8	—	—

■ 泌尿器科

1. 医師紹介

氏名	役職・専門分野	医師免許取得
本間 秀樹	泌尿器科代表部長 日本泌尿器科学会専門医	平成1年

2. 専門外来・主な取り組み

- ・内視鏡手術の実施

3. 診療実績

(単位：人、日)

		平成29年度	平成30年度	令和元年度
外来	延べ患者数	8,049	7,702	7,391
	一日平均患者数	30	29.1	28.4
入院	延べ患者数	758	636	468
	一日平均患者数	2.1	1.7	1.2
	平均在院日数	24.8	22.6	14.6

4. 令和元年度クリニカルインディケータ（DPCデータより）

(1) 入院症例トップ3

傷病名	患者数
膀胱腫瘍	7
前立腺の悪性腫瘍	7
男性生殖器疾患	5

(2) 手術症例トップ3

手術名	症例数
膀胱悪性腫瘍手術(経尿道的手術)(その他)	6
膀胱結石(異物)摘出術(経尿道的手術)	2

■ 産婦人科

1. 医師紹介

氏名	役職・専門分野	医師免許取得
菱田 克己	第1産婦人科部長 日本産婦人科学会専門医 母体保護法指定医 日本医師会認定産業医	昭和48年
柴田 金光	第2産婦人科部長 日本産婦人科学会専門医・指導医 母体保護法指定医	昭和53年

2. 専門外来・主な取り組み

- ・産科
- ・婦人科（不妊症・更年期障害・子宮内膜症など）

3. 診療実績

（単位：人、日、件）

		平成29年度	平成30年度	令和元年度
外来	延べ患者数	4,919	4,609	4,580
	一日平均患者数	18.4	17.4	17.6
入院	延べ患者数	808	431	807
	一日平均患者数	2.2	1.2	2.2
	平均在院日数	6.9	6.8	7.6
分娩件数		55	40	43
手術件数		12	6	38

4. 令和元年度クリニカルインディケータ（DPCデータより）

（1）入院症例トップ3

傷病名	患者数
子宮の良性腫瘍	9
子宮頸・体部の悪性腫瘍	8
卵巣の良性腫瘍	7

(2) 手術症例トップ3

手術名	症例数
子宮全摘術	11
子宮付属器腫瘍摘出術（両側）（開腹）	9
子宮脱手術（膈壁形成手術及び子宮全摘術）	6

■ 眼科

1. 医師紹介

氏名	役職・専門分野	医師免許取得
小原 浩	眼科部長 日本眼科学会専門医	平成 13 年
加藤 房枝	第 1 眼科医長 日本眼科学会専門医	平成 20 年
塚田 明世	第 2 眼科医長 日本眼科学会専門医	平成 22 年

2. 専門外来・主な取り組み

- ・ 白内障手術

3. 診療実績

(単位：人、日)

		平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
外来	延べ患者数	10,237	9,405	11,763
	一日平均患者数	38.2	35.5	45.2
入院	延べ患者数	1,029	811	1,243
	一日平均患者数	2.8	2.2	3.3
	平均在院日数	4	2.7	2.5
白内障手術件数		264	263	445

4. 令和元年度クリニカルインディケータ（DPC データより）

(1) 入院症例トップ 3

傷病名	患者数
白内障、水晶体の疾患	337
硝子体疾患	4
黄斑、後極変性	4

(2) 手術症例トップ3

手術名	症例数
水晶体再建術(眼内レンズを挿入)(その他)	341
硝子体切除術	5
硝子体基頭顕微鏡下離断術(網膜付着組織を含む)	4

■ 耳鼻いんこう科

1. 医師紹介

氏名	役職・専門分野	医師免許取得
小森 克彦	耳鼻いんこう科代表部長 耳鼻いんこう科一般・頭頸部腫瘍・補聴器 日本耳鼻咽喉科学会専門医 日本耳鼻咽喉科学会補聴器相談医	平成 5 年
油井 健宏	耳鼻いんこう科医長 日本耳鼻咽喉科学会認定専門医	平成 19 年

2. 専門外来・主な取り組み

慢性疾患外来（アレルギー性鼻炎・滲出性中耳炎など）： 火曜日・木曜日の午後
難聴・補聴器外来： 火曜日・木曜日の午前

3. 診療実績

（単位：人、日）

		平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
外来	延べ患者数	14,555	13,650	12,744
	一日平均患者数	54.3	51.5	49.0
入院	延べ患者数	799	813	533
	一日平均患者数	2.2	2.2	1.4
	平均在院日数	10	9.2	8.6

4. 令和元年度クリニカルインディケータ（DPC データより）

（1）入院症例トップ 3

傷病名	患者数
前庭機能障害	10
睡眠時無呼吸	9
扁桃、アデノイドの慢性疾患	8

(2) 手術症例トップ3

手術名	症例数
口蓋扁桃手術(摘出), アデノイド切除術	8
扁桃周囲膿瘍切開術	3
アデノイド切除術	3

■ 麻酔科

1. 医師紹介

氏名	役職・専門分野	医師免許取得
成宮 なつみ	麻酔科部長代理 日本麻酔科学会専門医	平成19年

2. 専門外来・主な取り組み

- ・麻酔科診察
- ・救急ファーストタッチ

3. 診療実績

(単位：件)

項目	平成29年度	平成30年度	令和元年度
全身麻酔	175	226	199
脊椎麻酔	11	5	9
硬膜外麻酔	0	2	1
合計	186	233	209

部署別業務実績

【診療協同部】	
・放射線技術科	43
・臨床検査技術科	48
・リハビリテーション技術科	52
・臨床工学技術科	54
・栄養科	60
【薬剤部】	62
【看護部】	64
【医療安全管理部】	71
【感染制御部】	73
【事務部】	75
【医療情報部】	84
【保健事業部】	85
【地域医療福祉連携部】	88

■ 診療協同部 — 放射線技術科

1. 部署目標

- ・ X線CT装置の円滑な更新
- ・ 他部門との更なる連携強化
- ・ 教育体制の充実と人材育成の強化
- ・ 安心な医療体勢の構築

2. 活動内容と評価

(1) 「X線CT装置の円滑な更新」について

- ・ メーカーの選定と同時にCT装置更新の工程表が作成され、この工程に基づき必要な準備を行った。工事期間中もCT検査が可能となるよう、移動型CT装置を病院駐車場に設置し、運用することとなった。屋外への患者の搬送など運用は他職種と協力し合うことで問題なく運用することができた。

CT装置更新後は新しい機能を導入したことにより、体内に金属があってもアーチファクトの少ない画像を生成できることなど視覚的にわかりやすい画像を提供することが可能となった。更にこの装置の新しい機能である逐次近似応用再構成の技術や新型のX線検出器の搭載により、検査によっては50%程度、全体でも30%程度の被ばく低減が実現できた。

(2) 「他部門との更なる連携強化」について

- ・ CT装置の更新を行い、新装置に搭載された新しい技術によってこれまでとは異なる画像を提供することが可能となった。地域の開業医など連携医療機関への周知のため検査情報をまとめた冊子を作成し、配布できるよう地域医療福祉連携室などと連携して作成を行っている。今後も継続して取り組んでいきたいと考える。

(3) 「教育体制の充実と人材育成の強化」について

- ・ 年度の前半はほぼ毎月、放射線技術科勉強会を開催することができた。CT装置の更新があり新しい機能を学習し臨床に反映させるため、メーカー主体の勉強会が続くこととなった。後半は担当者の急な退職による準備不足や新型コロナウイルスの影響を受け開催が困難な状況となった。しかし少ない回数ではあるが診療放射線技師が講師で行う勉強会も開くことができた。今後も継続して取り組んでいきたいと考える。

(4) 「安心な医療体勢の構築」について

- ・ 重大な疾患を検査中に発見した場合に医師に連絡する運用について検討した。臨床検査技術科のパニック値通報システムと連携することを検討したが、運用方法の違

いから同じ運用で行うことは困難となり、連携して運用することはできなくなった。しかし個別の事例では医師に画像を早く確認してもらうよう運用を構築するなど、重大疾患の可能性のある患者への迅速な対応に貢献することで、より安心な医療体制の構築を着実に進めることが出来ている。引き続き重大疾患をより早く検出できるように技師のトレーニングを継続したいと考える。

3. 業務実績

(1) 検査件数

令和元年度 放射線技術科 検査件数

全検査数

項目	平成30年度 合計	令和元年度 合計	前年度 比較
一般撮影	23,690	22,285	94.1%
マンモ	1,508	1,620	107.4%
TV検査	3,408	3,212	94.2%
血管検査	37	136	367.6%
CT検査	7,502	7,732	103.1%
MRI検査	4,620	4,884	105.7%
骨塩定量	760	692	91.1%
画像処理	1,444	1,489	103.1%
術中透視	7	5	71.4%
合計	42,976	42,055	97.9%

健診検査件数（再掲）

項目	平成30年度 合計	令和元年度 合計	前年度 比較
胸部	2,901	2,908	100.2%
マンモ	948	939	99.1%
胃透視	1,232	1,172	95.1%
胃内視鏡	974	1,028	105.5%
CT検査	250	261	104.4%
MRI検査	478	445	93.1%
骨塩定量	175	205	117.1%
合計	5,984	5,930	99.1%

健診合計件数には胃内視鏡件数は含まず

4. その他

(1) 人員体制について（令和2年3月31日現在）

診療放射線技師	10名（女性4名、男性6名（1名は健診専属））
放射線（1Bブロック）看護師	4名
SPD（午前）	1名
受付事務員（1Bブロック）	2名（午後1名）

(2) 画像診断関連機器一覧 令和元年度

撮影室	室番号	装置名(用途)	機種名	メーカー	取得年月日
一般撮影室 6	6	撮影装置	UD150L-40(50KW)	島津	2009/7/30
		画像処理装置	Console Advance	富士フイルムメディカル	2018/10/15
		FPD撮影装置	CALNEO Smart C77 (SE1:立位)	富士フイルムメディカル	2018/10/15
		FPD撮影装置	CALNEO Smart C77 (SE2:臥位)	富士フイルムメディカル	2018/10/15
		FPD撮影装置	CALNEO Smart C47 (SE7:半切)	富士フイルムメディカル	2018/10/15
		FPD撮影装置	CALNEO Smart C12 (SE10:四つ切)	富士フイルムメディカル	2018/10/15
		CR読取装置	FCR PRIMA(カセットリーダー)	富士フイルムメディカル	2018/10/15
		FPD用充電スタンド	ドッキングスタンド	富士フイルムメディカル	2018/10/15
		FPD用充電スタンド	ドッキングスタンド	富士フイルムメディカル	2018/10/15
		撮影室内用画像表示端末	i-Pad mini	オシロトセフメディカル	2018/10/15
一般撮影室 7	7	撮影装置	UD150L-40(50KW)	島津	2009/7/30
		画像処理装置	Console Advance	富士フイルムメディカル	2018/10/15
		FPD撮影装置	CALNEO Smart C77 (SE3立位)	富士フイルムメディカル	2018/10/15
		FPD撮影装置	CALNEO Smart C77 (SE4:臥位)	富士フイルムメディカル	2018/10/15
		FPD撮影装置	CALNEO Smart C47 (SE8:半切)	富士フイルムメディカル	2018/10/15
		FPD撮影装置	CALNEO Smart C12 (SE11:四つ切)	富士フイルムメディカル	2018/10/15
		FPD用充電スタンド	ドッキングスタンド	富士フイルムメディカル	2018/10/15
		FPD用充電スタンド	ドッキングスタンド	富士フイルムメディカル	2018/10/15
		撮影室内用画像表示端末	i-Pad mini	オシロトセフメディカル	2018/10/15
マンモ・骨塩定量 撮影室8	8	撮影装置	MAMMOMAT1000	シーメンス	2009/7/30
		画像処理装置	Console Advance	富士フイルムメディカル	2018/10/15
		CR読取装置	FCR PROPECT CS(カセットリーダー)	富士フイルムメディカル	2018/10/15
	8	撮影装置	Dichroma Scan DCS-600EXV	日立アロカ	2009/7/30
健康管理 支援 センター (胸部 撮影)		撮影装置	RADIOTEX CH-200	島津	2009/7/30
		画像処理装置	Console Advance	富士フイルムメディカル	2018/10/15
		FPD撮影装置	CALNEO Smart C77 (SE5)	富士フイルムメディカル	2018/10/15
		撮影室内用画像表示端末	i-Pad mini	オシロトセフメディカル	2018/9/25
病棟用		回診型撮影装置	MobileArtEvolution	島津	2010/6/1
		画像処理装置	Console Advance (モバイルタイプ)	富士フイルムメディカル	2018/10/15
		FPD撮影装置	CALNEO Smart C47 (SE9:半切)	富士フイルムメディカル	2018/10/15
		FPD撮影装置	CALNEO Smart C12 (SE12:四つ切)	富士フイルムメディカル	2018/10/15
		FPD用充電スタンド	ドッキングスタンド	富士フイルムメディカル	2018/10/15
		FPD用充電スタンド	ドッキングスタンド	富士フイルムメディカル	2018/10/15
手術室		回診型撮影装置	MobileArtEvolution	島津	2011/4/10
		画像処理装置	Console Advance (モバイルタイプ)	富士フイルムメディカル	2018/10/15
		FPD撮影装置	CALNEO Smart C77 (SE6)	富士フイルムメディカル	2018/10/15
		FPD用充電スタンド	ドッキングスタンド	富士フイルムメディカル	2018/10/15
		OPE用透視装置	SIREMOBIL Compact L	シーメンス	2007/8/10

撮影室	室 番号	装置名 (用途)	機種名	メーカー	取得年月日
TV室2	2	撮影装置	ZEXIRA II Version (I. I.)	キヤノン	2009/7/30
		撮影制御装置	ADR-1000A	キヤノン	2009/7/30
TV室9	9	撮影装置	ZEXIRA FPD Version (F.P.D.)	キヤノン	2009/7/30
		撮影制御装置	HDR-1000A	キヤノン	2009/7/30
CT室	5	撮影装置	TSX-101A Aquillion64	キヤノン	2007/5/7
		造影剤自動注入器	Dual Shot GX7	根本杏林堂	2007/5/7
		ワークステーション	ZIOSTATION610	アミン	2007/5/7
		ワークステーション	ZIOSTATION2Crassic	アミン	2012/7/21
		テラステーション	TerastationPro	バッファロー	2009/7/7
		Xe-CT測定装置	コールドキセノンガス吸入装置 AZ-725N	安西	1996/11/10
MRI室	4	撮影装置	Ingenia1.5T	フィリップス	2015/9/25
		ワークステーション	バーチャルプレイス風神RM-01123791	A Z E	2015/9/25
		生体情報モニタ	Invivo Essentil	コニカミノルタ	2015/9/25
血管撮影室	3	撮影装置	AXIOM Artis dTA	シーメンス	2009/7/30
		ポリグラフ	RMC-4000M	日本光電	2008/8/4
		ワークステーション	LEONARDO	シーメンス	2009/7/30
一般撮影 操作室		film読み取り装置	AOC Scan1.5	アレイ	2017/3/21
		ドライイメージャー	DRY PIX EDGE	富士フイルムメディカル	2018/9/18
		画像検像装置	iRad-QA	インフォコム	2017/3/21
倉庫		携帯型X線撮影装置	PHT-1003	日立	2002/2/1
篠島診療所		診断用X線装置	エクシープロMパック	島津	2011/11/1
		読み取り装置	REJIUS 190 (カセットリーダー)	コニカミノルタ	2007/12/1
		現像機	ドライイメージャー	コニカミノルタ	2007/12/2

■ 診療協同部 — 臨床検査技術科

1. 部署目標

- ・業務改善による作業の効率化とコスト削減
- ・チーム医療への貢献
- ・迅速、かつ精度の高い検査値の保証
- ・医療安全の追求と、患者満足度の向上
- ・人材育成

2. 活動内容と評価

(1) 業務改善による作業の効率化とコスト削減について

- ・検査件数の減少の影響に加え、試薬費削減のためにメーカーを変更したり、件数の少ない検査項目の外注化や、測定法の変更をすすめたことで結果的に大幅な試薬費削減を実現できた。また医療材料費も大きな削減となったが、CGM検査件数減によるセンサー購入費用の減少や、診療材料の一部が、診療科の購入へと変わったことが大きく影響していた。作業の効率化では一人2～3部署制が徐々に浸透し、忙しい部門のサポートを、検査室全体で支える体制が定着しつつあると感じている。

(2) チーム医療への貢献について

- ・これまで行ってきた糖尿病療養指導をはじめ、NST、ICTなどのチーム医療活動に加えて、昨年からはDST活動にも積極的に参加できた。また新たに始めた認知症検査への取り組みを地方学会にて発表したところ、これから認知症検査を始めようとしている多くの施設から様々な質問を受けるなど、大きな反響があった。

(3) 迅速、かつ精度の高い検査値の保証

- ・日頃からコントロール検体を用いて機器や試薬の状態を把握したり、定期的なキャリブレーションを行って機器の微調節を行っているが、昨年参加した日本医師会、および日本臨床検査技師会の外部精度管理事業にて2項目にC判定を受けてしまった。原因はいずれも単純なミスであると思われる、今後はこのようなミスが起きないように、サーベイ検体の実施方法についてマニュアルの一部を変更した。

(4) 医療安全の追求と、患者満足度の向上

- ・事例報告とその対策の全体共有ができるだけ速やかに進むよう、医療安全部門のカンファレンスを随時開催とした。

(5) 人材育成の充実について

- ・新たな資格取得はなかったが、新人教育に臨床検査技術科全体で取り組めた。

3. 業務実績

稼働件数		平成29年度		平成30年度		令和元年度	
		件数	前年対比	件数	前年対比	件数	前年対比
一般検査	尿	39,368	77.1	38,744	98.4	37,712	97.3
	便	4,243	98.1	4,424	104.3	4,625	104.5
	体液	488	100.0	429	87.9	535	124.7
血液検査	血液	118,162	99.7	111,052	94.0	106,244	95.7
輸血検査	輸血	2,716	90.2	2,453	90.3	2,505	102.1
臨床化学	化学1	858,531	102.6	809,202	94.3	796,342	98.4
	化学2	33,502	103.7	33,489	100.0	33,799	100.9
	血液ガス	754	75.4	588	78.0	704	119.7
	負荷試験	27	75.0	9	33.3	9	100.0
微生物検査	一般細菌	11,240	100.6	9,873	87.8	10,416	105.5
	微生物核酸検査	0	—	0	—	0	—
	その他	702	102.0	743	105.8	700	94.2
免疫検査	免疫	54,547	103.4	50,485	92.6	50,465	100.0
病理	病理組織	1,726	94.6	1,327	76.9	1,455	109.6
	細胞診	2,956	100.1	2,813	95.2	2,799	99.5
生理検査	肺機能	4,040	103.3	4,092	101.3	4,236	103.5
	心電図	9,062	113.8	8,590	94.8	9,232	107.5
	超音波	5,229	104.7	4,889	93.5	4,902	100.3
	脳波	146	80.7	127	87.0	166	130.7
	その他	3,734	103.5	3,750	100.4	3,962	105.7
その他	病理解剖	0	0.0	0	—	2	—
	採血	31,165	101.4	29,025	93.1	28,126	96.9
	輸血製剤管理	1,178	77.5	1,010	85.7	864	85.5
	その他(DM指導等)	208	143.4	265	127.4	75	28.3
		1,183,724	101.2	1,117,379	94.4	1,099,875	98.4

稼働点数		平成29年度		平成30年度		令和元年度	
		点数	前年対比	点数	前年対比	点数	前年対比
一般検査	尿	1,410,925	82.3	1,385,359	98.2	1,360,121	98.2
	便	159,724	97.6	165,907	103.9	173,825	104.8
	体液	7,020	131.2	6,062	86.4	9,015	148.7
血液検査	血液	2,985,171	96.9	2,807,192	94.0	2,696,696	96.1
輸血検査	輸血	140,802	84.3	140,809	100.0	137,055	97.3
臨床化学	化学1	11,119,040	101.6	10,334,978	92.9	10,079,189	97.5
	化学2	4,621,415	103.0	4,509,504	97.6	4,512,235	100.1
	血液ガス	108,576	74.3	82,320	75.8	98,560	119.7
	負荷試験	5,400	75.0	1,800	33.3	1,800	100.0
微生物検査	一般細菌	1,300,382	97.8	1,105,082	85.0	1,189,944	107.7
	微生物核酸検査	0	—	0	—	0	—
	その他	0	—	0	—	0	—
免疫検査	免疫	3,045,678	106.4	2,828,538	92.9	2,762,659	97.7
病理	病理組織	1,771,810	91.4	1,377,540	77.7	1,498,270	108.8
	細胞診	474,920	99.7	450,670	94.9	453,310	100.6
生理検査	肺機能	383,800	103.3	388,740	101.3	403,980	103.9
	心電図	1,454,420	118.9	1,416,950	97.4	1,414,220	99.8
	超音波	2,515,790	104.5	2,350,160	93.4	2,395,540	101.9
	脳波	103,740	77.8	116,186	112.0	139,438	120.0
	その他	604,860	101.7	599,490	99.1	687,400	114.7
その他	病理解剖	25,000	100.0	0	—	50,000	—
	採血	779,125	101.4	870,750	111.8	782,610	89.9
	輸血製剤管理	0	—	0	—	0	—
	その他(CGМ)	89,600	—	138,600	154.7	28,700	20.7
稼働点数合計		33,107,198	100.8	31,076,637	93.9	30,874,567	99.3

判断料 件数		平成29年度		平成30年度		令和元年度	
		件数	前年対比	件数	前年対比	件数	前年対比
検査判断料	尿・糞便等検査	10,174	99.7	10,008	98.4	9,843	98.4
	血液学的検査	30,801	101.8	28,864	93.7	28,105	97.4
	生化学的検査（Ⅰ）	30,513	102.2	28,660	93.9	27,910	97.4
	生化学的検査（Ⅱ）	10,530	106.2	10,110	96.0	9,691	95.9
	免疫学的検査	16,211	108.2	15,147	93.4	14,371	94.9
	微生物学的検査	3,644	119.2	2,320	63.7	2,247	96.9
	病理学的検査	1,037	51.4	997	96.1	915	91.8
	呼吸機能検査	317	98.1	305	96.2	356	116.7
	脳波検査	92	78.6	87	94.6	98	112.6
	神経・筋検査	52	140.5	34	65.4	30	88.2
検査判断総件数		103,371	102.6	96,532	93.4	93,566	96.9

その他加算 件数		平成29年度		平成30年度		令和元年度	
		件数	前年対比	件数	前年対比	件数	前年対比
病理診断料		1,267	145.6	1,163	91.8	1,199	103.1
細胞診診断料		504	—	499	99.0	561	112.4
検体検査管理加算Ⅰ		39,742	102.2	36,815	92.6	35,321	95.9
検体検査管理加算Ⅱ		314	108.7	328	104.5	317	96.6
パルスドブラ法加算		133	137.1	101	75.9	171	169.3
乳幼児加算		86	119.4	90	104.7	85	94.4
時間外緊急院内検査加算		1,654	103.8	1,724	104.2	1,465	85.0
生化学入院時初回加算		120	118.8	152	126.7	182	119.7
外来迅速加算		35,262	100.8	34,496	97.8	34,033	98.7
輸血管理料Ⅰ		279	100.7	223	79.9	200	89.7
輸血適正使用加算Ⅰ		279	100.7	223	79.9	200	89.7
合計 件数		79,640	102.9	75,814	95.2	73,734	97.3

判断料 点数		平成29年度		平成30年度		令和元年度	
		点数	前年対比	点数	前年対比	点数	前年対比
検査判断料	尿・糞便等検査	345,916	99.7	340,272	98.4	334,662	98.4
	血液学的検査	3,850,125	101.8	3,608,000	93.7	3,513,125	97.4
	生化学的検査（Ⅰ）	4,393,872	102.2	4,127,040	93.9	4,019,040	97.4
	生化学的検査（Ⅱ）	1,516,320	106.2	1,455,840	96.0	1,395,504	95.9
	免疫学的検査	2,334,384	108.2	2,181,168	93.4	2,069,424	94.9
	微生物学的検査	546,600	119.2	348,000	63.7	337,050	96.9
	病理学的検査	155,550	51.4	149,550	96.1	137,250	91.8
	呼吸機能検査	44,380	98.1	42,700	96.2	49,840	116.7
	脳波検査	16,560	78.6	15,660	94.6	17,640	112.6
	神経・筋検査	9,360	140.5	6,120	65.4	5,400	88.2
検査判断総点数		13,213,067	102.8	12,274,350	92.9	11,878,935	96.8

その他加算 点数	平成29年度		平成30年度		令和元年度	
	点数	前年対比	点数	前年対比	点数	前年対比
病理診断料	570,150	142.2	523,350	91.8	539,550	103.1
細胞診診断料	100,800	—	99,800	99.0	112,200	112.4
検体検査管理加算Ⅰ	1,589,680	102.8	1,472,600	92.6	1,412,840	95.9
検体検査管理加算Ⅱ	31,400	21.8	32,800	104.5	31,700	96.6
パルスドプラ法加算	26,600	134.3	20,200	75.9	34,200	169.3
乳幼児加算	1,204	114.7	2,250	186.9	2,125	94.4
時間外緊急院内検査加算	330,800	103.8	344,800	104.2	293,000	85.0
生化学入院時初回加算	2,400	123.7	3,040	126.7	3,640	119.7
外来迅速加算	1,532,270	98.9	1,496,640	97.7	1,359,340	90.8
輸血管理料Ⅱ	61,380	102.2	49,060	79.9	44,000	89.7
輸血適正使用加算	33,480	102.2	26,760	79.9	24,000	89.7
合計 点数	4,280,164	105.0	4,071,300	95.1	3,856,595	94.7

検査委託		平成29年度		平成30年度		令和元年度	
		件数	前年対比	件数	前年対比	件数	前年対比
委託件数	保険収載件数	17,931	109.5	15,072	84.1	14,018	93.0
	未保険収載件数	792	86.7	503	63.5	480	95.4
	管理料件数	0	—	0	—	236	—
総件数		18,723	108.3	15,575	83.2	14,734	94.6
委託支払額	保険項目支払小計	16,395,303	105.9	15,164,245	92.5	14,565,148	96.0
	未保険項目支払計	2,236,431	114.5	1,184,693	53.0	1,557,115	131.4
	管理料支払計	0	—	0	—	232,958	—
総支払い額		18,631,734	106.9	16,348,938	87.7	16,355,221	100.0
委託検査収入	総保険点数請求額	37,805,370	114.2	32,417,680	85.7	30,202,290	93.2
	利益差	19,173,636	122.3	16,068,742	83.8	13,847,069	86.2
消費額	薬品費	68,115,109	96.6	62,249,580	91.4	57,095,341	91.7
	医療材料費	5,390,352	101.5	5,772,689	107.1	3,568,383	61.8
薬品費材料費合計		73,505,461	97.0	68,022,269	92.5	60,663,724	89.2

■ 診療協同部 — リハビリテーション技術科

1. 部署目標

- ・リハビリ提供体制の検討
- ・地域包括ケア病棟入院料2の要件維持
- ・地域連携の推進
- ・短時間通所リハビリの定着

2. 活動内容と評価

令和元年度の知多厚生病院の事業計画における基本方針の中で、「救急医療、周産期医療、急性期医療、回復期、慢性期、在宅医療にいたるまでの医療サービスを提供する」と掲げられており、リハビリテーション技術科においても病院方針に添い、上記部署目標を立てて、活動を行った。

(1) リハビリ提供体制の検討について

- ・科内チームの科員を変更し、8月より作業療法士の訪問担当者も変更した。

(2) 地域包括ケア病棟入院料2の要件維持について

- ・リハビリ対象者の割合が多い月や、休日の多い月は平均実施単位数が2.0以下にならないように、要件を維持するよう必要な患者さんに訓練を実施した。

(3) 地域連携の推進について

- ・美浜町介護予防地域ケア個別会議へ職員1～2名が3回出席
- ・美浜町リハ職派遣コーディネーター事業へ職員1名が2回出席
- ・美浜町認知症初期集中支援チーム会議へ2名が2回出席
- ・美浜町包括ケア会議等に1～2名を4回派遣
- ・南知多町地域ケア会議等に職員1名が6回出席

その他、武豊町児童発達支援事業、半田市保健所神経難病患者教室等での講演実施。

(4) 短時間通所リハビリの定着について

- ・外来患者で介護認定者に対し、適切な介護サービス等を推進し、当院の通所リハビリが望ましい場合は提案し、サービス利用につなげた。

3. リハビリテーション技術科 業務実績

実施単位数	外来	10,891	単位	理学療法	作業療法	言語聴覚療法
	前年	12,063		5,344	3,211	2,336
	対前年比	90%		6,433	3,258	2,372
	入院	77,866	単位	44,046	26,755	7,065
	前年	81,691		49,525	26,720	5,446
	対前年比	95%		89%	100%	130%
	摂食機能療法	1,180	回	0.00	0.00	1,180
	前年	1,406		0.00	0.00	1,406
	対前年比	84%				84%
	計	89,937	単位	49,390	29,966	10,581
前年	95,160	55,958		29,978	9,224	
対前年比	95%	88%		100%	115%	

患者数 と 実施単位数	外来	新患者数	延べ患者数	総単位数	実施単位/患者
	前年	370	7,313	9,848	1.35
	対前年比	315	8,803	12,063	1.37
	入院	1,531	42,949	78,750	1.83
	前年	1,482	43,414	81,691	1.88
	対前年比	103%	99%	96%	0.97
	計	1,901	50,262	88,598	1.76
	前年	1,797	52,217	93,754	1.80
対前年比	106%	96%	95%	0.98	

リハ料別	計	外来		理学療法	作業療法	言語聴覚療法
		入院				
脳血管	31,977	6,471	1,144	2,991	2,336	
		25,506	10,992	10,381	4,133	
廃用	21,418	0	0	0	0	
		21,418	13,076	6,376	1,966	
運動器	18,469	4,415	4,195	220	0	
		14,054	8,978	5,076	0	
呼吸器	9,932	5	5	0	0	
		9,927	6,598	3,329	0	
がんリハ	1,541	1,541	1,254	180	107	
介護(療養)	5,420	5,420	3,148	1,413	859	
摂食機能	1,180	1,180			1,180	
合計	89,937		49,390	29,966	10,581	

	理学療法	作業療法	言語聴覚療法
訪問リハ件数	1,475	597	35
前年実数	1,485	449	0

■ 診療協同部－臨床工学技術科

1. 部署目標

- ・医療機器の保守・点検・管理を計画的に実施し、安全に医療機器が使用できる環境を整える。
- ・医療機器の安全使用に係る勉強会を定期的を開催し、看護師等の医療機器使用時の不安軽減や取り扱い方法やトラブル対応の周知を行い医療安全の向上を図る。
- ・医療機器の稼働状況の把握や医療材料の管理・運用方法を検討し、医療機器の適正台数・医療材料の適正在庫数・業務の効率化・コスト削減を図る。
- ・医師・看護師・他職種との連携を図り臨床支援業務を実施し、安全で円滑な医療を行う。
- ・部署内での臨床支援業務の勉強会を定期開催し臨床工学技士の知識と技術の向上を図る。

2. 活動内容と評価

(1) 医療機器の保守・点検・管理について

- ・臨床工学技士による定期点検実施医療機器は、麻酔器 2 台、除細動器 7 台、閉鎖式保育器 3 台、電気メス 13 台、TCI シリンジポンプ 2 台、輸液ポンプ（安城更生病院より移設）20 台、低圧持続吸引器 8 台、経管経腸栄養ポンプ 15 台、テルモ自動血圧計 6 台、MRI 対応パルスオキシメータ 2 台であり予定通り当年度内に終了することができた。麻酔器については、メーカーによる定期点検からメンテナンス講習会を受講し臨床工学技士による定期点検に切り替え、年間約 45 万円のメンテナンス費用削減に繋がった。
- ・メーカー依頼定期点検実施医療機器は、IABP 1 台（修理中）、人工呼吸器 7 台中 5 台実施で 2 台点検待機中、搬送用人工呼吸器 2 台、麻酔器 1 台、血液浄化装置 2 台中 1 台実施で 1 台点検待機中、臨床用ポリグラフ 1 台であり、一部の医療機器に関して新型コロナウイルス発生の影響等で定期点検遅延が発生してしまった。

(2) 医療機器の安全使用に係る勉強会の実施について

- ・医療機器の安全使用に係る勉強会は合計 26 回実施した。
詳細については以下の通りである。

< 臨床工学技術科 主催勉強会 > 合計 3 回

- ・在宅用人工呼吸器（トリロジー）勉強会×1 回
- ・在宅用酸素ボンベ取り扱い勉強会×1 回
- ・麻酔器（デモ用）勉強会×1 回

<臨床工学技士 講師勉強会> 合計14回

- ・新人オリエンテーション 部署紹介
- ・経管経腸栄養ポンプ勉強会（対象：新規採用看護師）
- ・除細動器・AED勉強会（対象：新規採用看護師）
- ・輸液ポンプ・シリンジポンプ勉強会（対象：新規採用看護師）
- ・ペースメーカー勉強会（対象：新規採用リハビリテーション技術科）
- ・NIPPV勉強会（対象：外来看護師）
- ・NIPPV（V-60）勉強会（対象：4階病棟看護師）
- ・NIPPV（V-60）勉強会（対象：3階病棟看護師）
- ・人工呼吸器勉強会（対象：理学療法士）
- ・人工呼吸器勉強会（対象：新規採用看護師）
- ・医療安全全体研修会×2回
- ・ラパロシステム勉強会（対象：手術室看護師）
- ・日本農村医学会報告会

<新しい医療機器導入時の研修> 合計9回

- ・輸液ポンプ勉強会×3回
- ・A圧トランスデューサー勉強会×4回
- ・閉鎖式保育器勉強会×2回

(3) 医療機器・医療材料について

- ・挿管人工呼吸器1台がメーカー保守の終了であることと、当院の稼働状況を鑑みて1台廃棄処分とし保有台数を8台から7台へ削減した。
- ・今年度5月にシリンジポンプをメーカーリース契約機器30台から新規購入25台に削減して更新を行い、令和元年5月～令和2年3月の平均稼働率は38.6%と昨年の31.5%を上回る結果となった。
- ・輸液ポンプについても今年度5月にメーカーリース契約機器54台から新規購入30台と安城更生病院より移設した輸液ポンプ20台の合計50台の運用とした。安城更生病院より移設した輸液ポンプについては機種が古いため、令和3年度に更新を予定している。台数については、稼働状況を把握し適正台数の検討を継続する。

(4) 医師・看護師・他職種との連携を図った臨床支援業務について

- ・循環器関連では心臓カテーテル検査 7 件、ペースメーカー植込み・交換 6 件
体外式ペースメーカー 1 件、ペースメーカーチェック（遠隔モニタリング含む）388 件
を実施した。
- ・血液浄化療法関連では、持続緩徐式血液濾過透析（CHDF）やエンドトキシン吸着
や維持透析患者の血液透析実施は各 0 件であったが、胸水腹水濾過濃縮再静注療法（C
ART）19 件と去年の 7 件を大きく上回る実施となった。

(5) 部署内での勉強会を開催し、臨床工学技士の知識と技術の向上を図るについて

- ・今年度については実施できなかったため、来年度については、定期的を開催するよう
検討する。

3. 業務実績

(1) 臨床工学技術科 年度別業務件数 (平成27年度～令和元年度)

臨床工学技術科 年度別業務件数報告書

心臓カテーテル関連業務

業務分類	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
CAG	13	15	8	7	7
PCI	0	5	7	1	0
EPS	0	0	0	0	0

ペースメーカー関連業務

業務分類	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
ペースメーカーチェック	153	157	166	282	388
業務分類	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
ペースメーカー新規	5	9	4	3	5
ペースメーカー交換	1	5	4	1	1
ペースメーカー体外式	1	4	1	3	1
ペースメーカー生活指導	5	9	8	2	7

血液浄化療法関連業務

業務分類	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
GCAP	5	0	6	0	2
LCAP	1	0	0	0	0
業務分類	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
エンドトキシン吸着	4	0	1	0	0
業務分類	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
CART(胸水・腹水濾過濃縮)	16	4	19	7	19
業務分類	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
CHDF(日数)	11	10	0	8	0
HD・HF・HDF	11	23	0	0	0
PE(血漿交換)	0	0	0	0	0

手術協助関連業務

業務分類	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
経皮的ラジオ波焼灼療法	11	5	4	2	5
手術立ち会い	151	168	147	12	5
セルセーバー(自己血回収装置)	0	0	0	0	0

人工呼吸器関連業務

業務分類	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
人工呼吸器使用中点検	965	1,122	1,211	1,551	1,610
人工呼吸器回路交換	33	49	53	61	64
人工鼻フィルター交換	38	27	13	7	6
バクテリアフィルター交換	317	475	580	695	669
カテーテルマウント交換	123	159	203	264	291
NIPPV対応	14	8	6	1	0
CPAP説明	19	21	21	22	9
新規導入(NPPV含む)		45	64	54	30

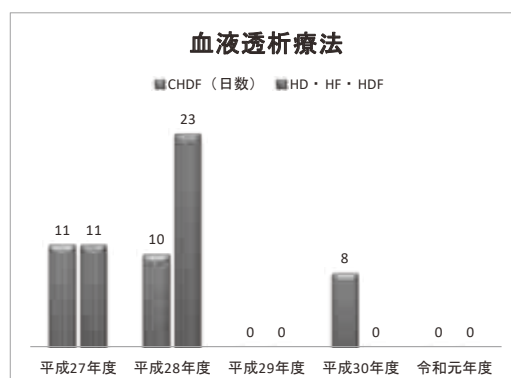
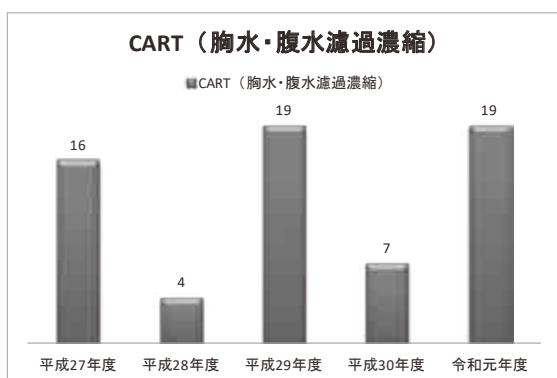
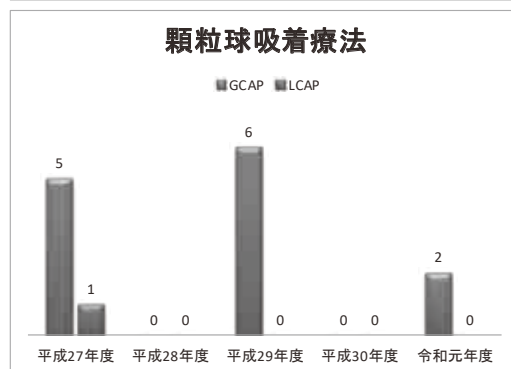
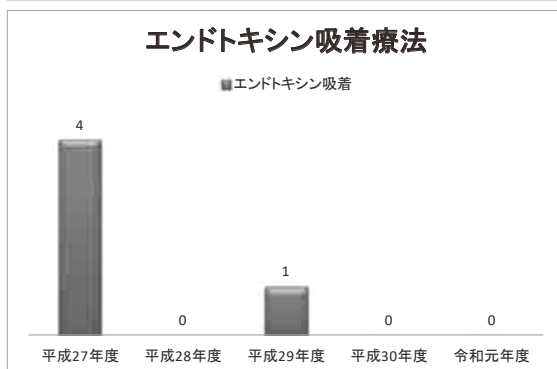
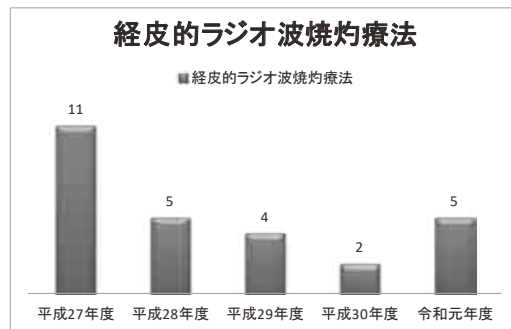
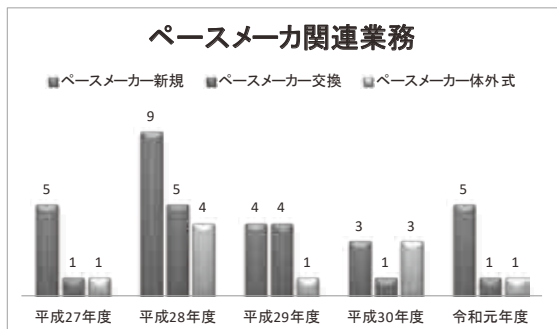
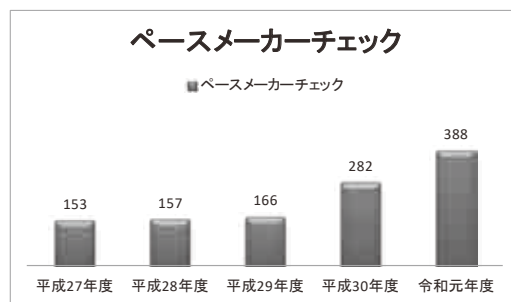
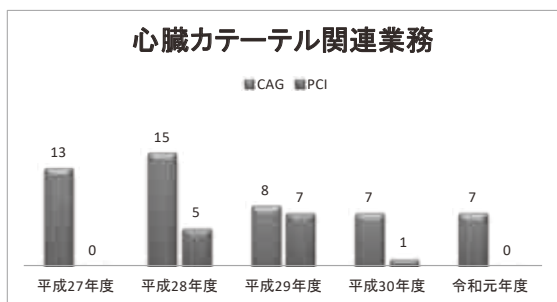
MEセンター関連業務

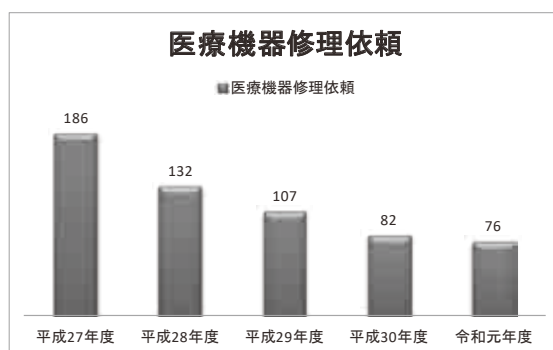
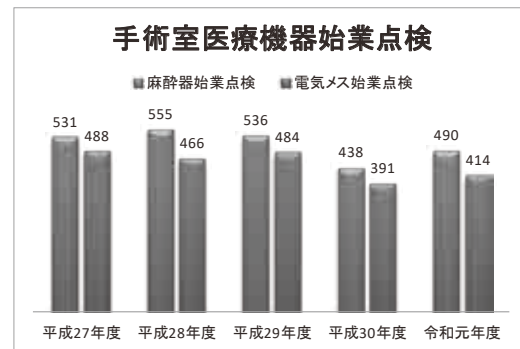
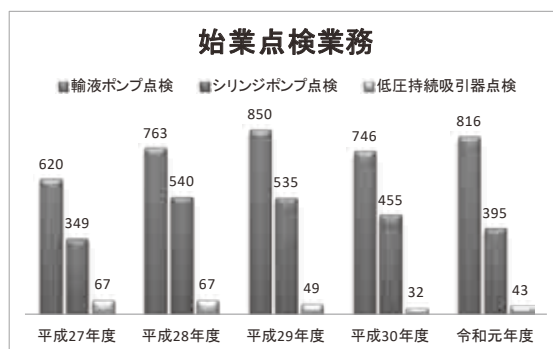
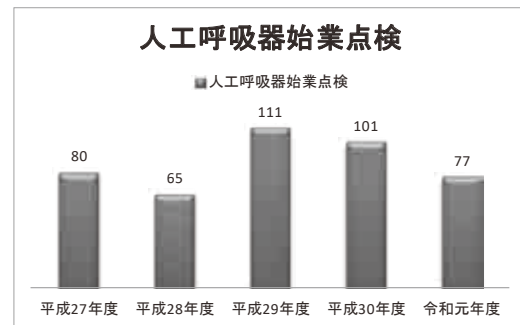
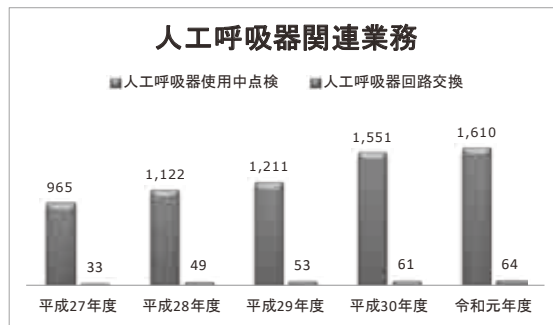
業務分類	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
麻酔器始業点検	531	555	536	438	490
電気メス始業点検	488	466	484	391	414
業務分類	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
人工呼吸器始業点検	80	65	111	101	77
業務分類	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
IABP点検	11	10	12	11	12
除細動器点検	82	81	82	83	83
閉鎖式保育器点検	32	28	34	30	30
AED点検	123	109	134	122	140
業務分類	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
輸液ポンプ点検	620	763	850	746	816
シリンジポンプ点検	349	540	535	455	395
低圧持続吸引器点検	67	67	49	32	43
業務分類	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
医療機器修理依頼	186	132	107	82	76

緊急対応業務

業務分類	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
夜間・休日 対応	15	19	10	17	2

(2) 臨床工学技術科 年度別業務件数グラフ (平成27年度～令和元年度)





4. その他

- ・経管経腸栄養ポンプ（ネオフィードTOP-A600）メンテナンス資格取得
杉浦正生、大倉嗣也

■ 診療協同部－栄養科

1. 部署目標

- ・安全な食事の提供
- ・経費削減に向けた消耗備品の見直し
- ・栄養指導件数の維持
- ・インシデント、アクシデントの減少
- ・非常食の献立見直し

2. 活動内容と評価

(1) スタッフに対する衛生教育

- ・HACCPに沿った衛生管理の義務化にむけ、衛生管理マニュアルの見直しを行った。手洗い、温度管理の重要性を理解し業務に取り組むことにより安全な食事の提供に努めた。

(2) インシデント、アクシデントの減少

- ・食札の表記方法を検討、すべてのメニューを食札表記することにより付け忘れが原因の配膳ミスが減少した。

(3) 経費削減に向けた消耗品の見直し

- ・消耗備品、電気高熱費など費用削減にむけ、使用量、用途を検討。スタッフ間で経費削減に向けた共通認識をもち業務に取り組んだ結果、水道電気高熱費が前年度より減少した。

3. 業務実績

(1) 給食数

患者食

食 種	平成 30 年度		令和元年度	
	食 数	比 率 (%)	食 数	比 率 (%)
常 食	28,202	15.5	33,680	18.6
軟 食	64,912	35.8	70,225	38.7
流 動 食	504	0.3	310	0.2
特別食 A	54,588	30.0	46,502	25.6
特別食 B	33,498	18.4	30,717	16.9
合 計	181,704	100.0	181,434	100.0

賄食

食 種	平成 30 年度		令和元年度	
	食 数	比 率 (%)	食 数	比 率 (%)
職 員 食	47,757	99.8	47,316	99.7
付 添 食	79	0.2	157	0.3
合 計	47,836	100.0	47,473	100.0

(2) 栄養指導件数

	栄養指導及び相談件数	食事指導料加算件数
外 来 栄 養 食 事 指 導	685	685
入 院 栄 養 食 事 指 導	197	197
糖 尿 病 透 析 予 防 指 導	526	526
そ の 他 の 栄 養 相 談	81	
保 健 指 導	79	
生 活 改 善 調 理 実 習	97	

(3) 栄養マネジメント加算

栄養マネジメント加算 (件)	12,888
----------------	--------

■ 薬剤部

1. 部門目標

- ・ 診療機能の充実
相談支援機能の強化
- ・ 医療の質、安全強化
第二種感染症指定医療機関としての機能の充実
- ・ 経営管理
経営安定化の強化
- ・ 教育研修機能の充実

2. 活動内容と評価（主な取り組み）

- (1) 病棟における薬剤業務実施加算の継続と薬剤管理指導の充実を図る
薬剤業務実施加算については引き続き継続することができた。薬剤管理指導については昨年度上半期途中より産休・育休が1名発生したことにより、前年度比マイナス480件であった。来年度、復帰後には件数を戻すことが望まれる。
- (2) ICTラウンドの継続実施およびASTによる抗菌剤適正使用への継続的な介入
ICTラウンドについては継続して実施することができた。年度末にかけては、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）への対応に追われた。
ASTによる抗菌剤適正使用への継続的な介入については、薬剤室長を専従者として算定することができた。一層の取り組み強化が望まれる。
- (3) 実地棚卸および実地棚卸に向けた整理整頓を病院全体で取り組む
業務記述書および棚卸手順書の整備を図った結果、滞りなく全部署の棚卸しを実施することができた。会計監査人監査についても指摘事項なくクリアすることができた。院内においては引き続き、スムーズな棚卸が実施できるように整理整頓および在庫管理の強化に努めていきたい。
- (4) 不動在庫を公表し、使用促進および期限切れの削減を図る
資材委員会で不動在庫一覧を公表して使用の促進を図ることができたが、外来および入院患者の減少に伴い回転が低下し、思うように期限切れの削減につながらなかった。引き続き改善できるように取り組んでいきたい。
- (5) 価格交渉による購入の効率化を図る
令和元年10月より消費税8%から10%へ増税されるのに伴う薬価改定があり、システム対応や卸業者との価格交渉に追われた。年度末にかけては新型コロナウイルス感染症（COVID-19）に係る自粛によって経済活動の低下が継続していることから、納入価格の高止まりが懸念される。来年度においても一層厳しい姿勢で価格交渉をし、原価率を抑える取り組みが求められる。

(6) 薬学部実務実習の受け入れによる人材育成

金城学院大1名、鈴鹿医療科学大1名の合計2名の受け入れを行った。

今後とも積極的に受け入れていきたいと考える。

3. 業務実績 (算定件数)

令和元年度	上半期(月平均)		下半期(月平均)		年度合計(月平均)	
薬剤情報提供料	32,534	5,422	32,399	5,400	64,933	5,411
おくすり手帳記載	31,449	5,242	31,367	5,228	62,816	5,235
薬剤管理指導料(1・2を含む)	2,092	349	1,664	277	3,756	313
介護療養型医療施設(再掲)	437	73	300	50	737	61
無菌製剤処理(1・2を含む)	403	67	798	133	1,201	100
麻薬管理指導加算	86	14	90	15	176	15
退院時薬剤情報管理指導料	348	58	272	45	620	52
がん患者指導管理料 ハ	25	4	67	11	92	8

特記事項

おくすり手帳記載数は全年度比 225.3%、同記載率について 96.7%まで上昇させることができた

4. 各種認定資格について (令和2年3月31日 現在)

- 感染制御認定薬剤師 (日本病院薬剤師会)
- がん薬物療法認定薬剤師 (日本病院薬剤師会)
- 外来がん治療認定薬剤師 (日本臨床腫瘍薬学会)
- 病院薬学認定薬剤師 (日本病院薬剤師会)
- 生涯研修履修認定 (日本病院薬剤師会)
- 緩和薬物療法認定薬剤師 (日本緩和医療薬学会)
- 医療情報技師 (日本医療情報学会)
- N S T 専門療養士 (日本静脈経腸栄養学会)
- 老年薬学認定薬剤師 (日本老年薬学会)
- 骨粗鬆症マネージャー (日本骨粗鬆症学会)
- 糖尿病療養指導士 (日本糖尿病療養指導士認定機構)
- 糖尿病薬物療法准認定薬剤師 (日本くすりと糖尿病学会)
- 公認スポーツファーマシスト (日本アンチドーピング機構)
- リウマチ財団登録薬剤師 (日本リウマチ財団)
- 漢方薬生薬認定薬剤師 (日本薬剤師研修センター)
- 認定実務実習指導薬剤師 (日本薬剤師研修センター)
- 研修認定薬剤師 (日本薬剤師研修センター)
- 日本DMA T 隊員 (厚生労働省)

■ 看護部

1. 部門目標

- ・看護実践能力の向上に努め、安心安全な質の高い看護を提供する
- ・生き生きと働き続けることができる職場環境をつくる
- ・積極的に病院経営に参画する

2. 活動内容と評価

1) 看護実践能力の向上に努め、安心安全な質の高い看護を提供する

(1) 対象ニーズを捉えた確かな看護の実践

- ・積極的な意志決定支援にはI C同席が必要である。4 F / 600 件以上 > 3 F / 350 件 > 2 F / 100 件 > 5 F / 30 件であった。総合カンファレンスの実施は3 F > 4 F > 2 F > 5 F の順でいずれも昨年より増加している。
- ・認知症ケアの充実の取り組みはD S T委員会が中心で行ってきたが、アセスメント後のケアの関わりが後追いの状況があり、タイムリーなケア介入が課題である。
- ・クリニカルラダー申請者に対する合格率はI 83.3%、II 93.8%、III 79.2%であった。ラダーの評価結果はレダーチャートで可視化ができるようになった。

(2) 部署に必要な看護実践能力を高める

- ・部署教育はナースィングスキルと部署の専門シートを連動させた学習計画を立案し実施することができた。
- ・D i N Q L データを活用し他部署、他施設との比較を行った。

	2 F	3 F	4 F	5 F
①転倒転落発生率	2.3%	2.2%	2.9%	2.8%
レベル2以上 (中央値 0.6%)	0.7%	0.6%	1.2%	1.1%
②身体拘束患者割合 (中央値 6.1%)	7.7%	10.9%	7.5%	3.8%
③誤薬発生率 (中央値 2.1%)	0.8%	2.0%	2.8%	0.4%

転倒転落は、高齢患者ケアの重要課題であり、具体的な取り組みを強化する。

(3) 一人一人が役割を認識しチーム医療を推進する

- ・委員会活動を通して部署の役割を強化

新たに在宅支援リンクナース検討会を発足した。各病棟の総合カンファレンス及び退院支援カンファレンスについては実施状況を把握し、問題をフィードバックするようにしたことで入院から3日で実施できるようになってきた。記録委員会と協働でテンプレートを修正し令和2年3月より使用開始した。今後、評価していく。

6分野8名認定看護師会は年6回開催し現場実践の質向上に取り組んだ。

- ・目標面接、キャリア支援面接の充実

期首期末に関わらず期中の面接関わりが人材育成として重要であることから意識的に関わるようにする。次年度から部署会議に管理室が適宜出席し、周知活動の支援強化を図る。

2) 生き生きと働き続けることができる職場環境をつくる

(1) 働き方改革に取り組む

- ・ノー残業は部署に差がある。15時間以上の時間外はOPE室と助産師で発生している。時間外の課題は昨年同様に記録であり引き続き業務改善、改革を継続する。有給休暇取得は看護部全体では11.8日であり、厚生連看護部平均11.2日より取得できていたが個人差、部署間の差はあるため課題である。

- ・看護提供体制の検討

DAY-PNSの理解を深めるため、動画撮影で共有化を図った。導入後6か月、1年後のアンケートを実施、肯定意見は導入後3ヶ月、6か月、1年で上昇した。病棟・外来の一元化は、産婦人科外来の助産師から開始し定着した。平日午前の救急対応に病棟係長が担うことは外来機能を知る機会かつ診療の支援であり、さらに救急医療に対する個の能力開発になるため、教育的関わりを拡大し継続する。

- ・多様な勤務形態

急性期2病棟について16:1夜間看護配置の調整、傾斜配置を行ってきた。入院患者の把握とベッドコントロールに対する意識は係長にも定着している。変則・均等割り勤務は自由選択になっていたが再確認し、家庭の事情（子供など）などによる配慮者を除き基本、均等割り勤務にしたことで病欠者の発生や突発事項に勤務調整がしやすくなり安全担保となった。令和元年度の満足度調査で、現在の夜勤体制で良い＝57.7%、離職率は13.7%（厚生連平均10.3%）であった。3年未満の若者の退職があるため、さらに離職防止に努める必要がある。

(2) 円滑な人間関係に努める

- ・接遇マナー強化（ ）は昨年度

外来患者のアンケート調査の結果「言葉遣い・態度」良い、医師：74.7%（73.8%）看護師72.4%（71.4%）、診療の説明が良い、医師67.4%（55.8%）看護師68.7%（56.4%）であった。医師の診療の補助として患者への確認説明は役割であり継続課題と考える。職場満足度調査は、看護者の助け合い93.2%、多職種との協力体制92.6%、職場の雰囲気が良い79.8%、上司の理解69.7%、医師とのチームワーク55.6%であった。接遇マナーの強化と協働で働く力、コミュニケーションスキルを高められるよう関わる。

(3) 教育環境を維持する

- ・年間ナーシングスキルアクセス件数は約 6,500 件、新人看護師が 4 割を占める。部署の教育ツールとしての活用が定着している。

3) 積極的に病院経営に参画する。

(1) 経営の安定化に向けた効率的な病床管理を行う

- ・急性期一般入院料 7 : 1 の堅持・効率的なベッドコントロール
看護部朝会で部署状況を白板記入で「見える化」したことで、応援調整の把握と確認、さらに朝会の時間短縮ができた。定時間の部署報告を設けることで、緊急入院の病棟状況がタイムリーに把握でき、効果的なベッドコントロールにつながっている。16 : 1 夜間看護配置者は、当直管理看護課長が意識し実践することで維持できている。

(2) 5 S活動を推進し業務改善を行う

- ・積極的な業務改善
年間に取り組んだ業務改善は 51 件であった。今年度より改善計画書と企画書を作成し報告することで実践活動の支援と継続できる体制、しくみづくりができた。
- ・破損紛失の削減
物品破損は件数のみで、コストカウントが正確にできていないため次年度に引き継ぐ。
- ・物品配置・定数管理・在庫整理
年間通して実践活動できるよう継続する。

3. 業務実績

- ・令和元年度 看護部院内教育研修一覧

(1) 新人看護師研修

月	日	曜日	時間	内容	講師	参加者人数	
						看護部	他部門
4	1	月		厚生連新採用者入職オリエンテーション	厚生連本部	10	
	2~4	火~木	8:30~17:00	病院オリエンテーション	教育研修委員会	10	
	5	金	8:30~17:00	看護部オリエンテーション	看護管理室	11	
	8	月	8:30~15:30	部署オリエンテーション	部署長	10	
			15:30~17:00	外来受診の流れ・入院案内DVD	看護部	10	
	9	火	9:00~12:00	標準予防策・清潔操作・針刺し防止	看護部	10	1
10	水	9:00~10:30	経管栄養を受ける患者の看護	看護部	10	1	
		10:30~12:00	食事援助・口腔ケア	看護部	10	1	

月	日	曜日	時間	内容	講師	参加者人数	
						看護部	他部門
4	11	木	9:00～ 10:30	フィジカルアセスメント	看護部	10	1
			10:30～ 12:00	心電図モニター・心電図、AED・DC	看護部	10	1
	12	金	9:00～ 12:00	当院の褥瘡対策 排泄ケアの実際	看護部	10	1
			13:00～ 14:00	膀胱留置カテーテル	看護部	10	1
	15	月	9:00～ 10:30	医療安全対策	看護部	10	1
			10:30～ 12:00	経口薬外用薬直腸内与薬	看護部	10	
	16	火	10:30～ 16:30	電子カルテの活用	医療情報	6	
17	水	10:30～ 14:30	電子カルテの活用	医療情報	6		
24	水	15:00～ 17:00	演習:事例検討Q&A	看護部	10		
5	9	木	9:00～ 12:00	静脈血採血(実践)点滴・皮下・筋肉・皮内注射	看護部	10	1
			13:00～ 15:00	輸液ポンプ・シリンジ	看護部	10	1
	23	木	9:00～ 12:00	看護記録	看護部	10	
			13:00～ 14:00	電子カルテ	看護部	10	
7	4	木	13:00～ 14:30	人工呼吸器取り扱い・BVM	看護部	11	1
			14:30～ 17:00	急変時対応・救急カート	看護部	11	
8	1	木	14:00～ 17:00	血管確保	看護部	9	
	29	木	14:00～ 16:00	安全安楽のケア・逝去時のケア	看護部	9	
			16:00～ 17:00	RUNRUN会	看護部	9	
10	17	木	15:00～ 17:00	皮下・筋肉注射実践	看護部	9	
2	27	木	15:00～ 17:00	事例を通して看護の振り返り(発表)・RUNRUN会	看護部	9	
合計						270	11

(2) ラダーレベル I 研修

月	日	曜日	時間	研修名	講師	研修参加者
5	16	木	13:00～ 15:00	意思決定支援	看護部	11
6	6	木	13:00～ 15:00	メンバーシップ	看護部	9
	27	火	10:00～ 17:00	薬剤の取り扱い	看護部	11
7	4	木	10:00～ 12:00	看護過程	看護部	11
9	5	木	13:00～ 15:00	日常看護提供場面で理解する看護の倫理綱領と看護業務基準(オ)	看護部	11
	12	木	13:00～ 15:00		看護部	8
10	8	火	15:00～ 17:00	看護倫理基礎編:看護倫理を考える	外部	10
	29	火	13:00～ 15:00	チーム医療の構成員である看護師として果たすべき役割(オ)	看護部	11
			15:00～ 17:00	地域における自施設の役割	看護部	9
11	21	木	13:00～ 15:00	チーム医療の構成員である看護師として果たすべき役割(オ)	看護部	16
※(オ)は、オンデマンドの略					合計	107

(3) ラダーレベルⅡ研修

月	日	曜日	時間	研修名	講師	研修参加者
7	17	水	15:00～ 17:00	研究の絞り込みと文献検索	看護部	1
10	31	木	13:00～ 17:00	地域包括ケアシステムを形成する施設・職種・制度(オ)	看護部	10
			15:00～ 17:00	ケアの受け手や周囲の人々の意思決定プロセスとその理解(オ)	看護部	10
11	14	木	13:00～ 17:00	ケアの受け手や周囲の人々の意思決定プロセスとその理解(オ)	看護部	5
			15:00～ 17:00	地域包括ケアシステムを形成する施設・職種・制度(オ)	看護部	2
12	3	火	15:00～ 17:00	看護倫理応用編: 遭遇事例を看護倫理的に再分析してみたら	外部講師	3
1	29	水	17:00～ 18:00	薬剤の取り扱い	医療安全	4
合計						35

(4) ラダーレベルⅢ研修

月	日	曜日	時間	研修名	講師	研修参加者
6	13	木	13:00～ 17:00	人材育成	看護部	6
			15:00～ 17:00	コーチング	看護部	6
7	25	木	13:00～ 17:00	アサーション	看護部	6
			15:00～ 17:00	急変の予測と救命救急場面の対応(オ)	看護部	10
8	8	木	13:00～ 15:00	ケアの受け手の全体像把握のためのアセスメントの統合(オ)	看護部	9
			15:00～ 17:00	ケアの改善のためのエビデンスの活用(オ)	看護部	10
9	11	水	15:00～ 17:00	看護研究の具体的方法/方法決定のプロセスの文献検索	外部講師	4
	19	木	13:00～ 15:00	ケアの受け手の意思決定における権利擁護(オ)	看護部	7
			15:00～ 17:00	看取りにおける尊厳の尊重と苦痛の緩和(オ)	看護部	5
26	木	15:00～ 17:00	看護管理	看護部	6	
10	3	木	13:00～ 15:00	協働におけるコンサルテーションと多職種カンファレンス(オ)	看護部	11
			15:00～ 17:00	自施設周辺の地域包括ケアシステムの理解(オ)	看護部	14
合計						94

(5)他研修

月	日	曜日	時間	研修名	講師	研修参加者
6	28	金	16:00～ 17:00	重症度、医療看護必要度研修	看護部	26
7	18	木	16:00～ 17:00	実地指導者チューター研修①	看護部	16
	25	木	17:15～ 18:15	看護クリパス学習会	小森医師	10
9	7	土	13:30～ 16:20	院内看護研究発表	外部講師	69
12	13	金	10:30～ 11:30	挿管介助	成宮医師	14
1	28	火	16:00～ 17:00	実地指導者チューター研修②	看護部	19
2	6	木	16:00～ 17:00	固定チーム学習会	看護部	28
3	27	金	15:00～ 15:30	看護補助者研修	看護部	7
合計						189

■ 医療安全管理部

1. 部門目標

- ・多職種間の連携を強化し、医療安全対策の実施と評価を行う。
- ・医療安全報告の推進・共有・分析を行う。
- ・医療安全教育を実施し、職員の安全意識の向上を図る。
- ・地域の医療機関との連携強化を図る。

2. 活動内容と評価

1) 多職種間の連携を強化、医療安全対策の実施と評価

- ①医療安全対策委員巡視による医療安全対策実施後の評価、潜在リスクの把握
毎月1回、担当者が巡視を行い結果と対策を医療安全対策委員会で共有し各部署に周知している。

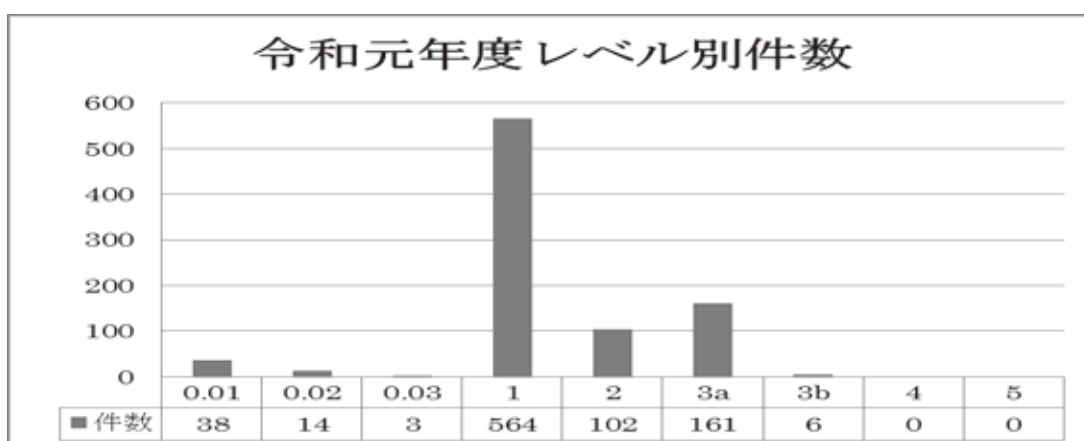
2) 医療安全報告の推進・共有・分析

3) 医療安全報告書件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
平成30年度	93	70	95	75	73	47	68	58	80	66	53	71	849
令和元年度	75	57	69	92	63	70	82	89	74	74	61	82	888

- ①令和元年度の医療安全報告書は888件であり前年度と比較し39件増加した。
発生場面は、転倒転落223件で最も多く、次いで薬剤関連が204件であった。
- ②事例カンファレンス開催件数は86件、評価カンファレンスは42件開催し、部署での取り組みを行っている。

レベル別件数



- ③医療事故の発生は前年度の9件から6件に減少した。
内容分類では転倒転落発生件数は増加しているが、転倒転落による骨折の発症が6件中2件で昨年度に比較し減少している。

4) 医療安全教育と職員の安全意識の向上

①臨時研修 安全な輸血を目指して 令和元年6月5日(水) 参加者 82名

②前期医療安全全体研修: 令和元年7月30日(火) 参加者 152名

【事例解説】診療録・看護記録の重要性

③後期医療安全全体研修: 令和2年1月29日(水)・31日(金) 参加者 217名

事例に学ぶ医療安全(当院における事例発表)・医薬品安全使用講習・医療機器安全使用講習

5) 地域医療機関との連携強化

①医療安全地域連携加算に伴う連携病院相互評価実施

②知多半島公立病院等5病院 医療安全担当者会議 (書面開催)

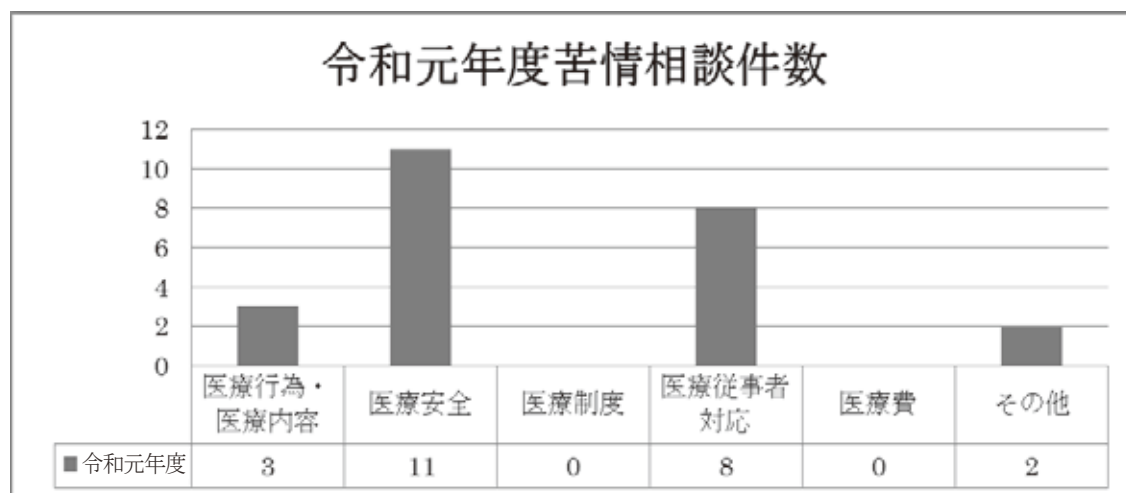
3. 業務実績

・医療安全対策加算 I ・ 医療安全地域連携加算取得

4. その他

1) 苦情・相談件数

令和元年度の苦情相談件数は24件であった。その内、医療安全管理者による面談は14件、電話対応は3件であった。



2) 重大事故

医療事故調査制度の対象となる報告はなし

■ 感染制御部

1. 部門目標

- ・ 第二種感染症指定医療機関として知多半島医療圏で中心的役割を担う
- ・ 感染管理支援システムを活用した感染管理の実施

2. 活動内容と評価

- 1) 第二種感染症指定医療機関として知多半島医療圏で中心的役割を担うについて
 - ・ 地域医療機関との連携強化として、知多半島医療圏感染対策連携会議に参加をした。
 - ・ 加算2算定施設である医療法人瑞心会渡辺病院とカンファレンスを行った。
 - ・ 加算1算定施設である半田市立半田病院と相互チェックを行った。
 - ・ 特別養護老人ホーム大地の丘で感染予防研修会を行った。
 - ・ 保健所と新型コロナウイルスに関する打ち合わせ会を行った。
- 2) 感染管理支援システムを活用した感染管理の実施
 - ・ インフルエンザの流行状況をリアルタイムに発信することで、予防策の強化につながった。
 - ・ 手指消毒使用量、CLABSI、CAUTI サーベイランスを実施し対策の評価を行った。
 - ・ 耐性菌患者、医療器具使用者、環境、手指消毒直接観察のラウンドを実施した。
 - ・ 特定抗菌薬使用者、有症者のモニタリングを実施した。

3. 業務実績

1) 地域連携

<知多半島医療圏感染対策連携会議>

内容：AUD調査報告

乾性手指消毒剤払い出し状況について

耐性菌検出状況

職種別カンファレンス

開催日	担当病院
令和元年 5月15日	知多厚生病院
令和元年 8月21日	公立西知多総合病院
令和元年11月20日	半田市立半田病院
令和 2年 2月19日	常滑市民病院

<連携カンファレンス>

開催日	
令和元年 9月26日	医療法人瑞心会渡辺病院が来院
令和元年 10月24日	医療法人瑞心会渡辺病院を訪問

<相互ラウンド>

開催日	
令和元年 11 月 1 日	半田市立半田病院を来院
令和元年 12 月 6 日	半田市立半田病院が訪問

2) 教育活動

<職員>

開催日	内容
平成 31 年 4 月 2 日	入職者研修
平成 31 年 4 月 9 日	看護師教育ラダー I 感染対策研修
令和元年 5 月 29 日	結核について 薬剤耐性 (AMR) 対策アクションプランについて
令和元年 12 月 11 日 令和元年 12 月 16 日	手と環境の調査報告 薬剤耐性率の報告

<地域医療機関>

開催日	対象施設	内容
令和元年 7 月 16 日	大地の丘	食中毒について
令和元年 11 月 18 日	大地の丘	冬期に流行する感染症について

3) サーベイランス

- ・環境ラウンドと手指消毒直接観察ラウンドの実施 (感染管理支援システムのラウンドチェックシートを活用)
- ・日本看護協会 DiNQL に参画
- ・JANIS の SSI、細菌検査部門に参画
- ・手指消毒サーベイランスの実施

4) その他の活動

- ・季節性インフルエンザについて
入院患者のアウトブレイクはなかった。
- ・COVID-19 について
令和 2 年 2 月 15 日から指定感染症としての入院 (疑い患者を含む) が開始。
クルーズ船乗客を含めた感染者 (9 名) と疑い患者 (2 名) の合計 11 名が感染症病床に入院した。
3 月 6 日から保健所の依頼で感染症病床風除室に帰国者・接触者外来を開設した。
3 月 25 日からは発熱外来を救急陰圧診察室で開始した。

■ 事務部

1. 部門目標

- ・前年度回収額以上を確保すること
- ・病棟運営と地域連携の最適化
- ・活気ある人材育成と職場環境の構築
- ・各部門・部署間の連携サポート
- ・新たな補助金の獲得

2. 企画課

(1) 活動内容と評価

1) 病床再編の検証と介護療養病棟転換の検討

- ・平成30年12月に病床再編を行い、急性期病棟を108床、地域包括ケア病棟42床、療養病棟54床に転換（1病棟49床を休床）した。令和元年度の病床稼働率は急性期病棟で94.0%、地域包括ケア病棟で96.4%、療養病棟で92.1%と高い稼働率を維持した。
- ・介護療養病床については政策として廃止が決定しており、介護医療院への転換を検討していたが、介護職員の不足が深刻となり新たな再編を検討する必要に迫られた。

2) 新たな支援（補助金）の獲得に向けた協議

- ・平成28年度からの特別交付税を活用した補助金の継続はもとより、新たな支援（医療器機や設備に対する補助）の獲得に向けて美浜町、南知多町と協議を重ねた。
- ・新型コロナウイルス関連の補助金については本部と連携しながら適切に対応し、申請した。

3) 産業まつりへの参画

- ・毎年、JAあいち知多美浜事業部、武豊事業部（平成26年度より）と連携し、JA組合員への健康増進を目的に両町の産業まつりへ参画しており、今年度も参加した。実施内容は骨密度測定、血糖測定、血管年齢測定、運動機能測定、訪問看護相談である。参加者は前年を大きく上回り盛況であった。

4) ホームページリニューアルについて

- ・令和元年5月に10年ぶりのホームページの全面リニューアルを行った。今回のホームページでは写真を多く取り入れ、多くの方に見やすく分かりやすいデザインとするとともにスマートフォン対応も可能にした。更新・管理にはCMSを導入し、患者目線でよりタイムリーな情報発信を行うことができるようにした。

5) 住民公開講座について

- ・毎年医師が住民向けに講演を行ってきたが、今年度は趣向を変え、認知症をテーマとする映画を上映し専門医師の解説を行った。地元行政にも共催を依頼し、大々的にPRを行った結果例年の数倍の聴講者を集め盛況であった。次年度以降もこのよ

うな趣向も織り交ぜて住民講座を継続していきたい。

6) 次年度事業計画の作成

- ・令和元年7月中旬～8月中旬にかけて各診療科、部門とヒアリングを行い、次年度での各部門の方針や目標など情報収集するとともに、各部門の適正な人員配置等についての考えを確認した。

7) 経営管理（収支分析と報告）

- ・毎月、収入・費用を前年対比、予算対比で増減分析を実施し、事務役付者会議や管理者会議、運営会議にて収支報告を行い、収入や費用に対する意識統一を図った。
- ・全国の厚生連病院の中で同規模病院と様々な財務指標について比較・分析を加え、当院の課題の洗い出しを行った。

(2) 実績報告

1) 産業まつりについて

今年度も例年参加している産業まつりに参加した。

【美浜町産業まつり】 開催日：令和元年11月10日

実施内容	来場者数
①骨密度測定	185名
②運動機能測定（リハビリ）	109名
③血糖測定	150名
④訪問看護相談	5名

【武豊町産業まつり】 開催日：令和元年11月9日、10日

実施内容	来場者数 (10日)	来場者数 (11日)
①骨密度測定	261名	218名
②血糖測定	218名	127名
③血管年齢測定	255名	171名

2) J Aポイントカード付与件数について

- ・当院の研修会等に参加された方の特典としてJ Aあいち知多のポイントカードにポイントを付与している。今年度のポイント付与件数は以下の通りである。

ポイント付与項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
調理実習		4	4	7	6	7	5	5	5	5	5	0	53
ミニレクチャー		7	11	11	10		11	3	6	5			64
母親教室											1		1
ベビーマッサージ													0
マタニティーヨガ												1	1
糖尿病教室	18				21		19		13		17		88
肝臓病教室						1		2		2			5
住民公開講座											13		13
計	18	11	15	18	37	8	35	10	24	12	36	1	225

※3月は新型コロナウイルスの影響によりほとんどの教室を中止した。

3. 医事課

(1) 活動内容と評価

1) 令和2年度診療報酬改定への対応について

- ・令和元年度は、2年に1度の診療報酬改定に向けての準備の年となった。前回の平成30年改定において入院料の体系改革が行われていたことから、大幅な変更はない見込みであったが、蓋を開けてみると看護必要度の計算方法に大きな変更点があった。中でも“認知症患者の評価”が外されたことで、とりわけ中規模病院にとって、7対1入院基本料の維持が困難となる見通しが広がった。当院においても影響は大きく、看護必要度Ⅰでの基準達成が非常に厳しくなることが予測されたことから、看護必要度Ⅱへと舵を切ることとなった。移行に向けての準備を比較的早期に看護部との共同で開始したことにより、試算上で基準を満たせる目処を立てることができたことから、看護必要度Ⅱでも問題ないと判断し4月1日での変更届けを提出することとなった。また、令和2年度改定は、“働き方改革に対応した改定”でもあり、医師、看護師等に対する負担軽減に関する点数が評価されることとなったが、医師事務作業補助体制加算や看護補助体制加算など、関連項目についての届出を適正に行うことができた。さらには、改定の目玉の一つでもある救急搬送看護体制加算やせん妄ハイリスク患者ケア加算など新規の届出についても対応することができた。全体的には、看護必要度が大きくクローズアップされた改定であったと振り返ることができるが、他職種と連携するなかで、医事課としての役割を十分に果たすことができた。

2) 新型コロナウイルス対応について

- ・年末に中国武漢市を発生源として感染を拡大させた新型コロナウイルスは、瞬く間に全世界へと拡散し、日本においても年が明けた2月頃からじわじわと感染者が発生し始めた。感染症指定医療機関である当院においても、半田保健所からの要請を受けての接触者外来、感染症病床では陽性者の収容を開始した。接触者外来では、保健所からの依頼～受診者への連絡～受付・保険証確認～会計計算までの運用を感染対策部門と共同で構築し、事務対応として中心的な役割を果たした。また、保健所との連絡窓口としての対応も行った。さらに、接触者外来の対象ではない発熱患者の対応として発熱外来の立ち上げについても運用構築に携わるとともに、受付関連を中心とした実際の運用の中でも柔軟な対応に努めた。全国的な感染者の急増により、後に国からの緊急事態宣言が発出されることとなる状況下で、感染への不安が高まる中であっても、患者に安心して受診していただけるよう、電話再診など各種の取り組みへの検討を進めた。

3) 病床再々編について

- ・令和元年度は、平成30年12月の病床再編により病床稼働率が大きく向上し、通年で94%を超えるとともに、一時期の医師不足による救急不応需件数も減少する年となった。しかし一方で、満床を理由として救急搬送を断るケースが目立つようになることもしばしばあり、“急性期一般病床とその受け皿となる回復期病床の不足”という新たな課題が浮き彫りとなった。また、労働生産人口の減少により介護職の要員確保が益々困難となる中、療養病床の永続的な稼働に対する不安も強まりつつあった。さらには、通年で94%という高い病床稼働にも関わらず、依然として回収額が大きくマイナスとなっている現状も浮かび上がってきた。これらのことから、現在の急性期、回復期、慢性期という全ての機能を将来にわたって維持し続けることが困難であるという判断のもと、病床再々編の検討が始まった。医事課としては、想定される再々編後の病床配置について、收入的視点、整備すべき施設基準の視点、運用的視点などを中心にシミュレーションを行い、計画策定の支援を行った。令和2年度中の再々編実行が予定されていることから、より具体的なシミュレーションに対応していくとともに、届出に関する部分についても適正に対応していく。

4) 事務日直の職員化について

- ・事務職員のスキルアップと費用削減の両面から、委託を行ってきた事務日直業務を令和2年度より職員化することが決定された。日直業務に従事する職員は医事課職員のみでなく、事務部門全体が対象となることから、医事課以外の職員でも対応できるよう受付から会計までの詳細なマニュアルを作成した。また、事務研修会の場を利用して、患者登録、会計計算など、事務職員の中で不安の大きい部分について医事課が指導者役となった勉強会を開催した。診療報酬改定への対応と同時進行となったマニュアル作成、勉強会の資料作りなど、非常に労力の大きい作業となったが、第一段階として、年度内に完結させることができた。次年度は本格的に事務日直への従事が開始されることから、今後出てくるであろう細かな課題を解決しながら、事務部門全体が安定して日直業務を遂行できるよう対応を進めていきたい。

5) 業務の効率化（説明・同意書の様式統一と運用の構築）

従来、当院の説明・同意書は、各科・部署・担当者が各々に作成したもので運用されており、統一管理できていない現状があった。また、患者に署名頂いた同意書において、原本を病院保管、コピーを患者へ渡す運用となっているが、原本を患者へ渡すなどの運用誤りが頻発していた。そのほか、電子カルテから2部印刷される設定となっている同意書も存在し、そのうち1部のみに手書きで追記したために、病院保管の原本と患者に渡した説明・同意書の内容が異なると言ったリスクも発生していた。

→上記の課題への対応策として、医師、看護部と協議し、現状の課題を整理したうえ

で、様式の統一化を含めた説明・同意書の管理方法、ルールを定め、運用の徹底を提議した。

6) 病床管理

病床を効率的に運用するためには、全職員の共通認識と入院・退院調整部門である看護部門の協力がなければ成り立たないことから、各職種を交えたベッドコントロールワークショップを開催し、病床運用の考え方の整理と職員の意識の統一化を目的として「ベッドコントロール行動指針」を作成した。その中で医事課が協力できることとして、最新のデータ抽出と目標値の設定を行い、そのデータ提供を行うことを掲げた。具体的には、毎週月曜日に看護部朝会に参加し、「在院患者数」「入退院患者数」「平均在院日数」「看護必要度」の現在の状況を報告し、入院・退院調整部門である看護部と情報共有を開始した。また、4つの情報と基準値を一覧で確認出来る資料を、看護部長室、医局、食堂に掲示し、全職員が当院の状況を確認出来るようにした。さらには、医事課病棟担当者が毎週開催される病棟カンファレンス（退院調整会議）へ参加することで、医事的な視点からの退院時期の提案や医療看護必要度を一覧にした資料提示など、退院調整に参画することとなった。

7) 増収対策

中規模病院（渥美・稲沢・知多）の若手医事課職員を中心としたネットワークを構築し、各病院の加算や指導料件数などのベンチマークを開始した。リハビリテーション総合計画評価料算定率向上にむけて中規模3病院でベンチマークする中で、当院において平均算定率（昨年度）が最も低い状況であった「リハビリテーション計画書」の分析・算定方法・運用方法の確認を行った。目標値を最も算定率が高かった稲沢厚生病院の90%に設定し、算定基準の明確化や週1回のチェック体制を構築した。
→運用の構築の翌月より目標算定率90%を達成し、年間240万円の増収となった。

(2) 実績報告

1) 保険査定減の減少 (目標額: 500,000 円の削減)

→ 前年度に比べ 3,091,688 円の削減となった

2) 返戻件数の減少 (目標件数: 事務誤り部分の返戻 前年度比 10%減)

→ 前年度に比べ 91 件の減少となった

	査定減		
	平成30年度	令和元年度	前年比
4月	525,376	450,987	85.8
5月	442,796	168,653	38.1
6月	820,354	-136,865	-16.7
7月	301,000	342,917	113.9
8月	469,142	593,203	126.4
9月	1,286,615	274,395	21.3
10月	380,252	308,203	81.1
11月	547,054	785,687	143.6
12月	433,749	86,054	19.8
1月	598,082	80,775	13.5
2月	491,129	437,746	89.1
3月	275,223	87,329	31.7
合計	6,570,772	3,479,084	52.9

	返戻件数		
	平成30年度	令和元年度	前年比
	16	18	112.5
	17	10	58.8
	17	15	88.2
	30	24	80.0
	22	14	63.6
	15	17	113.3
	38	12	31.6
	25	17	68.0
	21	15	71.4
	19	12	63.2
	32	12	37.5
	13	8	61.5
合計	265	174	65.7

4. 総務課

(1) 活動内容と評価

1) 要員管理について

- ・各部署とのヒアリング実施により、各部署、各職種における適正な人員を把握するとともに、要員計画に基づく適切な要員管理を行うことが出来た。

採用活動は、概ね計画通りの進捗となった。中でも看護補助者や調理スタッフなど、これまで採用困難であった職種について、継続的な学校訪問や掲示物の見直し等を行った結果、一定数を確保することが出来た。次年度も積極的な活動を継続する。

2) 働き方改革について

- ・働き方改革に伴う法改正への対応として、年次有給休暇の年間5日間の取得に向け、制度周知を繰り返し行うとともに、取得計画表の作成等により、取得しやすい環境を整えた。

また、36協定の遵守と産業医による職場巡視の活用等により、働きやすい職場環境を整備した。

次年度以降も職員のQOLを高めるべく、取り組みを継続する。

3) 人事給与新システムの導入について

- ・細やかな職員周知を行った結果、概ねスムーズな導入を実現出来た。

総務課においても、システムを十分に活用出来るよう、各々のスキルを高めていく。

■ 事務部

5. 施設課

(1) 活動内容と評価

1) 災害拠点体制強化

毎年実施している災害訓練では、地域医療を守るための連携強化を目的として、美浜町や南知多町、半田保健所、近隣病院ならびに知多南部消防組合消防本部と協同して地域災害拠点病院災害連携訓練を実施した。災害訓練は、実災害を踏まえ、近隣に在住の職員を本部要員として行った。また、災害対策本部から、院内状況を一望できるレイアウトに変更した。

訓練の前には、各々の役割を災害時の動きを班ごとに理解するために、DMATをファシリテーターとして、机上訓練を企画した。

災害訓練だけではなく、災害医療派遣チーム（DMAT）隊員の体制強化を図るため、院内のDMAT候補を決定し、災害体制整備に努めた。

2) 費用削減

点灯時間の長い照明をLEDに変更し、省エネ効果に努めた。また、老朽化した配管等も更新し、熱効率を高めた。

廃棄物では、廃棄業者を変更することにより、費用削減を達成した。また、修理に関しても他業種の指標を用いることで人件費等の削減に努めた。

3) 施設整備計画

令和元年度固定資産取得計画に基づき、他院での納入実績を踏まえメーカー間の競争を働かす手法を模索しながら、厳しい価格交渉を行い、21品目を予算内にて取得した。

■ 医療情報部

1. 部門目標

- ・電子カルテの安定稼働
- ・在宅医療への支援
- ・医療安全の充実、医療の質向上
- ・経営の安定化に向けた取り組み強化
- ・診療録点検の内容改善
- ・個人のスキルアップと人材育成

2. 活動内容と評価

(1) 電子カルテの安定稼働について

- ・定期再起動による停止以外に、電子カルテの障害停止は発生しなかった。

(2) 経営の安定化に向けた取り組みについて

- ・電子カルテ、医事会計システムに蓄積されたデータから、種々のデータを抽出し、経営分析の基となる数値の提供を行った。

(3) 個人のスキルアップについて

- ・業務の自動化に関するソフトウェアを使用するスキルを身につけるために、勉強会などに参加、簡単な自動化のデモ用のスクリプトを作ることができるようになった。

3. 業務実績

- ・電子カルテに保存されていない紙媒体で保存すべき情報の保管方法を見直し、保存期限が過ぎたら捨てられるように患者個人ごとで管理する方法に切り替えた。順次遡って処理を行った。

■ 保健事業部

1. 部門目標

- ・新たな保健収益事業増収案の検討
- ・会計監査人監査に向けた準備
- ・人間ドック機能評価認定施設として、質の維持・向上を行う

2. 活動内容と評価

(1) 新たな保健収益事業増収案の検討

- ・美浜町・南知多町 乳がん検診実施日を拡大（月・木の午後 → 全ての平日午後）
- ・協会健保加入者の被扶養者に対するミニドック健診の実施
- ・市町村共済令和元年度 被扶養者の助成対象年齢を 35 歳から 30 歳に引き下げる契約を締結
- ・武豊町がん検診の個別健診実施を働きかけ、次年度から実施予定となる。
- ・医師の調整を行い、健診休止日をなくした
- ・健康保険組合別に違っていた料金を、一部を除き統一化を目指した。
- ・消費税増税後の料金を、設定基準を設けて新しい料金表を作成した。
- ・全国健康保険協会の保健指導活動による生活改善支援を昨年を引き続き充実させた。前年対比 119%と増加した。

全国健康保険協会の保健指導活動（特定保健指導）			
	平成 30 年度（名）	令和元年度（名）	前年対比
動機付け	18	32	178%
積極的	25	19	76%
合計	43	51	119%

(2) 会計監査人監査に向けた準備

- ・会計監査人監査に向けて、業務記述書を 12 月までに作成
- ・2 月末までに会計マニュアルを作成
- ・検査マニュアル等も順次作成中
- ・業務記述書に則った業務の実行

(3) 人間ドック機能評価認定施設として、質の維持向上を行う

- ・腹部超音波、頸動脈超音波検査の専門医による二次判定を実施
- ・日本脳ドック学会の施設認定を取得すべく、MRIの項目追加と認知症検査ができるよう準備を行った。
- ・受診者アンケートの実施
- ・検査結果の3週間以内の送付は、医師不足による読影の遅延より達成できず。
- ・便潜血陽性率の適正化に向けて、他病院及び平均値を臨床検査技術科に提出し改善を依頼した結果、次年度は機械判定できるように、機器購入を進めていきたい。

3. 業務実績

(1) 受診者数と収入

	受診者数 (延人数) (通計)			収入 (通計)		
	平成30年度 (名)	令和元年度 (名)	前年 対比	平成30年度 (円)	令和元年度 (円)	前年 対比
J A関連	1,873	2,117	113.00%	25,327,058	26,628,612	105.10%
協会健保	905	1,027	113.50%	15,284,431	15,197,119	99.40%
市町村	1,211	1,261	104.10%	13,146,963	13,881,698	105.60%
その他 (企業・ 個人等)	3,583	3,699	103.20%	35,346,471	34,292,938	97.00%
予防接種	624	554	88.80%	2,588,700	1,371,916	53.00%
総合計	8,196	8,658	105.60%	91,693,623	91,372,283	99.60%

4. その他

- ・地域健康推進活動について

JA 共済健康管理集団保養活動

5月24日(金) 6月11日(火) 7月10日(水) 8月2日(金)

12月13日(金) 1月29日(水)

医師・保健師派遣

11月9日(土) 10日(日) 美浜町・武豊町の産業まつりに参加

	受診者数 (延人数) (通計)			収入 (通計)		
	平成30年度 (名)	令和元年度 (名)	前年 対比	平成30年度 (名)	令和元年度 (名)	前年 対比
J A 関連	1,873	2,117	113.00%	25,327,058	26,628,612	105.10%
協会健保	905	1,027	113.50%	15,284,431	15,197,119	99.40%
市町村	1,211	1,261	104.10%	13,146,963	13,881,698	105.60%
その他 (企業・ 個人等)	3,583	3,699	103.20%	35,346,471	34,292,938	97.00%
予防接種	624	554	88.80%	2,588,700	1,371,916	53.00%
総合計	8,196	8,658	105.60%	91,693,623	91,372,283	99.60%

■ 地域医療福祉連携部

1. 部門目標

(1) 質の高いサービスの提供

- ・ 部署に必要な実践能力の向上
- ・ チーム医療の推進
- ・ 部署の体制の再構築検討

(2) 活気ある職場づくり

- ・ 計画的な有給休暇取得
- ・ 時間外業務の減少
- ・ 円滑な人間関係

(3) 効率的な病床運営への参画と地域連携の強化

- ・ 入退院時支援の充実
- ・ 地域包括ケア病床・療養病床の円滑な運用
- ・ 関係機関との連携強化

2. 地域医療福祉連携室

(1) 活動内容と評価

1) 利用者に活かす医療講座の開催

- ・ ケアマネジャーや介護事業所向けの医療講座を、年3回(6月10月2月)企画した。2月の医療講座は新型コロナウイルス感染予防対策のため開催を中止し、年2回の開催となった。

第1回 令和元年6月28日(金) 13時30分～15時

テーマ：『在宅での褥瘡予防のポイント』

講師：皮膚排泄ケア認定看護師 荻巣昌子

参加者：42名

第2回 令和元年10月25日(金) 13時30分～15時

テーマ：『高齢者の食事～食べられなくなる前に～』

講師：管理栄養士 深見沙織

参加者：32名

2) アドバンスケアプランニング(ACP)の普及推進

- ・ 愛知県知多半島医療圏近隣7病院(中京病院、南生協病院、公立西知多病院、国立長寿医療研究センター、半田市立半田病院、常滑市民病院、知多厚生病院)と「知多半島において、アドバンスケアプランニングとエンドオブライフディスカッションを推進する会」に参加し、幹事病院(常滑市民病院)が中心となり人材育成研修会を開催した。

- ・美浜町地域包括ケアシステム推進協議会在宅医療・介護連携部会において、ACP 住民講演会を企画・開催した。「最期まで自分らしく生きるために」「私の大切な思い～今までの私・今の私・これからの私～」を渡辺病院と見直し、「～最期まで自分らしく生きるために～人生会議ノート」を作成した。

3) 全忠寺「花まつり」への参加

- ・地域コミュニティと関わりを持ち、地域住民の健康意識の醸成を図った。

日時：平成31年4月20日（土） 9時～12時

内容：健康体操、健康相談、介護相談

4) 医師会症例検討会ミニレクチャーと合同カンファレンスの開催

- ・美浜町と南知多町の医師会と知多厚生病院で、病診連携体制を構築することを目的とした症例検討会ミニレクチャーを年10回、合同カンファレンスを年3回開催した。

5) 地域包括ケアシステム構築への参画

- ・美浜町と南知多町の地域包括ケアシステム推進協議会に参加し、地域包括ケアシステム構築に必要な連携課題について検討した。

3. 地域連携課

(1) 活動内容と評価

1) 業務の見直しや改善を行い、業務の効率化や協力体制を整える

- ・一部の業務についてサポート体制を確立した。来年度も継続して行う。有給休暇の取得日数が目標に達しなかった。訪問看護業務の増加と振休発生が要因。

2) 地域の医療機関と福祉施設のニーズを把握し、連携強化に努める

- ・上半期は訪問回数を昨年より増やし、医師と共に信頼回復に努めた。紹介件数は1,725件となり、昨年度より43件増加した。

3) 効率的な病床運営について

- ・病床稼働率 94.2%（昨年度比+8.4%）となり、医療区分割合や介護の上位基準を維持できた。

4) 質の高いサービス提供を行う

- ・10月の介護報酬改定における改定内容の説明書・同意書を作成し、遅滞なく利用者へ配布、同意書の回収ができた。

(2) 実績報告

1) 紹介実績

- ・別表にて

2) 患者サポート体制相談窓口 相談件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平成30年度	15	6	11	10	11	11	10	12	17	7	13	11	134
令和元年度	8	7	5	7	4	10	9	6	6	8	9	5	84

3) 入院時支援実施延べ件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平成30年度	7	16	0	0	0	23	34	31	32	61	47	25	276
令和元年度	58	69	58	55	62	49	44	33	26	28	24	8	514

4) 入院時支援加算延べ件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平成30年度	0	0	0	0	1	0	0	2	2	1	1	0	7
令和元年度	0	0	1	0	1	1	0	1	0	0	0	0	4

5) 国土交通省短期入院利用人数

- ・実人数：2名 延べ人数：6名

4. 医療福祉相談課

(1) 活動内容と評価

1) 相談援助技術の発揮とチーム医療への有機的な関わり

- ・退院支援の他、身寄りのない方の支援において救急搬送時より他職種や地域関係機関と積極的な連携を図り、入院生活を円滑に送れるよう支援した。
- ・本年度4月より相談支援業務に看護師が配置された。初年度であるため、基本的な退院調整業務を中心とした活動としたが、今後はソーシャルワーカーと看護師、それぞれの職種を活かしたケース担当を検討していきたい。

2) 部署内連携とワークライフバランス

- ・受診当日の依頼でも外来患者を待たせることなく面談できるよう、地域連携課、居宅介護支援課と随時協議し柔軟な対応を行った。
- ・計画的な有給休暇の取得を行うとともに、担当不在時の対応を集約することで、スタッフが互いにフォローを行えるような仕組み作りを行った。

3) 患者支援に有効且つ効率的な病床運営

- ・在宅サービス利用者がスムーズな退院とサービス再開できるよう、入院時情報提供書が届いた際に介護支援連携指導書1カンファレンスの働きかけをケアマネジャーに行った。

- ・療養病棟を必要とする患者受入れを他部門と協力し積極的に実施した結果、病棟稼働率の向上に貢献できた。

(2) 実績報告

1) 相談支援延べ件数（退院支援カンファレンス含む）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平成30年度	641	719	744	751	775	611	771	691	604	705	742	813	8,567
令和元年度	824	974	839	934	786	724	837	876	858	850	713	773	9,988

2) 退院支援加算算定件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平成30年度	44	36	45	46	48	39	50	52	33	23	37	37	490
令和元年度	42	41	43	39	37	42	34	45	47	38	38	45	491

3) 介護支援連携指導料算定件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平成30年度	29	25	35	30	34	24	35	24	27	30	27	21	341
令和元年度	23	35	31	39	32	22	17	38	31	33	18	16	335

4) 主な会義・出張の件数

会議・出張・研修（開催件数）	
委員会	55
院内会議・ミーティング	84
退院検討会（急性期・地域包括ケア・療養病床）	182
診療科・リハビリ・療養プランカンファレンス	124
総合相談カンファレンス	26
ソーシャルワーカーミーティング	47
療養病床入退所判定会	42
医療機関・福祉施設・大学等 訪問	7
院外会議	32
院内・院外研修会（運営含む）	63

5) 学生等の受け入れ

内容	大学・学年・人数	日程
見学	日本福祉大学 社会福祉専門演習 I 社会福祉学部社会福祉学科 3年生 10名	令和元年 6月 10日
座学	日本福祉大学 フィールド実践演習 社会福祉学部社会福祉学科 2年生 9名	令和元年 7月 11日
インタビュー	日本福祉大学 篠田ゼミ 社会福祉学部 4年生 1名	令和元年 11月 20日
見学	日本福祉大学 就職活動 社会福祉学部社会福祉学科 4年生 1名	令和元年 12月 12日
インターンシップ	社会人 1名	令和2年 1月 21・22日

5. 介護管理課

(1) 活動内容と評価

1) 各種届出等の作成

- ・運営規程変更や加算届等の届出書類を作成し、提出した。

2) 監査対応

- ・指摘事項に対して改善策を出し、関連部署へ周知した。

(2) 実績報告

1) 各種届出内容

▽介護療養型医療施設

令和元年 10月 1日 運営規程 変更

▽訪問看護ステーション (介護)

平成 31年 4月 1日、令和元年 10月 1日 運営規程 変更

令和元年 11月 1日 看護体制強化加算 I → II 変更

令和 2年 3月 31日 指定更新

▽訪問看護ステーション (医療)

平成 31年 4月 1日、令和元年 8月 1日、令和元年 10月 1日 運営規程 変更

令和元年 12月 1日、令和 2年 1月 1日、令和 2年 3月 1日 運営規程 変更

令和 2年 2月 1日 従事者 変更

2) 監査

令和元年 7月 8日 内部監査 I (監査室 / 各介護事業所)

令和元年 9月 6日 上半期末定期監査 (監査室 / 訪問看護)

6. 訪問看護ステーション

(1) 活動内容と評価

1) 質の高いサービスの提供

- ・ 院外研修で学んだ内容を部署内で伝達講習し知識の共有・向上を図った。
- ・ 退院カンファレンス、サービス担当者会に参加し、訪問看護師としての意見を発言し、在宅生活へスムーズに移行できるよう他職種と連携した。
- ・ 5名の利用者に対してICTを活用し、他職種と情報共有を図った。
- ・ 知多厚生病院入院中の方は、入院中に契約を行い退院日から訪問看護が利用できるようにした。
- ・ 利用者満足度調査を実施し、ステーションの質評価を行った。利用者・家族の意見から、来年度は祝日訪問の拡大、休日訪問を実施していく。
- ・ 災害時の対応ができるよう学習会を開催、連携センターで災害訓練を実施した。「災害時対応確認同意書」を見直し、地区別にファイリングした。また、災害時の事前対策、災害発生時の対応マニュアルを作成した。台風接近前には同意書などを活用し利用者への指導・確認を行った。
- ・ 「訪問忘れ・訪問遅れ」「薬セット間違い」「呼吸ケアの回数間違い」などのリスクは7件発生したが、レベル3以上のリスクはなかった。対応策を検討し同様のリスク発生防止に努めた。
- ・ 利用者のニーズに対応し、令和元年8月から言語聴覚士の訪問（週1回半日）を開始し、利用者の機能回復に努めた。

2) 活気ある職場づくり

- ・ 1人平均10回程度の有給休暇取得ができた。
- ・ 緊急訪問の時間外は月平均17時間。記録等による看護師全体の時間外は月平均7時間。リハビリは訪問件数の増加に伴い、記録・管理の時間外が発生した。

3) 効率的な病床運営へ参画

- ・ ターミナルケア加算算定件数が5件以下になったため、介護保険の要介護者に対して11月から看護体制強化加算Ⅰ（600単位）→Ⅱ（300単位）の算定となった。
- ・ 「人生の最終段階における医療の決定プロセスにおけるガイドライン」にそった対応ができるようマニュアルを作成し、実践した。
- ・ 医療保険では、週7回の新規利用者の開始（10月～）により訪問回数が増えたが、複数回の訪問利用者の入院、死亡により、訪問件数が減少（2月～）した。
- ・ 外来看護師と情報交換し連携強化に努めた。
- ・ 美浜町の産業まつりに参加し、訪問看護の紹介を行った。
- ・ 地域の会議に参加し、地域の情報収集を行い部署で共有した。

(2) 実績報告

		医療			介護			総人数	総件数
		実人数	延件数	平均訪問回数	実人数	延件数	平均訪問回数		
平成31年	4月	17	128	7.5	92	569	6.2	109	697
令和元年	5月	17	114	6.7	95	603	6.3	112	717
	6月	16	108	6.8	92	548	6.0	108	656
	7月	18	115	6.4	90	610	6.8	108	725
	8月	13	86	6.6	86	527	6.1	99	613
	9月	14	75	5.4	91	560	6.2	105	635
	10月	16	108	6.8	90	594	6.6	106	702
	11月	20	126	6.3	90	524	5.8	110	650
令和2年	12月	21	142	6.8	88	529	6.0	109	671
	1月	19	127	6.7	89	522	5.9	108	649
	2月	16	75	4.7	80	482	6.0	96	557
	3月	13	78	6.0	85	555	6.5	98	633
合計		200	1,282	6.4	1,068	6,623	6.2	1,268	7,905
月平均		16.7	106.8	6.4	89.0	551.9	6.2	105.7	658.8

新規		自宅		医療機関		老人保健施設		合計
		医療	介護	医療	介護	医療	介護	
平成31年	4月	0	5	1	5	0	0	11
令和元年	5月	1	4	0	4	0	0	9
	6月	0	0	1	0	0	0	1
	7月	1	0	2	1	0	0	4
	8月	2	3	0	1	0	0	6
	9月	1	3	0	0	0	0	4
	10月	1	2	1	1	0	0	5
	11月	3	4	1	2	0	0	10
令和2年	12月	2	3	0	2	0	0	7
	1月	1	2	1	3	0	0	7
	2月	1	2	1	0	0	0	4
	3月	0	1	0	3	0	0	4
合計		13	29	8	22	0	0	72
月平均		1.1	2.4	0.7	1.8	0	0	6

終了		軽快		死亡			入院 入所	合計
		医療	介護	自宅	医療施設	施設		
平成31年	4月	0	2	0	3	0	7	12
令和元年	5月	0	1	0	0	0	10	11
	6月	0	2	0	0	0	7	9
	7月	0	6	2	1	0	14	23
	8月	0	0	0	3	0	5	8
	9月	0	2	1	0	0	6	9
	10月	0	3	1	0	0	7	11
	11月	1	3	1	2	0	6	13
	12月	0	2	4	1	0	9	16
	令和2年	1月	0	2	3	2	0	17
2月		0	0	1	2	0	8	11
3月		0	1	2	2	0	10	15
合計		1	24	15	16	0	106	162
月平均		0.1	2.0	1.3	1.3	0	8.8	13.5

1) 住民登録地別利用者数（介護予防を含む）

医療		南知多町	美浜町	武豊町	合計
平成31年	4月	7	10	0	17
令和元年	5月	8	9	0	17
	6月	8	8	0	16
	7月	10	8	0	18
	8月	10	3	0	13
	9月	9	5	0	14
	10月	11	5	0	16
	11月	11	9	0	20
	12月	12	9	0	21
	令和2年	1月	11	8	0
2月		11	5	0	16
3月		10	3	0	13
合計		118	82	0	200
月平均		9.8	6.8	0	16.7

介護		南知多町	美浜町	武豊町	常滑市	合計	総人数 (医療+介護)
平成31年	4月	51	39	1	1	92	109
令和元年	5月	53	39	2	1	95	112
	6月	50	39	2	1	92	108
	7月	48	39	2	1	90	108
	8月	47	36	2	1	86	99
	9月	50	38	2	1	91	105
	10月	51	36	2	1	90	106
	11月	54	32	3	1	90	110
	12月	56	31	1	0	88	109
令和2年	1月	55	33	1	0	89	108
	2月	50	29	1	0	80	96
	3月	54	30	1	0	85	98
合計		619	421	20	8	1,068	1,268
月平均		51.6	35.1	1.7	0.7	89.0	105.7

2) 看護学生の受け入れ

大学・実習名・人数	日程
日本福祉大学 看護統合実習 2名	令和元年7月8日～令和元年7月19日
日本福祉大学 在宅看護論実習 34名	令和元年9月2日～令和2年2月14日

7. 居宅介護支援事業所

(1) 活動内容と評価

1) ケアマネジメント能力の向上

- ・美浜町介護支援専門員連絡会、美浜町・南知多町地域包括支援センター主催の研修会などに参加し、個々のケアマネジメント技術及び知識の向上を図った。
- ・利用者満足度調査を行い、担当の介護支援専門員や事業所に対して概ね満足されているとの評価であった。

2) 働きやすい職場環境について

- ・部署員が計画的に有給休暇を取得し、年間13日以上を取得ができるようにした。結果2月末で全員が取得することができた。
- ・留守番当番・電話当番(24時間連絡体制)の担当者確認を朝礼や定期ミーティングで実施した。他部署の協力もあり、留守番がおけない場合の対応を行う事ができた。

3) 事業所運営の最適化について

- ・入院入所時の情報提供と退院支援を積極的に行った。入院時情報提供については入院された利用者全員に実施できた。
- ・浜かっばいきいき電子@連絡帳・ミーナネットの活用を推進した。特にターミナル期や医療依存度の高い利用者に対して利用することができた。今後も積極的に活用していく方針。

(2) 実績報告

1) ケアプラン作成件数 (予防含む)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平成30年度	95	99	95	92	92	95	93	95	92	90	88	88	1,114
令和元年度	89	88	89	85	83	87	84	84	86	82	87	84	1,028

2) 一人当たり担当件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
平成30年度	38.0	39.6	38.0	36.8	38.6	38.0	37.2	38.0	36.8	36.0	35.2	35.2	37.3
令和元年度	32.6	32.2	32.6	31.1	30.4	31.9	30.8	30.8	31.5	30.0	31.9	30.8	31.4

3) 訪問調査件数 (美浜町委託事業)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平成30年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
令和元年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

病診連携 紹介実績

	医療機関名	内科	小児科	外科	整形外科	脳神経外科	皮膚科	泌尿器科	産婦人科	眼科	耳鼻咽喉科	合計
美浜町	榊原医院	5	0	1	0	1	0	0	0	0	0	7
	(医) 顕心会 辻医院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	新美医院	2	0	0	0	6	0	0	0	24	2	34
	(医) 浜田整形外科・内科クリニック	46	3	30	20	34	8	6	5	1	27	180
	前田医院	102	0	18	9	12	3	2	1	1	4	152
	美浜クリニック	92	0	0	3	7	3	3	0	0	0	108
	渡辺病院	16	0	9	29	13	1	4	4	2	6	84
	きただ接骨院	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	2
	にわ接骨院	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	6
	老人保健施設 サンバーデン	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
	かわむら歯科	0	0	0	0	2	0	0	0	0	1	3
	榊原歯科クリニック	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
橋本歯科	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
南知多町	(医) 上床医院	14	0	2	3	6	2	1	0	1	0	29
	(医) 大岩医院<豊浜>	30	0	10	10	29	1	1	0	3	2	86
	大岩医院<内海>	31	0	1	3	1	6	2	0	0	1	45
	かっぱのお家クリニック	15	0	3	5	5	0	0	0	0	1	29
	篠島診療所	18	0	0	0	2	0	0	0	1	4	25
	白井医院	21	0	2	1	7	1	1	0	0	2	35
	夏目医院	6	0	1	0	1	2	0	0	0	2	12
	日間賀島診療所	3	0	1	0	1	0	0	0	0	0	5
	水野医院	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	みどりの風 南知多病院	55	0	15	20	9	20	4	1	2	6	132
	大地の丘	17	0	0	0	1	0	0	0	0	0	18
	特別養護老人ホーム あい寿の丘	12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	12
	グループホーム よつ葉	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
	日間賀島接骨院	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	3
	柳接骨院	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	3
	大岩歯科医院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
	竹内歯科医院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
富歯科医院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	

	医療機関名	内科	小児科	外科	整形外科	脳神経外科	皮膚科	泌尿器科	産婦人科	眼科	耳鼻咽喉科	合計
武豊町	AGC株式会社 愛知工場 健康管理センター	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
	石川医院	9	0	0	0	1	1	1	0	0	0	12
	石川眼科	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0	5
	石川病院	8	0	1	7	1	0	0	0	0	0	17
	奥村医院	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	くめクリニック	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	榊原整形外科	2	0	1	4	1	0	0	0	0	0	8
	じこう医院	2	0	0	0	1	0	1	0	1	0	5
	耳鼻咽喉科武豊醫院	0	0	0	0	1	0	0	0	0	3	4
	杉石病院	3	1	1	4	4	0	0	2	1	0	16
	すこやかクリニック	4	0	0	0	0	0	0	0	0	1	5
	ちゅうや整形外科	0	0	0	2	0	0	0	1	0	0	3
	内科・外科 渡辺医院	2	0	0	0	0	0	1	1	0	0	4
	なかしまキッズクリニック	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	なしの木眼科	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
	日油株式会社愛知事業所診療所	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	毛受医院	2	0	1	1	0	0	0	0	0	0	4
よしかねクリニック	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
介護老人保健施設 榊原	5	0	0	2	4	0	1	1	3	1	17	
半田市	青山外科	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2
	クリニック・パパ	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2
	斎藤眼科	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	2
	酒井内科・皮膚科	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
	JFEスチール 知多製造所健康管理センター	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	2
	中野整形外科	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2
	花井クリニック	2	0	0	0	0	0	2	1	0	0	5
	半田眼科クリニック	2	0	0	0	6	0	0	0	2	0	10
	半田市立半田病院	65	10	4	23	11	1	6	6	2	2	130
	半田中央病院	2	0	0	1	3	0	2	0	0	0	8
	藤田病院	0	0	0	0	2	0	0	1	0	0	3
	ふたばクリニック	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	2
	もみやま医院	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	3
介護老人保健施設 LA・LA・LA	1	0	0	1	2	0	0	0	0	0	4	
上記以外	9	1	1	2	1	0	0	0	1	2	17	

	医療機関名	内科	小児科	外科	整形外科	脳神経外科	皮膚科	泌尿器科	産婦人科	眼科	耳鼻咽喉科	合計
常滑市	整形外科いしいクリニック	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
	鷹津内科・小児科	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
	竹内内科小児科	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
	常滑市民病院	10	0	7	7	5	0	1	1	0	0	31
	中村クリニック	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
	西知多こころのクリニック	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	2
	藤田医科大学 中部国際空港診療所	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
	常滑市保健センター	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
阿久比町	眼科富田クリニック	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
	寿一会 佐々眼科	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
	竹内整形外科・内科クリニック	2	0	0	3	0	0	0	0	0	0	5
	デンソー阿久比診療所	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	メディコ阿久比	5	0	0	0	2	0	0	0	0	0	7
東浦町	前田クリニック	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	みたに整形外科	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
	やまもとクリニック	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
知多市	知多小嶋記念病院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
	中井内科クリニック	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
	西知多リハビリテーション病院	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
	ナガイセントラル歯科	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
東海市	公立西知多総合病院	3	0	0	0	0	2	0	0	0	0	5
	愛知製鋼診療所	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	あさくらクリニック	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	小嶋病院	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	本郷眼科クリニック	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
大府市	国立長寿医療研究センター	5	0	0	0	1	0	1	0	0	0	7
	あいち小児保健医療総合センター	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	2
	楓の丘子どもと女性のクリニック	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	豊田自動織機共和診療所	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
	なだか山クリニック	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	前原整形外科リハビリテーションクリニック	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1

医療機関名		内科	小児科	外科	整形外科	脳神経外科	皮膚科	泌尿器科	産婦人科	眼科	耳鼻咽喉科	合計
名古屋市	相生山病院	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2
	愛知県がんセンター	1	0	3	1	0	0	0	0	0	2	7
	大隈病院	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	2
	眼科杉田病院	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	3
	だいでうクリニック	3	0	0	0	0	0	0	0	3	0	6
	大同病院	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2
	中京病院	1	0	0	0	0	2	0	0	0	0	3
	東邦ガス診療所	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
	トラストクリニック	2	0	0	0	0	0	0	1	0	0	3
	名古屋市立大学病院	15	1	7	1	1	9	3	2	21	3	63
	名古屋医療センター	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	2
	名古屋掖済会病院	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	3
	名古屋記念病院	13	0	0	0	0	1	0	0	0	0	14
	名古屋市立西部医療センター	0	0	2	2	0	0	0	0	0	0	4
	名古屋市立東部医療センター	1	0	0	0	1	0	1	0	0	0	3
	名古屋第一赤十字病院	2	0	0	0	0	0	1	0	0	0	3
	名古屋大学医学部附属病院	3	0	0	1	3	0	0	1	3	2	13
	名古屋第二赤十字病院	0	1	0	0	0	1	1	0	0	0	3
	名古屋ハートセンター	2	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3
	成田産婦人科	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	2
はちや整形外科病院	2	0	0	1	0	0	0	0	0	0	3	
藤田医科大学ばんだね病院	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2	
名鉄病院	3	0	0	2	0	0	0	0	0	0	5	
名南病院	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2	
上記以外	10	0	1	2	3	0	0	3	1	0	20	
その他県内	安城更生病院	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
	海南病院	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
	刈谷豊田総合病院	8	0	2	1	0	0	0	2	0	0	13
	トヨタ自動車 衣浦健康管理室	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2
	藤田医科大学病院	9	2	3	2	11	0	6	0	6	5	44
	上記以外	8	1	3	4	0	2	0	4	3	1	26
愛知県外	18	4	1	7	6	2	2	5	3	1	49	
合計	773	27	136	207	216	68	60	51	100	87	1,725	

委員会活動報告

篠島診療運営委員会	105
手術部運営委員会	105
放射線運営委員会	106
救急・診療委員会	106
健康管理支援センター運営委員会	107
臨床検査技術科運営委員会	107
栄養管理委員会	108
保育所運営委員会	108
生活改善センター運営委員会	109
母子支援センター運営委員会	109
地域医療福祉連携センター運営委員会	110
リハビリテーション科運営委員会	110
資材委員会	111
倫理委員会	111
治験審査委員会	112
購買委員会	112
医療安全対策委員会	113
安全衛生委員会	113
防災対策委員会	114
院内感染対策委員会	114
廃棄物管理委員会	115
輸血療法委員会	115
医療ガス安全管理委員会	116
広報委員会	116
教育研修委員会	117
臨床研修管理委員会	117
臨床研修委員会	118
患者サービス向上委員会	118

医療情報システム委員会	119
診療情報管理委員会	119
コンプライアンス委員会	120
在宅療養支援委員会	120
人事考課制度推進委員会	121
クリニカルパス委員会	121
栄養・スキンケア委員会	122
糖尿病教育委員会	122
肝臓病教育委員会	123
摂食・嚥下障害委員会	123
緩和ケア委員会	124
化学療法委員会	124
権利擁護対策委員会	125
D S T 委員会	125
A C P 委員会	126
経営改善委員会	126
病床運営管理委員会	127

篠島診療所運営委員会

(開催回数：2回)

篠島診療所の運営に関する事項について協議し、離島における病院附属診療所としての円滑な運営を図ることを目的に開催される委員会である。

令和元年度は、へき地医療研修の受け入れにあたっての、診療所における指導体制について協議し、当面は現状を維持するものの、次年度以降も継続して協議していくこととした。

今後も島民の医療を確保すべく、安定した診療所運営を継続する。

手術部運営委員会

(開催回数：11回)

主な取り組み内容として、例年通り医療機器購入状況や手術件数、医療安全に関することを中心に報告し、共通認識を図った。その他関連事項についても必要に応じて協議内容とし、他職種への協力を依頼した。

今年度は、喫煙患者に麻酔科診察時に禁煙指導を実施してきたが守られず、手術を延期した事例が発生した。このことからパンフレットの見直しを行い、医師や外来・病棟看護師に協力を依頼し、働きかけを行い手術延期になるリスク発生の減少につながっている。麻酔科医不在による麻酔や合併症についても、医師や手術部看護師で外来、病棟に出向き説明を実施し患者の不安が最小限となるよう努めた。

また、ミニレクチャーの講師を医師と看護師のペアで2回実施した。今年度はこの2回にとどまったが、次年度以降も継続して地域住民へアピールできればと考える。

次年度も安全・安心な医療が提供できるよう、引き続き麻酔関連の説明や地域住民へのアピールについて検討し、取り組んでいきたい。

放射線運営委員会

(開催回数：3回)

第1回の委員会では平成30年度の放射線技術科の業務報告に加えて、個人被ばく歴の有無及び評価とガラスバッチ利用者名簿の変更について説明を行った。また造影剤と鎮痙剤の間診票の修正を行い、より分かり易いものへと変更することができた。

第2回の委員会では、ヨード造影剤使用に関するガイドラインが変更された件を受け、この新しいガイドラインに合わせて腎機能に応じた造影剤使用量やビッグアナイド系糖尿病治療薬の休薬など当院の造影剤投与マニュアルの改訂を行った。合わせて間診票に医師が直近の腎機能を確認する欄を設けるように修正することができた。この造影剤投与マニュアルの改訂とともにCT装置の更新が行われたことを地域の連携医療機関にアナウンスできるように冊子を作成することとなった。これを地域医療福祉連携部と協同して作成と配布を行った。

第3回の委員会ではまた医療法施行規則の一部を改正する省令が公布され、令和2年4月1日に施行されることとなった。当院でも放射線安全管理責任者の専任、施設ごとに必要な安全管理のための指針の作成、安全利用のための放射線業務従事者への研修などについて協議を行ったことで法改正への対応することができた。しかし施設間によって対応の差が見られるようである。

次年度は、この法改正について他施設の取り組み状況を調査し、必要であれば継続して対応する。またその他の案件にも適切に対処していきたい。

救急・診療委員会

(開催回数：12回)

主な取り組み内容は、昨年度より継続している医師不足のなか、地域の基幹病院として救急・診療体制を見直し、診療機能の継続がされるよう検討した。

救急外来では、診療時間内の救急車不応需減少を目指し、午前救急外来における有志医師によるファーストタッチの継続や、各科救急担当医2ndまでを新たに配置した。令和元年度の救急受入総件数は1,318件(前年度より+74件)、救急車不応需件数は218件(前年度より-153件)となり、不応需件数は減少傾向となった。

知多南部消防署との合同症例検討会は2回/年開催され、搬送患者の事例を共有し、BLS部会では、病院職員のBLS手技確認や、急変時の対応について振り返り検討を行なった。令和2年度は医師の増員が予定されており、更に救急車不応需減少を目指し診療体制の充実を図っていく。

健康管理支援センター 運営委員会

(開催回数：4回)

今年度の主な取り組み内容は、消費税増税に伴う次年度の健診料金の決定、健診センター開設以来行ってきた人間ドック基本コースの頸動脈エコーと甲状腺エコーの廃止検討、週休二日制に向けた健診業務の検討 等について協議した。

健診料金は、消費税増税分のみを値上げすることを基本に、各種団体特有の価格を無くし統一感をもつような料金体系へ見直しを行った。人間ドック検査項目は、人間ドック基本コースに、頸動脈エコーと甲状腺エコーを基本コースから外して値下げを行った。頸部エコーは、頸動脈エコーと甲状腺エコーの2つに分けてオプション項目とし、必要な方のみが受けられるようにした。

週休二日制に伴い、土曜日の健診業務の継続を検討したが、医師確保が困難との判断で、土曜日は休診とすることに決定した。土曜日健診者は平日に1名ずつ割り振ることで、件数減少がないようにすることが承認された。

その他、健診胃透視の問診変更、法定健診項目（ウロビリノーゲン）の一部追加などが承認された。また脳神経外科医師より提案された日本脳ドック学会の施設認定も取得を目指すことが決定され、それに伴い簡易知能評価検査を新たに行うことが決定した。

次年度は、健診受診者の満足度を上げるとともに、病院の収益向上に貢献できる様な健康管理支援センターを目指す。

臨床検査運営委員会

(開催回数：6回)

これまで年2回の開催であった本委員会を、隔月の年6回、定期開催とし、臨床検査技術科から病院全体に向けた情報発信や、各部署からの意見や要望などにも積極的に対応できる体制を整えた。なかでも昨年度新たに取り入れた味覚検査や、認知症関連検査などの紹介や、気送管による検体搬送時のインシデントから発した問題点の改善をはじめ、血液ガス分析装置の更新に伴う運用変更の周知や、医事課との点数に関する協議など、様々な情報を各部署と共有することができた。また同日他科受診時の検査項目重複をさけるための工夫については、各職種から様々な意見をいただき、効果的な対策をとることができた。パニック値発生時の医師への電話による報告の運用は何度か本委員会で取り上げたが、医療安全委員会の最終的な合意が得られず、次年度に持ち越しとなってしまった。

次年度への課題は、前年度持ち越しとなったパニック値報告の件に加え、さらなる臨床検査技術科からの情報発信を積極的に行っていきたい。また検査機器の大半が導入後10年を経過しており、老朽化による機器トラブルによって結果報告遅延がしばしば発生している。第十六次中期計画策定を見据えて、高額な検査機器の入れ替えに対する病院の理解が得られるようアピールを続けていきたい。

栄養管理委員会

(開催回数：4回)

患者さんに提供する食事がよりよいものになるよう検討している。

年2回実施される喫食率調査、嗜好調査の結果を検証し喫食率の更なる向上を目指し食事内容について検討を行った。

全国厚生連栄養士協議会から発信される全国統一献立の郷土料理に参加、アンケートを実施。患者さんから良好な意見をいただいている。また、いただいた意見を参考に今後の食事内容の検討を行った。

今後も引き続き食事内容の検討を行い、患者さんの食事満足度の向上につなげていく。

保育所運営委員会

(開催回数：4回)

院内保育所「かもめ園」の管理運営に関する事項について協議し、円滑な運営を図ることを目的に開催される委員会である。

令和元年度は、保護者に対するアンケートを継続実施し、保護者の満足度を測るとともに、意見集約を行うことで、さらなるニーズの把握に努めた。

12月には愛知県による実地指導調査が行われ、背の高い収納について、地震等への対策をとるよう指導があったことから、即座に安全対策を講じた。

また、看護職員以外の職種からも院内保育所利用の声が高まっていることから、定員の範囲内で受け入れを行うことが出来るよう運用の見直しを行った。

次年度も看護職員を中心に、安心して子どもを預けつつ、働くことが出来るよう、安定した保育所運営を継続する。

生活改善センター 運営委員会

(開催回数：4回)

《目的》

- ① 予防、治療、介護という医療、保健、福祉のすべての分野での支援活動に関係し「世界健康半島」の理念に基づき知多半島全域のJA組合員ならびに地域住を対象にした健康づくりに貢献をする。
- ② JA組合員ならびに地域住民への主体的な参加を支援するための活動に関して検討する。

地域住民の健康支援活動の一貫として、健康を題材とした調理実習、ミニレクチャー（健康講話）を開催している。

委員会では調理実習、ミニレクチャーの内容についての検討、参加人員の分析を行っている。

JAポイントカードにポイント付与を行っており参加者の約半数の提出がある。

母子支援センター 運営委員会

(開催回数：1回)

助産師を事務局とし、小児科、産婦人科の連携体制の確認や各種セミナー（母親教室、マタニティーヨガ、ベビーマッサージ、母乳育児相談、妊婦個別指導）の参加状況と分娩件数について月別で報告を行った。また、各種セミナー参加時の院内保育所利用について利用人員や問題点の有無について協議した。

美浜町が主催する「パパママ教室」（年4回 美浜町保健センターにて開催）に助産師が講師として参加し地域との繋がりを持った活動を行っている。また、武豊町の「産後ケア事業」に参画し次年度からは南知多町の同事業にも参加するなど助産師の活躍の場を広げている段階である。

次年度に向けて、産婦人科の女性医師が1名増員予定であり（常勤3名体制へ）、当院での帝王切開についても再開を目指している。

地域医療福祉連携 センター運営委員会

(開催回数：4回)

地域医療福祉連携部門の実績（病診連携、総合相談、入院時支援、退院調整、医療福祉相談、介護保険センター、訪問看護、短期入院協力事業）を定例報告した。

地域医療福祉連携部門が取り組んだ活動（利用者に活かす医療講座、住民公開講座、ACP住民講演会、花まつり）と、部門内における災害時初期対応訓練について報告した。

また、地域の医療・介護施設に訪問し意見交換した内容を周知する機会とした。

その他に、総合相談窓口フローチャートについて変更・修正がないことを確認した。

リハビリテーション科 運営委員会

(開催回数：2回)

(目的)

リハビリテーションに関わる診療の適正な活用と質の向上、および適正な運営を図ることとする。

(開催概要)

第一回は、平成30年度事業の業務実績、実施した重点項目、人事関係の報告および短時間通所リハビリ状況の報告を行った。

第二回は、令和元年度事業の業務実績と稼働状況を委員に説明。実施合計単位数は前年比80%であるが、リハビリ可動職員数も前年比80%の為、1人あたりのリハスタッフの仕事量は変化ない。また、訪問リハの件数が増えたのは、担当者を1名増やし、午前と午後の担当者を入れ替えた事による。

重点事項の、リハビリ提供体制の検討・地域包括ケア病棟入院料2の要件維持・地域連携の推進・短時間通所リハビリの定着は、概ね取り組みが実施できた。

今後は、住み慣れた地域で生き生きと生活できるよう、我々療法士が最大限に急性期から回復期、生活期へ関わり、実施数の増加と自宅生活が継続できるよう寄与したいと考える。

資材委員会

(開催回数：12回)

1. 目的：医薬品、検査用試薬、診療材料の採否の決定と効率的利用の検討、医療安全情報の伝達、保険査定状況報告
2. 令和元年度の活動内容
 - ・新規医薬品、診療材料の採否について
 - ・現採用薬品から後発・先発薬品への変更について
 - ・添付文書改訂情報
 - ・効能効果、用法・用量の追加変更
 - ・新医薬品の投与制限解除
 - ・不動在庫一覧
 - ・現在切り替え検討中の後発医薬品
 - ・医薬品の供給体制の回復状況について
 - ・脂肪乳剤の投与方法について
 - ・当院の糖尿病治療薬（配合剤）一覧
 - ・製造販売承認の承継と移管について
 - ・医薬品の自主回収と代替薬品の案内
 - ・医薬品の出荷調整の解除について
 - ・保険査定報告
3. 令和元年度の活動要約
 - ア) 新規仮採用医薬品は31品目を承認した。規格追加・採用復活・剤型変更等は35品目を承認した。医薬品70品目、院外専用医薬品2品目を採用中止とした。
 - イ) 新規申請診療材料は44品目を承認し、規格変更は6品目を承認した。診療材料18品目を採用中止とした。
 - ウ) 新規申請検査試薬は42品目を承認し、規格変更は6品目を承認した。検査試薬33品目を採用中止とした。
 - エ) 後発医薬品への切り替えは4品目を承認した。

倫理委員会

(開催回数：0回)

医師・診療に携わる者が行う医学研究及び医療行為において、患者の人権擁護の立場から倫理的配慮が図られているかどうかを審議することを目的に開催される委員会である。

当委員会は、申請がある都度開催する。

治験審査委員会

(開催回数：12回)

「医薬品の臨床試験の実施基準に関する省令(GCP省令)」に基づき、医薬品の製造承認、及び一部変更申請時に提出すべき資料の収集、また製造販売後の臨床試験などに関する計画・実施・モニタリング・監査・記録・解析・報告などに関する遵守事項を定めて、被験者の人権・安全及び福祉を保護し、かつ臨床試験の科学的な質と成績の信頼性を確保することを目的とする。

「非弁膜症性心房細動：対象疾患
既存の経口抗凝固薬の投与が困難な
80歳以上の非弁膜症性心房細動患者」

治験薬：エドキサバン

責任医師：循環器内科 富本茂裕

※実績 契約例数：6例

次年度は、さらなる治験案件を取得し治験業務の拡大に貢献できるよう取り組んでいきたい。

購買委員会

(開催回数：1回)

事業年度における固定資産（器械・備品・車輛）取得要望品を適正に審議し、効率的に固定資産取得を行うことを目的に開催される委員会である。

令和元年度固定資産取得状況一覧表に基づき取得結果を報告した。

また、令和2年度固定資産予算枠に対し、事務局より事前ヒアリングの結果ならびに必要性を説明後、各部署より追加説明を行い固定資産取得品の選定を委員会として行った。

医療安全対策委員会

(開催回数：12回)

令和元年度の医療安全報告提出件数は888件で昨年度より39件増加した。今年度より0レベルの報告も積極的な提出を推進した結果、888件中55件の提出があった。

毎月の医療安全報告書から2~3件を事前レポート検討部会で検討し委員会で共有と対策を行った。更に各部署で医療安全カンファレンスを実施しPDCAサイクルを機能させ医療安全の推進、共有、分析から対策を立案し再発予防に努めた。カンファレンス開催件数は84件、対策後の評価カンファレンスは42件であった。

令和元年度医療安全報告書件数(件)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	
75	57	69	92	68	70	
10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
82	89	74	74	61	82	893

委員会では年間計画を立案し医療安全対策委員による巡視を年12回実施している。結果は委員会で共有し、各部署へのフィードバックを行い改善に取り組んだ。今後も継続していく。今年度は各部署の目標に関連した内容と、医療安全の視点での5Sについて巡視を強化し全部署に関連した活動を実施した。

医療安全全体研修を年2回開催、更に臨時の研修を1回開催し、計画・運営を行った。医療安全全体研修参加率は、前期は外部講師を依頼し開催は1回であったため38%、後期は2回開催で55%であった。

安全衛生委員会

(開催回数：12回)

職員の業務上の災害防止及び健康増進を図ることを目的に開催される委員会である。

令和元年度については、例年実施しているメンタルヘルスケア研修会について、より実務的な知識を得るため、系列病院で実際に勤務している臨床心理士の方に講演を行っていただいた。

その結果として、講演終了後に講師の方に多くの質問や相談があり、メンタルヘルスケアについて必要な知識を習得することが出来た。

また、例年同様ストレスチェックやB型肝炎の予防接種、インフルエンザの予防接種を実施した。

防災対策委員会

(開催回数：2回)

知多厚生病院における火災、震災その他の災害の予防及び人命の安全並びに災害の防止を図ることを目的に開催される委員会である。

災害時の各班における個々の役割を理解するために、事前説明会と個々の打ち合わせを実施することで、災害訓練の導入部分を作り、質向上に寄与した。また、近隣住民を収容な班に配分することで、実在に即したかたちを作るとともに、事前準備も極力なくし、災害物品の準備部分から各自が知るきっかけを作った。

地域の2病院にも参加いただき、当該地域における医療体制の連携構築に努めた。

院内感染対策委員会

(開催回数：12回)

1. 下記の内容で報告・協議を行った
 - ・院内感染症報告について
 - ・院内感染対策リンクナース委員会報
 - ・抗菌剤使用報告
 - ・手指消毒剤の使用量について
 - ・部署別検出菌出現頻度報告
 - ・厚生労働省 院内感染対策サーベイランス事業の新着情報について
 - ・ICTラウンドについて
 - ・針刺し・切創事故報告について
 - ・知多半島医療圏感染対策連携会議について
 - ・マニュアルの変更について
 - ・抗菌薬と消毒薬の採用・削除について
 - ・研修会のお知らせ

2. その他の活動

全体研修として、令和元年5月29日に「結核について 薬剤耐性（AMR）対策アクションプランについて」を行った。令和元年12月11日、16日に「手と環境の調査報告 薬剤耐性率の報告」を行った。

廃棄物管理委員会

(開催回数：1回)

廃棄物処理及び清掃に関する法律に従って、適正に管理及び処理することを目的とする。

感染性廃棄物の排出部署を明記することとした。また、経費削減を目的として廃掃法に基づき、固形感染物を二重袋での廃棄について意見を聴取した。全体で約30%の費用削減効果が想定されるため、事務局案を作成し、看護部と協議のうえ、委員会に諮ることとした。

輸血療法委員会

(開催回数：6回)

令和元年度の活動は例年通り、2ヶ月ごとの輸血製剤・血漿分画製剤の使用量、輸血感染症の実施状況、廃棄血の本数及び廃棄金額、輸血用製剤の査定・再審査結果、輸血時副作用発生事例報告、血液製剤病棟保管時間調査報告に加え、①他院における輸血インシデント事例紹介、②分画製剤在庫数の見直しについても検討を行った。

①について、愛知県厚生連の他病院にて血小板製剤に混入物（細菌）を発見した事例を紹介。検査室から払い出す際には全く気付かれず、輸血実施の直前に看護師によって発見された。製剤の目視確認の重要性を再認識させられる事例でもあり、急遽看護部と検査科にて勉強会を開催し、外観確認の徹底とその重要性、製剤の取扱いなどを再周知した。

②について、グロベニンIとノンスロンは年々使用量が落ち込み、後々廃棄を出しかねない状況であった。これに対し、在庫数を削減する一方、供給部門と協力して、万一在庫不足に陥っても迅速に対応できる体制を整え、これまでのところ問題無く運用できている。

しかしながら病棟再編や患者数減少をうけ、今後更に他の多くの輸血用製剤においても同様な状況が予想される。善意からなる血液製剤を無駄にしないためにも、次年度は赤血球製剤を含めた輸血用製剤の効率的な運用法と在庫数の制定についてさらに協議をすすめていきたい。

医療ガス安全管理委員会

(開催回数：1回)

医療ガス（診療の用に供する酸素・各種麻酔ガス・吸引・医療用圧縮空気・窒素等）設備の安全管理を図り、患者の安全を確保することを目的とする。

医療ガス設備保守点検結果の報告および翌年度の年間計画について協議を行なった。設備点検結果を踏まえ、必要に応じて随時交換を実施していくこととした。

他院で発生した吸引器の複数人使用による感染事例を踏まえ、当院でも複数人使用の可能性があるため、必要最低限にて単独吸引の設備を講じることとした。

広報委員会

(開催回数：12回)

主な取り組み内容として、例年通り外部向けの広報誌を4回、院内向けの広報誌を3回発刊した。

外部向け広報誌の特集記事では、「正しい手洗い」を紹介しインフルエンザ等の感染症予防の啓発に努めたり、当院が求人している職種（看護補助・介護士）の仕事内容を紹介して採用につながる活動ができた。

院内向けの広報誌では院内感染を発生させた病院の謝罪会見事例を紹介するなど院内感染防止の取組みや手指消毒徹底への啓発を行った。

その他、年報を全面改定して、デザインの統一や内容の見直しとともに、作成プロセス管理を徹底し、発刊時期を例年より早めることができた。今後も定期的に見直しを行い、より良い年報を作成していきたいと考えている。

ホームページをリニューアルし、シンプルで明るいデザインを意識して見直しを行うとともに、スマートフォンにも対応したホームページに変更した。新型コロナウイルス関連情報もタイムリーに更新したことで、閲覧回数も増加した。

教育研修委員会

(開催回数：2回)

- ・全職員に共通して必要と考えられる教育・研修について、その体制・計画立案・実施・結果評価・評価フィードバックをすることで、より高度なチーム医療の構築を目指すこと。
- ・患者自身の医療への主体的な参加を支援するための活動（講演会・健康教室開催等）に関して検討すること。
- ・図書室運営に関する事項について協議し、円滑な運営を図ること。
- ・図書の購入・貸し出しについて必要な手続きを定め、遂行することを目的に開催される委員会である。

令和元年度については、4月に新規採用者オリエンテーションを実施し、7月から8月にかけて地元中学生、高校生を対象とした職場体験実習の受け入れを行うとともに、12月には日本農村医学会報告会を開催した。

臨床研修管理委員会

(開催回数：1回)

知多厚生病院及び関連病院、関連施設における医師臨床研修を統括管理することを目的に開催される委員会である。

令和元年度は、在籍する2名の初期研修医の1年間のローテート結果について報告するとともに、令和元年度をもって初期研修を修了する研修医の評価を行い、修了認定の了承を得た。

なお、初期研修医確保については、病院説明会等への積極的な参加により、多数の医学生について病院見学にまで繋げたものの、採用には至らなかった。

このことから、次年度は研修医確保に向けて、ホームページの見直しを行う他、多くの説明会への参加や医学生等の病院見学及び病院実習の受け入れを継続して行う。

また、在籍する研修医の研修がより一層充実するような研修内容の見直しを進めていく。

臨床研修委員会

(開催回数：1回)

研修医が初期研修の目的を達成するために、臨床研修プログラム、部署間・職種間との連携、研修医の処遇等を充実させることを目的に開催される委員会である。

当委員会においては、在籍する2名の初期研修医の1年間のローテーション管理を行っている。また、研修医確保への取り組みとして、各種病院説明会等へ参加した他、医学生について多数の病院見学や病院実習の受け入れを行った。

なお、当院では初期研修医のへき地医療研修についても積極的な受け入れを行っており、令和元年度は24名を受け入れた。

次年度は、研修医確保に向けて、ホームページの見直しを行う他、多くの説明会への参加や医学生等の病院見学及び病院実習の受け入れを継続して行う。

また、在籍する研修医の研修がより一層充実するような研修内容の見直しを進めていく。

患者サービス向上委員会

(開催回数：6回)

患者サービス向上委員会は、『患者さんから選ばれる病院』を目指し、より良い患者サービスを提供し、患者満足度の向上を図ることを目的とする委員会である。

令和元年度は、聴覚に障がいがある患者さんを補助するツールとして、「耳マーク」および「筆談記録用紙」を導入し、職員に周知活動を行った。

導入に伴い、各部署へ現状の運用を確認し、患者さんの利便性を高めるために部署間で協議したことで、より良いものとする事が出来た。

医療情報システム委員会

(開催回数：12回)

例年通り月間のNEC作業内容の報告と、システム障害への対応について報告を行いながら、各々の部署対応が必要な類似案件がないか確認を行った。

また、電気設備年次点検やサーバの定期再起動も例年通り実施し、委員会を通して周知を行った。

5月には新元号へ変わるにあたっての対応があり、電子カルテ・医事会計システム等のシステム面での変更内容をNECへ確認を取りながら実施した。

他に、病床の稼働率を職員が確認できるようにするため、電子カルテのログイン画面へ空床状況・稼働率を記載(10分間隔で最新情報へと更新される)することでカルテログイン時に目を通すことができる環境を作成した。

次年度も、医療情報の管理・運営の向上を目指し、医療情報システムが円滑かつ安定稼働することにより、病院の発展に寄与できるよう取り組んでいきたい。

診療情報管理委員会

(開催回数：5回)

例年通り、退院サマリーの記載率や症例件数、帰宅先の状況報告を行った。

退院サマリーの記載率向上を目指し、各医師に督促を行った結果を委員会にて報告、更衣室や医局に貼り出すことで、意識向上を目指した。

14日以内の退院サマリー作成率が100%に近づくよう督促活動は今後も継続していく。

診療録開示要領に関して現状を踏まえた上で修正を行った。

また、診療記録の保管に関しても人員を配置し整理を行い、他部署より保管依頼があった場合の運用も変更する等診療記録の管理体制を整えた。

今後も、退院サマリー記載率向上や診療録に関して改善すべき点があれば改善を行っていく。

コンプライアンス委員会

(開催回数：6回)

法令、道徳、社会規範、倫理、内部規定について公正かつ公平な業務遂行を行うために、全職員がコンプライアンスに関する認識を深め、共通に遵守することを目的に開催される委員会である。

令和元年度は、コンプライアンスに係る態勢の強化を図るため、これまで1年に4回(6・9・12・3月)の委員会開催であったところを5回(4・7・10・1・3月)の開催(2月臨時開催)とし、的確な状況の把握と、遅滞ない報告に繋げることとした。

また、コンプライアンスに係る意識醸成を高める目的で、職員に対する自己点検を実施するとともに、各事業所で発生したコンプライアンス事案を院内で共有し、当院での未然防止に努めた。

反社会的勢力等の排除を掲げる中で、暴排条項の締結を必要とする団体の範囲並びに記載すべき項目等が見直されたため、これまで適用外となっていた団体についても新たな様式に基づき同条項を締結することとした。

次年度は、職員に対して繰り返しコンプライアンスに係る教育並びに情報提供と共有を行い、個々の意識を高めつつ、コンプライアンス事案の撲滅を目指していく。

在宅療養支援委員会

(開催回数：12回)

毎月、訪問看護・居宅介護支援事業所から退院後の経過報告と退院後の振り返りを行った。人工呼吸器患者の在宅療養期間中も継続して情報共有することで、医療依存度の高い退院困難事例の課題を整理し今後の支援のあり方を検討した。

入退院支援における総合カンファレンス実施については、在宅療養支援検討会と連携し取り組むことで、入院7日以内に概ね実施できるようになった。その他に、退院支援は流れの再確認、退院調整記事のテンプレートの作成と周知、入院時支援はフロー図の作成と周知を行った。

マニュアルは「療養病床入所の流れ」「訪問看護利用の手順」を見直した。

退院指導パンフレットは既存のものを見直すと共に、新たに「座薬」「膀胱留置カテーテル」を手がけた。「膀胱留置カテーテル」は次年度4月に完成予定。

引き続き入退院支援の質の向上に努め、効率的な病床運営へつながるよう取り組んでいきたい。

人事考課制度推進委員会

(開催回数：2回)

人事考課制度の運用面に関する課題・問題点を協議・検討し、制度の円滑な運用を図ることを目的に開催される委員会である。

令和元年度は、前年度の考課結果を報告する中で、職種間にみられる評価の甘辛について意見を交換しあうとともに、各部署長へのフィードバックを行い、次年度以降の改善を促した。

今後も、適正な制度運用に向けて周知活動を継続する。

クリニカルパス委員会

(開催回数：6回)

今年度は昨年度と同様に委員会を1回/奇数月とし、その代わりに偶数月をパス分析の月とした。分析には、医師、看護師だけではなく他職種もメンバーとし、専門的な立場から意見交換が行えるようにした。パス分析にはDWHを使用し、その結果を基に評価、見直しを行った。医事課にはパスがDPCとリンクし、妥当か否かの評価について協力を依頼した。令和元年度は2つのパス分析を行ったが、次年度は分析数を増やし、また患者用パスやアセスメントも見直しを行い、使いやすいパス作成をしていきたい。

今年度も新人への教育のひとつとして、パス委員の医師と看護師でパスについての講義を行った。次年度も継続していくが、全職員にクリニカルパスについて理解してもらうために、新人対象だけではなく全職員に向けた講義をしていきたい。

栄養スキンケア委員会

(開催回数：6回)

知多厚生病院に関わるすべての患者を対象として、栄養障害のある患者を抽出し、統一した基準にて栄養管理を行うこと、また褥瘡発生の予防およびスキントラブルにおける創部の処置方法と栄養管理について検討を行うことを目的として活動を行っている。

週1回のNSTラウンド、週1回のスキンケアラウンド、月2回の栄養サポート外来、月1回の褥瘡外来を実施した。また、知識の向上および情報共有を目的とし年6回のNST栄養スキンケア勉強会および、年9回ランチミーティングを開催した。その他Webセミナー等も開催し、知識習得の場を提供できたと考える。10月には地域に向けた勉強会として「第21回高齢者の褥瘡と栄養を考える会」を主催し、参加者64名であった。

今年度の院内新規褥瘡発生率は新規院内発生率が0.57%と比較的良好な成績だった(平成30年度は0.83%)。発生しても短期間で治癒することが多かった。やや高い傾向であった。次年度も引き続き0.6%以下を目標に、よりいっそうの予防ケアおよび周知教育を行っていきたい。

院内全体の栄養とスキンケアに関する知識の向上を図った。次年度も引き続き、学会参加や発表、勉強会の開催等を積極的に行い、新たな情報を発信していきたい。

糖尿病教育委員会

(開催回数：6回)

主な取り組み内容として例年通り委員会を6回、糖尿病教室を6回開催した。

糖尿病教室の運営は、医師、栄養士、看護師、薬剤師、臨床検査技師、理学療法士が専門知識を活かして連携し、講義4回と食事会2回を実施した。

糖尿病教室終了後アンケートを実施して、委員会で評価している。参加者の生の声を聞く事で、次回も参加したいと思えるより良い教室を運営していきたいと考える。次年度は、糖尿病教室を講義形式から患者さんとのコミュニケーションを重視した比較的小規模(双方向・対話形式)の教室にしていくことを計画している。

委員会開催ごとに各部署より糖尿病の最新トピックスを持ち寄り情報共有しているので、今後は患者さんだけでなく、当院のスタッフにも糖尿病についての知識を更に広めていくこと、リスクを減らすことを目標として糖尿病患者さんへのケア向上に努めていきたい。

肝臓病教育委員会

(開催回数：5回)

肝臓病委員会は、肝臓病を患っている患者さんに正しい知識や治療情報を提供する事で、患者さん自身に自分の病気について正しく理解していただく事を目的とし、平成14年に結成された。内科医師、内科系看護師(外来)、薬剤部、栄養科、臨床検査技術科、医事課より選出され7名で構成されている。

当委員会では、年5回肝臓病教室を開催し、肝臓病について各委員が専門的な立場から参加者に有益となる講義を行っている。平成14年9月に第一回を開催してから今年度中に開催回数は100回を超える。

C型肝炎ウイルスの一部には、治療薬に耐性であるウイルスも存在していたが、近年新しい治療薬が次々に開発され、高い治療効果も望める時代へ移ろうとしている。また、de-novo肝炎や非アルコール性肝疾患患者の増加など新たな肝疾患対策が必要とされ始めている。

今後も肝臓病委員会に関わるスタッフが、新しい治療法の正しい知識を習得し肝臓病教室で地域の皆様に伝えていきたいと思っている。

一方、課題は開催当初50名近くいた参加者が減っていることであり、病院の週休2日制導入に伴い今まで行ってきた土曜日の教室開講が困難となったことを検証しなければならない。

令和2年度からは形を変え、年に1～2度程度の開催で情報を発信していく予定。

摂食・嚥下障害委員会

(開催回数：5回)

活動内容として、委員会開催月にはST、管理栄養士、委員会メンバーと共に昼食ラウンドを行い、食事摂取方法や姿勢の調整、食形体の検討、変更などを行った。6月の委員会では、業者による口腔ケア学習会を開催した。委員会開催月以外では、月に1部署の口腔ケアラウンドを行い、ケア回数や方法、物品などについて確認、評価を行った。

現在STを中心とした摂食機能療法の実施を行っているが、来年度以降委員会メンバーを初めとした看護師による嚥下評価、計画書の作成から摂食機能療法の実施、算定が行えるようマニュアル、各種文書の見直し、委員会内での学習会、実践などを行ってきたい。

緩和ケア委員会

(開催回数：6回)

緩和ケアチームの構成メンバーである、身体症状担当医師・精神症状担当医師・薬剤師・管理栄養士・がん性疼痛看護認定看護師を中心に、コンサルテーションを受けた院内のがん・非がん患者に対して身体的苦痛・精神的苦痛など全人的苦痛への緩和ケアに対する提案、副作用の確認などを毎週月曜日にラウンドを通して実施している。また、緩和ケアへの具体的な介入方法などについて周知を継続している。

令和元年度の緩和ケアチームへの依頼は、98名で主な疾患は胃がん・大腸がん（手術不適応患者含む）・乳がん・肺がん・膵臓がん・強直性脊椎炎などであった。依頼内容の多くは、がん性疼痛で、その他にせん妄や悪心や呼吸困難感の対応について依頼があった。

10月30日に緩和ケア委員会主催で全職員対象に緩和ケア学習会を開催、内容は第一三共株式会社「緩和ケアの薬物療法について」、当院薬剤師「オピオイドの使い分け」、認定看護師「緩和ケアについて」の3名で講義を行なった。

次年度は、非がん患者（心不全など）の緩和ケアにも取り組んでいきたいと考えている。また、院内の緩和ケア学習会を企画・開催し、委員会メンバーを含め、職員が緩和ケアの知識を深められるように支援していきたい。

化学療法委員会

(開催回数：6回)

主な取り組み内容としては、新規申請のあった化学療法レジメンの妥当性を委員会で検証・承認を行い、レジメン登録を行った。今年度の新規レジメン登録件数は5件であった。

また、新たな効能・効果を得た薬剤、経口抗がん剤についての情報提供に努めた。今年度は院内抗がん剤曝露対策の補完として経口抗がん剤の曝露対策マニュアルを新たに策定した。その他、抗がん剤に関わったインシデント報告及び対処法について協議の上、解決策を決定した。

近年、免疫チェックポイント阻害剤など新たな系統の薬剤が臨床にて使用されているが、新たな副作用、運用の難しさなど取り組むべき課題が増加している。

今後とも、当院抗がん剤治療の安全面を担うよう邁進していきたい。

権利擁護対策委員会

(開催回数：2回)

虐待対策委員会から権利擁護対策委員会に委員会名を変更したことに伴い、児童虐待対応マニュアル、DV対応マニュアル、高齢者（障害者）虐待対応マニュアルの変更を行った。

前年度対応を検討した2事例の虐待疑い患者の経過報告を行い、委員で情報共有した。引き続き経過を確認し、ケースに新たな動きがあった場合は、関係部署及び関係機関等と協議し支援を継続していく方針となった。その他、新規1事例の情報共有を行い、確認した。

虐待事例は様々な要素が複雑に絡み合っており構成されていることが多く、関係部署と関係機関等の連携、情報共有が今後も重要であると考えます。

DST委員会

(開催回数：12回)

平成26年度に愛知県の認知症対応力向上事業に参加したことを契機に院内でDSTサポートチームを結成し、サポートチームを中心にワーキンググループにて認知症患者対応マニュアルの作成や院内ラウンドを実施するなど、年々増加する認知症患者へ対応してきた。

認知症ケアの質的向上が必須となってきたことと診療報酬改定において「認知症」に対する評価がされたことに伴い、平成29年度より、これまでのワーキンググループからDST委員会として活動を開始した。

令和元年度は毎月DSTメンバーと病棟看護師によるDSTラウンドを行い、認知症患者に対する看護の負担軽減策やケアについてアドバイスをを行った。また、認知症全体研修会を令和元年6月18日に開催した。講師は名古屋第二赤十字病院総合内科宮川慶医師、テーマはせん妄対策についてであった。また委員会メンバーによる認知症全体研修会を令和2年2月25日に開催し、当院での事例報告を行い、職員に対する認知症ケアの知識と質向上に努めた。毎月の委員会では認知症ケア加算の算定状況や算定に必要な看護計画の立案状況などを報告し加算に対する意識向上を図った。

次年度も継続して活動を行うとともに、認知症患者対応マニュアルの内容充実を検討していきたい。

ACP委員会

(開催回数：10回)

臨床における倫理的検討事項のうち、人生の最終段階における医療・ケアを患者本人が家族や医療・ケアチームらとともに繰り返し話し合う取り組み（アドバンス・ケア・プランニング『ACP』）の普及啓発活動を通じ、地域の人々が真に望む終末期のあり方を考え、それが実践できる地域社会づくりに貢献することを目的として今年度発足した委員会。

1年を通して院内でのACP活動の認知・理解度を高めるとともに、質の向上と職員スキルの底上げのため、患者向けパンフレットの作成や、ACP介入基準や記録用紙、介入フローチャートなどのマニュアルの更新整備を継続して行った。3月には地域の医療機関で共通の患者向けパンフレットを作成することができ、次年度は行政へも拡大することを予定している。

外部的活動として、9月には地域住民向けに説明会を開催し啓発活動を行ってACPへの理解および周知を促進し、大変好評を博した。11月には二次医療圏内の医療機関および介護施設の職員向けの人材育成研修会を共催し、ACPに関わる職員のスキルアップ講習会を実施した。3月には当院職員向けの研修会を実施し、ACPへの理解促進・共通認識の醸成を図った。

次年度も継続して活動を行うとともに、ACPへの理解を院内・院外で高め、活動を充実させていきたい。

経営改善委員会

(開催回数：12回)

今年度より従来の経営改善の項目だけでなく、業務調整も視野に入れて新たな検討を行った。また、従来別開催されていた保険診療委員会・DPCコーディング部会・医師看護師業務負担軽減検討委員会も並行開催とし、働き方改革に伴う業務効率化を目指した。これらの変更に伴い、委員もある程度部署周知ができ、協議の議決における裁量権を持ち合わせた技師長・室長級を招聘することにより、院内でも主要な委員会として、機能の格上げを行った。

令和元年度の本委員会は、経営改善策の検討として、特に付加価値向上策の協議を行った。そのなかでは、当院の現状を客観的に測定すべく、各種指標の厚生連病院ランキングを作成し、当院の強みや弱みを定量的に把握することを試みた。これらの指標をもとに、原価率の妥当性、外来CT増加策の検討、外来指導料の増加策検討などを行った。

また、業務調整の分野では、これまで冗長的に実施していた各種の患者教室の見直しを図り、効率性と集客率の高い患者教室の検討を行った。特にこの検証において効果的であったのは、住民公開講座の集客率であり、従来の様式にとらわれることなく、「映画祭」という新しい発想のもと実施した結果、前回22名の参加者が126名まで飛躍的に向上した。

その他、保険診療における検討も行っており、近年は特に他の同規模病院と比較して低い査定率となっている。次年度は新型コロナウイルスの影響もあり、特に当委員会で検討すべき経営改善や業務調整が重要であると感じている。

病床運営管理委員会

(開催回数：12回)

平成30年12月に実施した病床再編をうけ、効率的な病床運営を最大目標として、年間を通じて検証を行った。その結果、病床利用率は全ての病棟において目標利用率の94%に近い稼働となった。これらはひとえに病床運営管理委員会における議論を各病棟が真摯に受け止め、運営を行ったからに他ならない。特に、5月に行われた「ベッドコントロールワークショップ」では、総勢26名の関係者が集結し、刻々と変わる病院状況のなかで、いかに臨機応変な対応ができるのかを、グループワークにて協議した。結果的に、このワークショップが功を奏したのか、5月中旬より病床利用率は急上昇し、新型コロナウイルスが流行するまでの間、高稼働を維持することができた。これらの成功体験をもとに、本委員会では、更なる検証を行った結果、現在の病床機能の構造では、救急車搬送患者の更なる受け入れが困難であることと、急性期病棟からの受け皿が不足していることが課題として挙げられた。

また、今後の地域の人口動態情勢を鑑みた結果、更なる改革の検討すなわち病床の再々編の検討に至っている。令和2年3月現在、本委員会では、病床再々編の必要性及び構成を検討中である。

今後も、本委員会は病床機能の効率的な活用方法の検討を通じて、広く地域の皆さんに貢献できる策を積極的に検討する予定である。

委員会活動報告

患者教室・院内講座……………	131
学会・研究会発表……………	134
院外講演会・勉強会講師……………	137
論文・雑誌掲載……………	141

■ 患者教室・院内講座

1. 住民公開講座

日時	テーマ	講師	人数
8月17日 14:00～15:00	乳がんのはなし	川瀬麻衣（医師）	20
2月1日 10:00～12:00	認知症をテーマとした映画上映 認知症サポートチームの取り組み	福島庸行（医師）	126

2. ミニレクチャー

日時	テーマ	講師	人数
5月17日 13:00～14:00	不整脈・心臓疾患の予防	富本茂裕（医師） 大岩れい子（臨床検査技師）	12
6月21日 13:00～14:00	冷え症、倦怠感を感じたときは？	丹村敏則（医師） 佐藤友世（薬剤師）	13
7月19日 13:00～14:00	筋力アップで寝たきり予防	村元雅之（医師） 森下浩巳（理学療法士）	12
8月16日 13:00～14:00	生活習慣予防！検診結果を見てみよう	青山晃士（保健師） 伊藤美香利（管理栄養士）	12
10月18日 13:00～14:00	認知症予防のためのエクササイズ	森本浩巳（理学療法士）	14
11月15日 13:00～14:00	冬期に向けた感染症予防	仮屋小百合（看護師） 石川奈央佳（薬剤師）	4
12月20日 13:00～14:00	あなたの手術の日、手術室で何が行われる？！	成宮なつみ（医師） 山下君恵（看護師） 中村なほみ（看護師）	7
1月17日 13:00～14:00	鼠径（そけい）ヘルニアについて	杉戸伸好（医師） 榎本政美（看護師） 溝口龍太郎（看護師）	8

3. 調理実習

日時	テーマ	講師	人数
5月18,25日	だしの活用で減塩対策	伊藤美香利 (管理栄養士)	11
6月15,22日	冷え症解消、体を冷やさない料理	深見沙織 (管理栄養士)	6
7月20,27日	筋肉アップの食事術	山本来夢 (管理栄養士)	10
8月17,24日	夏ばて解消の食事	内田理恵子 (管理栄養士)	9
9月24,28日	和食のよさを見直そう	門田真希 (管理栄養士)	9
10月19,26日	認知症予防のための食事	伊藤美香利 (管理栄養士)	6
11月16,30日	免疫力を落とさないように！！	内田理恵子 (管理栄養士)	8
12月14,21日	カルシウムをとろう	門田真希 (管理栄養士)	10
1月18,25日	体の中から温めよう！	深見沙織 (管理栄養士)	7
2月15,22日	鉄足りてますか？	内田理恵子 (管理栄養士)	7

4. 糖尿病教室

日時	テーマ	講師	人数
4月20日 10:00~11:30	糖尿病について 糖尿病と検査について	丹村敏則 (医師) 井上智美 (臨床検査技師)	30
8月17日 10:00~11:30	糖尿病と歯周病について 夏の食事について	榊原 武 (歯科医師) 深見沙織 (管理栄養士)	23
10月5日 10:00~11:30	糖尿病について 運動療法について	丹村敏則 (医師) 栞山 碧 (理学療法士)	25
12月14日 11:00~12:00	正月料理について	深見沙織 (管理栄養士)	20
2月15日 10:00~11:30	フットケアについて 薬物療法について	吉田健一 (看護師) 高松真衣 (薬剤師)	25

5. 肝臓病教室

日時	テーマ	講師	人数
5月18日 10:30~12:00	アルコールと肝臓病	高橋佳嗣 (医師)	1
9月21日 10:30~12:00	血液検査結果について 慢性肝炎について	中尾謙太 (臨床検査技師) 高橋佳嗣 (医師)	3
11月16日 10:30~12:00	お薬について 慢性肝炎の治療について	佐藤友世・鈴木咲芳 (薬剤師) 高橋佳嗣 (医師)	4
1月18日 10:30~12:00	食事療法について 肝硬変について	内田理恵子 (管理栄養士) 高橋佳嗣 (医師)	4

■ 学会・研究会発表

主催／タイトル	発表者／職種	日付／場所（※開催地）
第70回日本東洋医学会 年次学術総会 「急性期病棟に入院し初期の病態に漢方薬を活用した6年間の症例の詳細の検討」	丹村 敏則 (医師)	令和元年6月29日 京王プラザホテル (東京都)
第31回日本糖尿病腎症研究会 「糖尿病腎症重症化予防のための方策」	丹村 敏則 (医師)	令和元年11月30日 岡山コンベンションセンター (岡山県)
第19回愛知県医学検査学会 「当院で経験したファブリー病の1症例」について	中尾 謙太 (臨床検査技師)	令和元年7月7日 (名古屋市)
第11回日本臨床一般検査学会 「ファブリー病の1症例」について	中尾 謙太 (臨床検査技師)	令和元年8月31日 (春日井市)
令和元年度第1回輸血担当者連絡会議 「輸血用血液製剤の院内在庫について」	植田 祐介 (臨床検査技師)	令和元年9月7日 (瀬戸市)
第58回中部圏支部医学検査学会 「臨床検査技術科における神経心理学検査の概要と問題点」について	村上 智美 (臨床検査技師)	令和元年10月12～13日 (岐阜県 岐阜市)
第58回中部圏支部医学検査学会 「赤血球製剤の病棟保存時間短縮に向けた取り組み」について	植田 祐介 (臨床検査技師)	令和元年10月12～13日 (岐阜県 岐阜市)

主催／タイトル	発表者／職種	日付／場所（※開催地）
日本臨床代謝栄養学会 2次性サルコペニアによる摂食嚥下障害から3食経口摂取可能となった2症例	石川 ゆき (言語聴覚士)	令和2年2月27日 東京開催予定だったが、新型コロナウイルスの影響で書面開催となる
第68回日本農村医学会学術総会 危機的状況下における支援体制確立への取り組み 『支援を受ける中規模病院の立場から』	杉浦 正生 (臨床工学技師)	令和元年10月17～18日 ホテル日航ノースランド帯広ほか (北海道 帯広市)
第13回日本緩和医療薬学会 ヒドロモルフォン塩酸塩錠の使用により再発乳癌の肺転移による呼吸困難感、咳嗽が緩和できた一例	末吉 真樹 (薬剤師)	令和元年5月31日 ～6月2日 幕張メッセ (千葉県 千葉市)
第8回日本くすりと糖尿病学会 学術集会 糖尿病透析予防指導における薬剤師の関与	高松 真衣 (薬剤師)	令和元年9月7日～8日 札幌コンベンションセンター (北海道 札幌市)
第68回日本農村医学会学術総会 ヒドロモルフォン塩酸塩錠の使用により再発乳癌の肺転移による呼吸困難感、咳嗽が緩和できた一例（続報）	末吉 真樹 (薬剤師)	令和元年10月17～18日 ホテル日航ノースランド帯広ほか (北海道 帯広市)
令和元年度 第3回厚生連薬剤師会相互啓発研修会 骨粗鬆症患者と薬剤師の関わりについて	後藤 恵利佳 (薬剤師)	令和元年11月16日 JA あいちビル (名古屋市)
DiNQL大会2019 「病棟再編後のDiNQLデータの変化」	濱野 美香 (看護師 ・看護管理室)	令和元年11月11日 大阪国際交流センター (大阪府 大阪市)

主催／タイトル	発表者／職種	日付／場所（※開催地）
第 47 回厚生連看護師研修会 「看護師のオムツの知識と選択 方法に関する実態調査」	田中 理奈 (看護師 ・3 階病棟)	令和元年 11 月 23 日 ウイルあいち (名古屋市)
第 19 回中部地方会固定チームナ ーシング研究会 「外来における応援体制～応援 体制の確立に向けた取り組み～」	柳沢 みすず (看護師 ・外来 2 A B)	令和元年 11 月 30 日 ウインクあいち (名古屋市)
第 68 回日本農村医学会学術総会 知多半島における ACP 推進活動 の 1 例	鈴木 直子 (ソーシャルワーカー)	令和元年 10 月 17 日 ホテル日航ノースランド帯広 ほか (北海道 帯広市)
第 68 回日本農村医学会学術総会 メインシンポジウム 離島におけるオンライン診療及 びオンライン服薬指導実践によ る有用性の検証と課題	田實 直也 (事務)	令和元年 10 月 17 日 ホテル日航ノースランド帯広 ほか (北海道 帯広市)

■ 院外講演会・勉強会講師

主催／タイトル	発表者	日付／場所（※開催地）
知多薬剤師会 勉強会 「最近の糖尿病診療について」	丹村 敏則 (医師)	令和元年 11 月 13 日 半田市民交流センター (半田市)
大竹市医師会年次講演会 「高齢者診療における漢方薬」	丹村 敏則 (医師)	令和元年 9 月 20 日 エスポワール大竹 (広島県 大竹市)
公立陶生病院合同講演会 「地域連携と高齢者医療」	丹村 敏則 (医師)	令和元年 10 月 3 日 公立陶生病院講堂 (瀬戸市)
能代厚生医療センター 地域講演会 「病棟における漢方薬の役割」	丹村 敏則 (医師)	令和元年 10 月 29 日 能代厚生医療センター講堂 (秋田県 能代市)
知多地区マンモミーティング 第 11 回勉強会／施設報告「日常 業務での疑問点：Virtual Grid の 導入」	岩佐 茉美 (診療放射線技師)	令和 2 年 2 月 8 日 公立西知多総合病院 (東海市)
知多地区微生物研究班勉強会 「CRE、CPE」について	山下 愛 (臨床検査技師)	平成 31 年 4 月 16 日 (半田市)
半田保健所/神経系難病患者 ・家族教室 運動機能訓練に関する説明と実 技	森下 浩巳 (理学療法士)	令和元年 9 月 13 日 (半田市)
美浜町/介護予防リーダー 養成講座 オーラルフレイルについて	茶谷 公治 (言語聴覚士)	令和元年 12 月 2 日 (美浜町)
美浜町/介護予防サポーター 養成講座 加齢に伴う嚥下機能の変化につ いて	茶谷 公治 (言語聴覚士)	令和 2 年 2 月 21 日 (美浜町)

主催／タイトル	発表者	日付／場所（※開催地）
知多郡医師会 美浜・南知多 医師団 合同カンファレンス 医薬品情報の利活用について	藤森 和則 (薬剤師)	令和元年 10 月 10 日 知多厚生病院
生活改善支援ミニレクチャー 冷え症、倦怠感を感じたときは？	佐藤 友世 (薬剤師)	令和元年 6 月 21 日 知多厚生病院
令和元年度 第 1 回 チーム医療 に役立つ漢方医学入門 「小青竜湯」について	佐藤 友世 (薬剤師)	令和元年 6 月 12 日 知多厚生病院
令和元年度 第 2 回 チーム医療 に役立つ漢方医学入門 「防風通聖散」について	佐藤 友世 (薬剤師)	令和元年 9 月 11 日 知多厚生病院
令和元年度 第 3 回 チーム医療 に役立つ漢方医学入門 「半夏厚朴湯」について	佐藤 友世 (薬剤師)	令和元年 12 月 4 日 知多厚生病院
緩和ケア勉強会 オピオイドの使い分け	末吉 真樹 (薬剤師)	令和元年 10 月 30 日 知多厚生病院
生活支援ミニレクチャー インフルエンザの予防と お薬について	石川 奈央佳 (薬剤師)	令和元年 11 月 15 日 知多厚生病院
肝臓病教室 肝炎治療薬と漢方薬について	鈴木 咲芳 (薬剤師)	令和元年 11 月 16 日 知多厚生病院
社会福祉法人あぐりす実りの会 「感染予防研修～食中毒につい て～施設での感染症対策の疑問」	仮屋 小百合 (看護師・感染管理 認定看護師)	令和元年 7 月 16 日 特別養護老人ホーム 大地 の丘 (美浜町)
知多半島医療圏がん看護連携会 「2019 年度知多半島がん看護基 礎研修」	大井 初江 (看護師・がん性疼 痛看護認定看護師)	令和元年 7 月 27 日 半田市立半田病院 (半田市)

主催／タイトル	発表者	日付／場所（※開催地）
八千代病院 「病院祭：八千代祭 地域住民レクチャー」	横田 剛裕 (看護師・脳卒中リハビリテーション看護認定看護師)	令和元年7月28日 八千代病院 (安城市)
特別養護老人ホーム大地の丘 「ポジショニング」	荻巣 昌子 (看護師・皮膚排泄ケア認定看護師)	令和元年8月20日 特別養護老人ホーム 大地の丘 (美浜町)
医療法人 笠寺病院 講義ならびに実施指導	近藤 貴代 (看護師・皮膚排泄ケア認定看護師)	令和元年8月28日 笠寺病院 (名古屋市)
すみれ訪問看護ステーション 「在宅ケアにおける褥瘡事例検討会」	近藤 貴代 (看護師・皮膚排泄ケア認定看護師)	令和元年10月12日 半田市住吉福祉文化会館 (半田市)
公益社団法人日本オストミー協会 「ストーマ保有者の体験」	荻巣 昌子 (看護師・皮膚排泄ケア認定看護師)	令和元年10月19日 東海市農業センター (東海市)
社会福祉法人あぐりす実りの会 「感染予防研修～インフルエンザ・ノロウイルス予防～」	仮屋 小百合 (看護師・感染管理認定看護師)	令和元年11月18日 特別養護老人ホーム 大地の丘 (美浜町)
国立病院機構名古屋医療センター 脳卒中隊による寸劇 「万一の時、家族に出来ることは？」	横田 剛裕 (看護師・脳卒中リハビリテーション看護認定看護師)	令和元年11月30日 名古屋医療センター (名古屋市)
知多半島医療圏がん看護連携会 「2019年度知多半島がん化学療法看護研修Ⅱ」	山本 和美 (看護師・がん化学療法看護認定看護師)	令和元年12月14日 公立西知多総合病院 (東海市)

主催／タイトル	発表者	日付／場所（※開催地）
医療法人 笠寺病院 講義ならびに実施指導	中野 みさと （看護師・摂食嚥下 認定看護師）	令和2年1月23日 笠寺病院 （名古屋市）
褥瘡症例発表会	中野 久美子 （看護師）	令和元年11月19日 （半田市）
企画担当者勉強会 知多厚生病院の広報活動～今、広 報に力を入れるのは何故か？～	田實 直也 （事務）	令和2年2月15日 厚生連本部 （長久手市）

■ 論文・雑誌掲載

発行／タイトル	掲載者／職種	日付／ページ
漢方と最新治療 28 巻 (4 号) 「脳出血回復期に誤嚥、窒息後に 人参養栄湯が有効であった 1 例」	丹村 敏則 (医師)	令和元年 11 月 25 日 p403-407
日本東洋医学会誌 70 巻 (4 号) 「急性期病棟入院初期に漢方薬 を活用した 6 年間、375 例の検討」	丹村 敏則 (医師)	令和元年 10 月 p409-413
日本東洋医学会誌 71 巻 (1 号) 「肝障害と急性硬膜下出血が合 併し西洋医学的治療が困難であ ったバセドウ病に炙甘草湯が有 効であった 1 例」	丹村 敏則 (医師)	令和 2 年 1 月 p71-76
日本農村医学会雑誌第 68 巻 6 号 (特集号) 知多半島における ACP 推進活動 の 1 例	鈴木 直子 (ソーシャルワーカー)	令和 2 年 3 月 P745~P746
医事業務 No. 560 離島におけるオンライン医療の 実践	田實 直也 (事務)	平成 31 年 4 月 15 日号 P36~P40
日本農村医学会雑誌第 68 巻 6 号 (特集号) 離島におけるオンライン診療及 びオンライン服薬指導実践によ る有用性の検証と課題	田實 直也 (事務)	令和 2 年 3 月号 P740~P741
病院羅針盤 No. 163 離島におけるオンライン診療及 びオンライン服薬指導実践によ る有用性の検証と課題	田實 直也 (事務)	令和 2 年 2 月 15 日号 P29~P35

